

令和3年2月19日（金）開催

令和2年度

司法修習生指導担当者協議会出席者名簿

※ 外字を含む氏名の方につき、一般的な漢字の表記にさせていただきました。御了承ください。

司法研修所

庁名	官職	担当	氏名	フリガナ	備考
東京地方裁判所	判事	民事	中吉徹郎	ナカヨシ テツロウ	45期
"	"	民事	桃崎剛	モモサキ ツヨシ	48期
"	"	刑事	鈴木巧	スズキ タクミ	44期
東京地方検察庁	検事		富田寛	トミタ カン	50期
"	"		鈴木雄大	スズキ ユウダイ	新63期
第二東京弁護士会	弁護士		増田智史	マスダ サトシ	59期
さいたま地方裁判所	判事	民事	岡部純子	オカベ ジュンコ	43期
千葉地方裁判所	判事	刑事	平塚浩司	ヒラツカ コウジ	44期
千葉県弁護士会	弁護士		広山相徳	ヒロヤマ ソウトク	57期
静岡地方検察庁	検事		北菌信孝	キタノ ノブタカ	48期
新潟県弁護士会	弁護士		齋藤裕	サイトウ ユタカ	51期
大阪地方裁判所	判事	民事	谷有恒	タニ ユウコウ	44期
"	"	刑事	渡部市郎	ワタナベ イチロウ	48期
大阪地方検察庁	検事		寺本哲也	テラモト テツヤ	50期
大阪弁護士会	弁護士		内藤欣也	ナイトウ キンヤ	38期
京都地方裁判所	判事	民事	島崎邦彦	シマサキ クニヒコ	48期
神戸地方裁判所	判事	刑事	野口卓志	ノグチ タクシ	47期
和歌山弁護士会	弁護士		河野ゆう	コウノ ユウ	現行60期
名古屋地方裁判所	判事	刑事	板津正道	イタツ マサミチ	50期
愛知県弁護士会	弁護士		水野泰二	ミズノ タイジ	51期
津地方検察庁	検事		吉野太人	ヨシノ タイジン	49期
金沢地方裁判所	判事	民事	山門優	ヤマカド マサル	47期
金沢地方検察庁	検事		大口奈良恵	オオグチ ナラエ	49期
広島地方裁判所	判事	民事	谷村武則	タニムラ タケノリ	49期
"	"	刑事	三村三緒	ミムラ ミオ	50期
岡山地方検察庁	検事		木原直哉	キハラ ナオヤ	新65期
鳥取地方裁判所	判事	民事	大野祐輔	オオノ ユウスケ	52期
島根県弁護士会	弁護士		熱田雅夫	アツタ マサオ	46期
福岡地方裁判所	判事	民事	立川毅	タチカワ タケシ	46期
"	"	刑事	溝國禎久	ミゾクニ ヨシヒサ	44期
福岡地方検察庁	検事		樋口正行	ヒグチ マサユキ	47期
長崎県弁護士会	弁護士		梶村龍太	カジムラ リュウタ	51期
那覇地方裁判所	判事	刑事	大橋弘治	オオハシ コウジ	54期
仙台地方裁判所	判事	民事	村主隆行	スグリ タカユキ	48期
福島地方裁判所	判事	刑事	柴田雅司	シバタ マサシ	50期
山形地方検察庁	検事		水上嘉寛	ミズカミ ヨシヒロ	52期
札幌地方裁判所	判事	民事	武部知子	タケベ トモコ	48期
"	"	刑事	石田寿一	イシダ トシカズ	52期
札幌地方検察庁	検事		市原久幸	イチハラ ヒサユキ	49期
釧路弁護士会	弁護士		篁島弘幸	ミノシマ ヒロユキ	57期
高松地方裁判所	判事	民事	天野智子	アマノ サトコ	46期
高松地方検察庁	検事		熊澤貴士	クマガワ アツシ	50期
愛媛弁護士会	弁護士		丸山征寿	マルヤマ マサトシ	52期

参列者

日本弁護士連合会 (東京弁護士会)	日弁連司法修習 委員会委員長	流矢大士	ナガレヤ ヒロシ	40期
" (大阪弁護士会)	弁護士	大砂裕幸	オオスナ ヒロユキ	38期

司法研修所

所 長		栃 木 力	トチギ ツトム	33期
教 官 ( 判 事 )	民事裁判担当	鈴 木 謙 也	スズキ ケンヤ	46期
〃	〃	森 健 二	モリ ケンジ	50期
〃	刑事裁判担当	河 本 雅 也	カワモト マサヤ	44期
〃	〃	細 谷 泰 暢	ホソヤ ヤスノブ	50期
教 官 ( 検 事 )	検察担当	杉 山 徳 明	スギヤマ ノリアキ	47期
〃	〃	関 根 亮	セキネ リョウ	50期
教 官 ( 弁 護 士 )	民事弁護担当	鍵 尾 憲	カギオ ケン	48期
〃	〃	榎 本 英 紀	エノモト エイキ	51期
〃	刑事弁護担当	北 澤 尚 登	キタザワ ヒサト	53期
〃	〃	清 水 保 晴	シミズ ヤスハル	55期
事 務 局 長		一 場 康 宏	イチバ ヤスヒロ	51期
事 務 局 次 長		池 野 仁	イケノ ヒトシ	
事 務 局 所 付		高 櫻 慎 平	タカザクラ シンペイ	新61期

## 資料目録

(事務局長説明関係)

- ① 第73期司法修習日程
- ② 第73期導入修習カリキュラムの概要
- ③ 導入修習に関するアンケート集計結果(第73期)
- ④ 導入修習チェックシート(第73期)
- ⑤ 導入修習に関するアンケート及び導入修習チェックシートについて
- ⑥ 導入修習チェックシートの活用について
- ⑦ 修習結果簿(民事裁判修習:第1クール)集計結果
- ⑧ 修習結果簿(刑事裁判修習:第1クール)集計結果
- ⑨ 修習結果簿(検察修習:第1クール)集計結果
- ⑩ 修習結果簿(弁護修習:第1クール)集計結果
- ⑪ 第73期集合修習A班カリキュラムの概要
- ⑫ 第73期集合修習B班カリキュラムの概要
- ⑬ 第74期 修習日程

# 第73期司法修習日程

令和2年

修習期間 1年

11月下旬 12月

導入修習

12/5  
～  
12/25

**分野別実務修習（4分野：民事裁判、刑事裁判、検察、弁護）**  
司法修習生は4班に分かれ、各クールごとに入れ替わりで各分野を修習

第1クール  
1/6～3/1

第2クール  
3/2～4/22

第3クール  
4/23～6/18

第4クール  
6/19～8/13

緊急事態宣言

課題を与えての自宅学修  
実際の事件記録等に基づいて作成した模擬記録等に基づいて実務的・実践的な検討を行わせる等の課題  
↓  
実地での指導と組み合わせて、分野別実務修習の目的を相当程度達成可能

(A班) 集合修習 → 選択型実務修習

集合修習  
8/17～9/29

↓  
オンライン実施  
クラス単位で双方向  
的講義

選択型実務修習  
10/6～11/17

↓  
外部でのプログラムの取止め  
分野別実務修習の  
深化と補完

(B班) 選択型実務修習 → 集合修習

選択型実務修習  
8/14～9/30

↓  
外部でのプログラムの取止め  
分野別実務修習の  
深化と補完

集合修習  
10/6～11/13

↓  
オンライン実施  
クラス単位で双方向  
的講義

試験（二回試験）

修習終了

A班—東京及び大阪並びにそれら周辺の修習地  
B班—A班以外の修習地

(令和2・1・9)

## 第73期導入修習カリキュラムの概要

司法研修所

## は し が き

導入修習は、修習開始段階で司法修習生に不足している実務基礎知識・能力に気付かせ、かつ、より効果的、効率的な分野別実務修習が円滑に行えるようにすることを目的としている。

第73期司法修習においても、この導入修習の目的に沿った教育効果を上げることを企図してカリキュラムを策定し、実施した。その概要は、本資料及び別添の「第73期導入修習日程予定表」のとおりである。

司法修習生指導担当者各位におかれては、本資料を分野別実務修習における司法修習生の指導の参考としていただきたい。

第1 民事関係科目

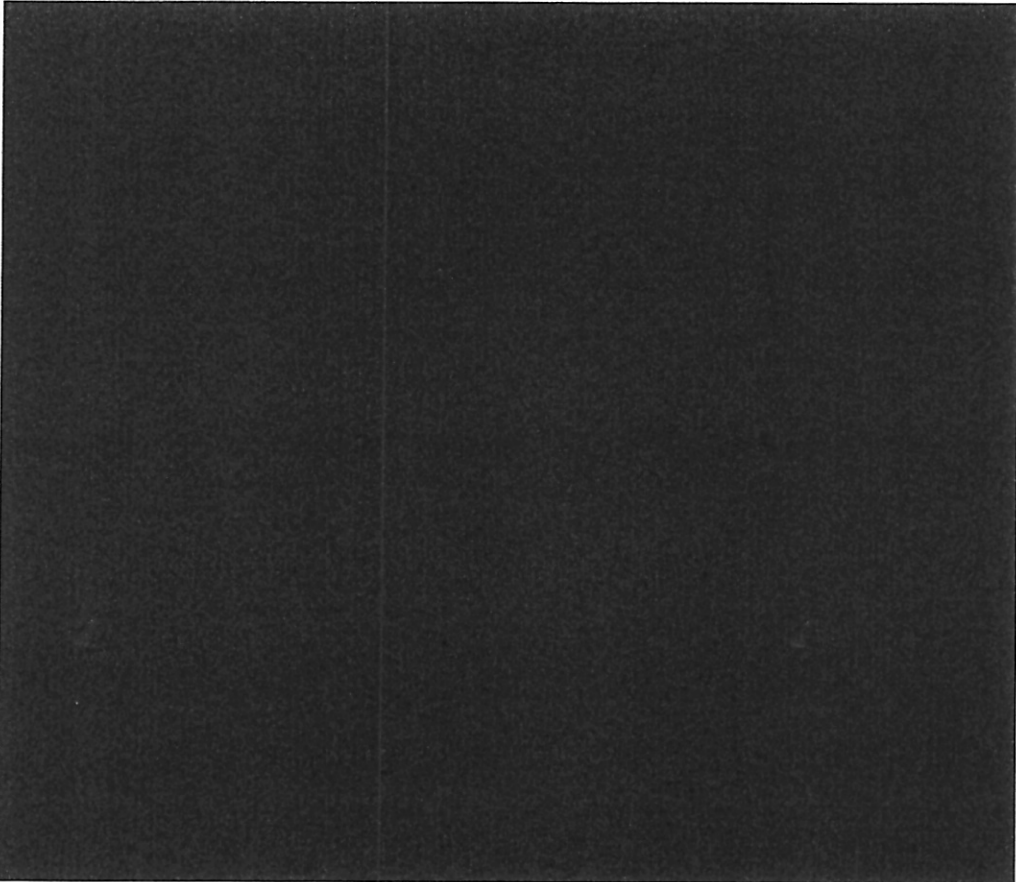
I 民事裁判

1 即日起案・解説

(1) 目的



(2) 事案の概要



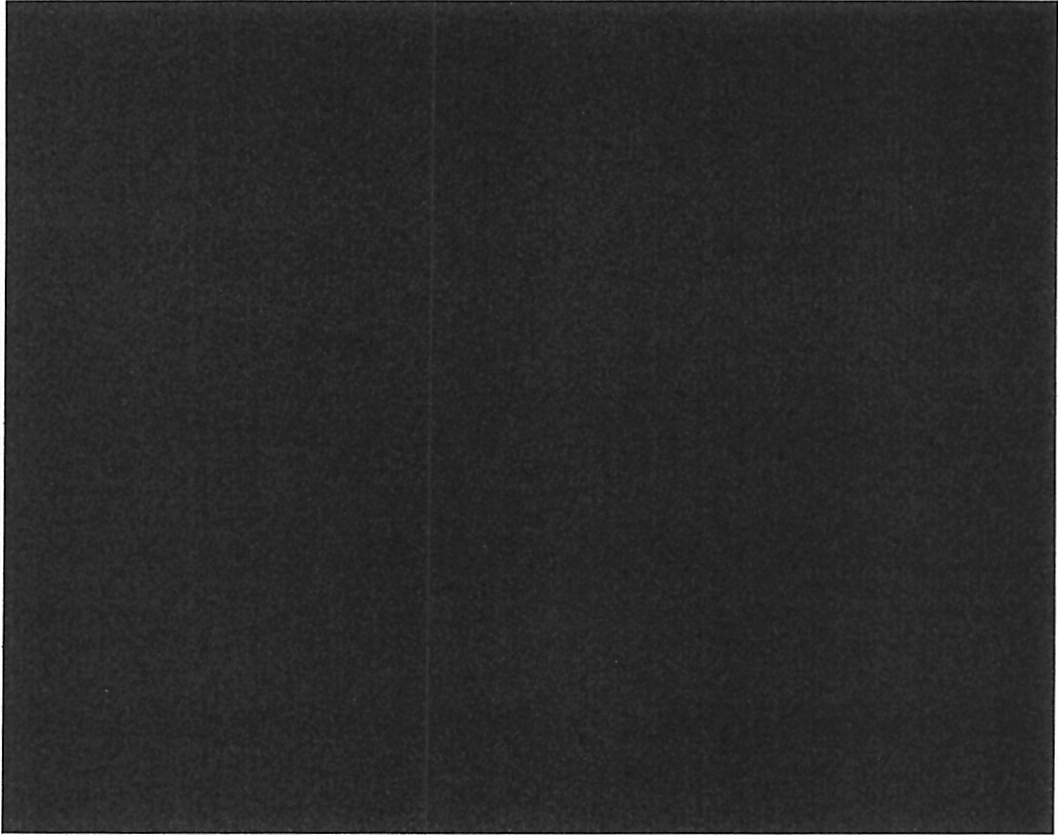
(3) 起案事項



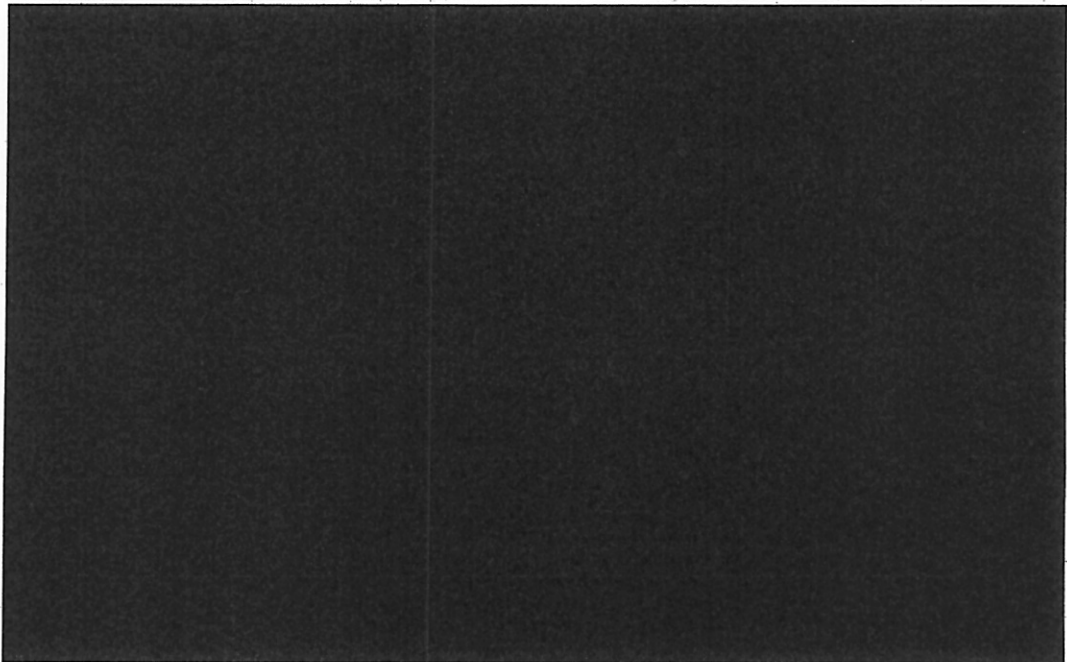
(4) 講評等

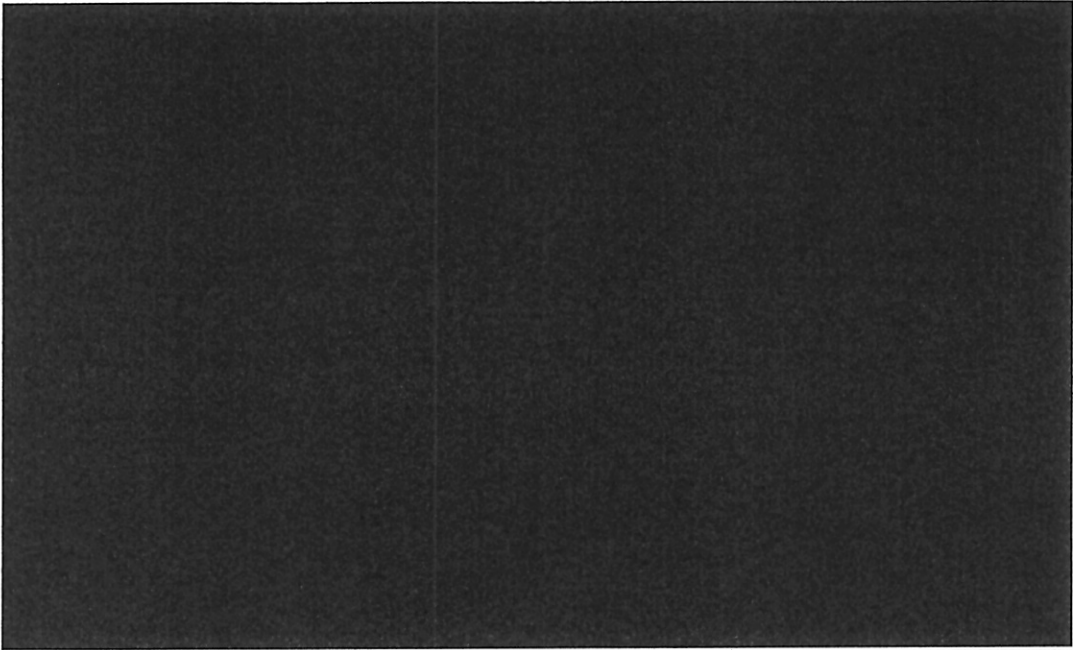


2 民事事実認定の手法と解説



3 裁判修習に向けて (刑事裁判と共通)





II 民事弁護

1 講義

(1) 講義 1 (立証)

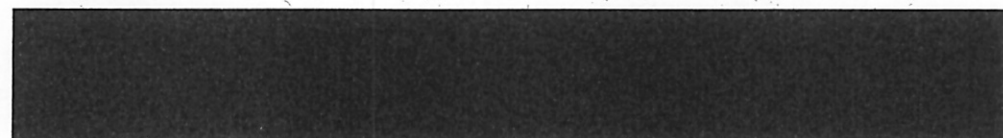
ア 実施の概要



イ DVD教材の内容



ウ 設問内容

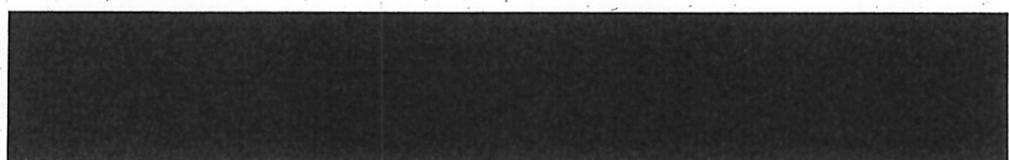


(2) 講義 2 (民事保全・民事執行)

ア 実施の概要



イ DVD教材の内容





ウ 設問内容



(3) 講義3 (弁護士倫理・職責等)

ア 実施の概要



イ 設問内容



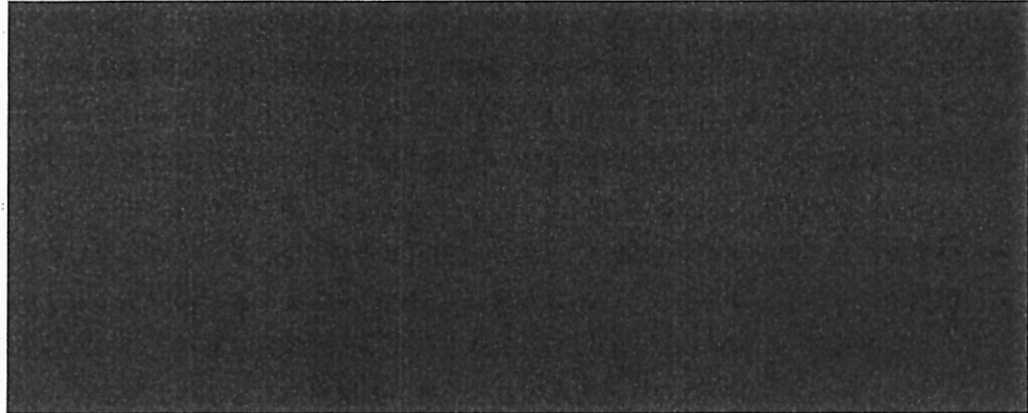
2 問題研究 (即日起案等)

(1) 実施の概要



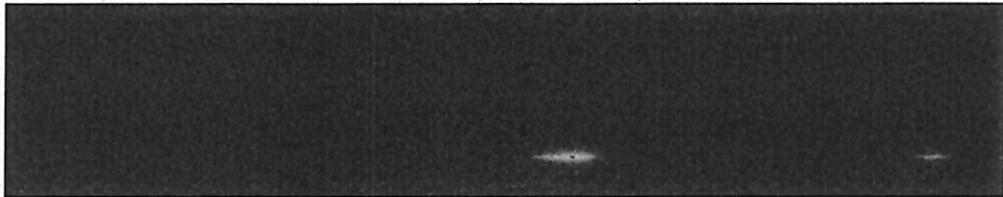


(2) 事案の概要



(3) 実施内容

ア 問題研究1 (DVD教材の視聴及び事案分析等)



イ 問題研究2 (即日起案)

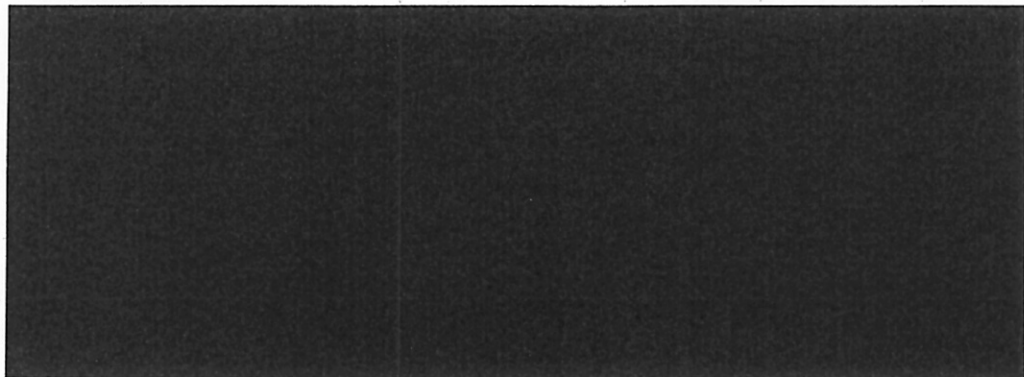


ウ 問題研究3 (講評)



3 演習 (和解条項)

(1) 実施の概要

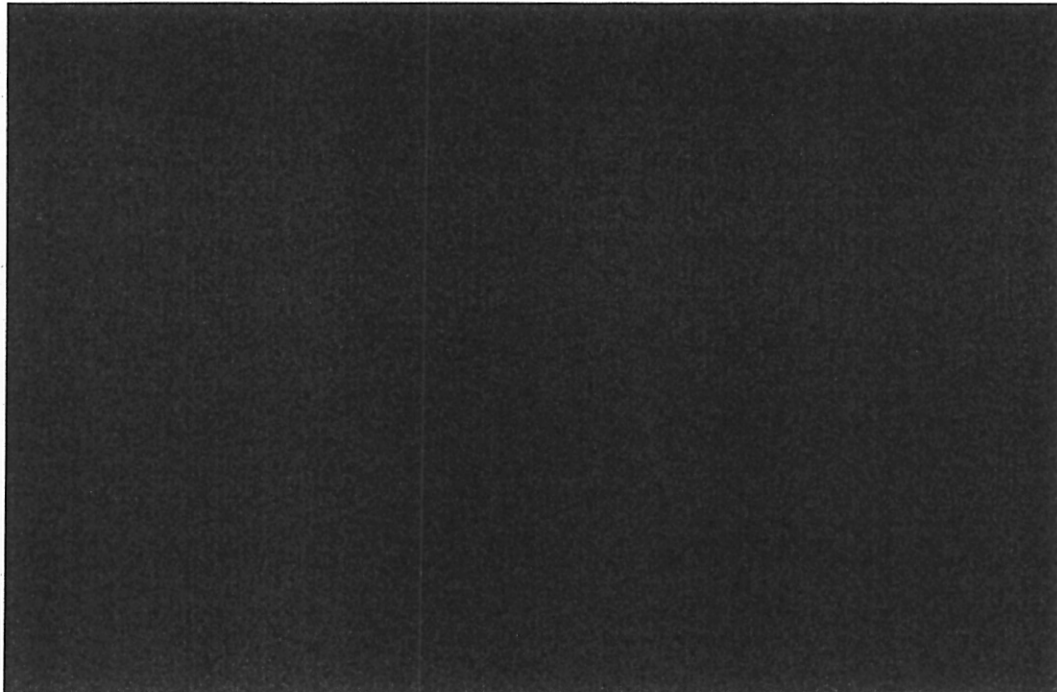


(2) 設問内容

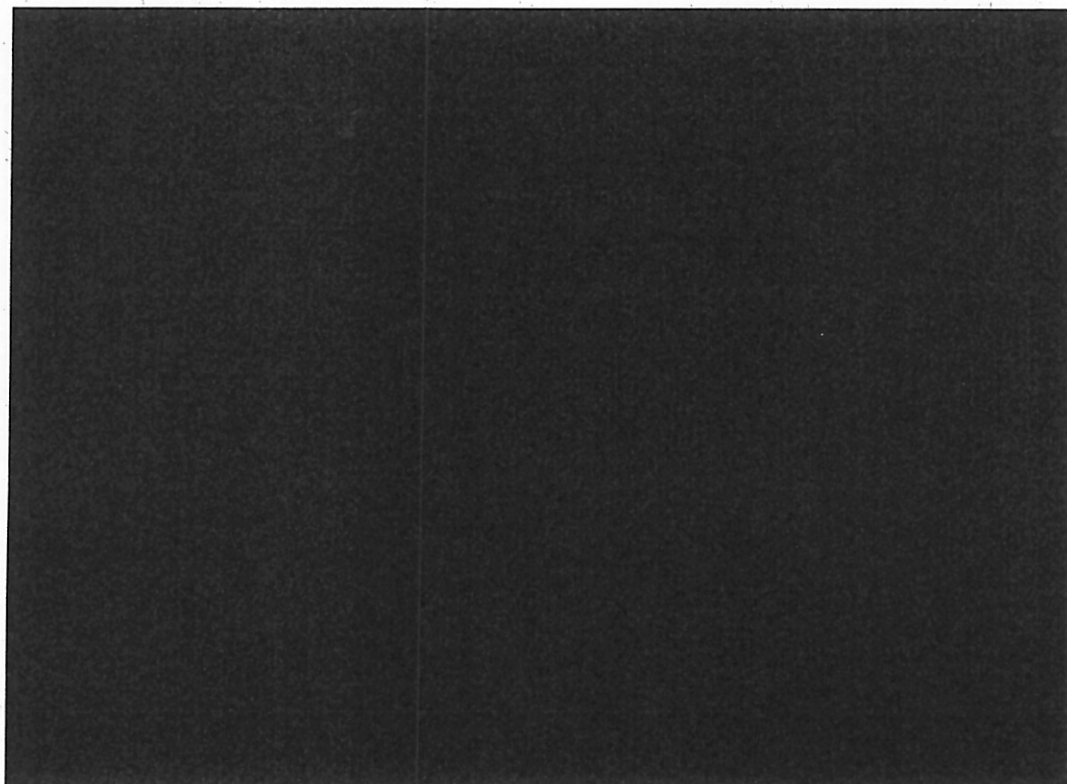


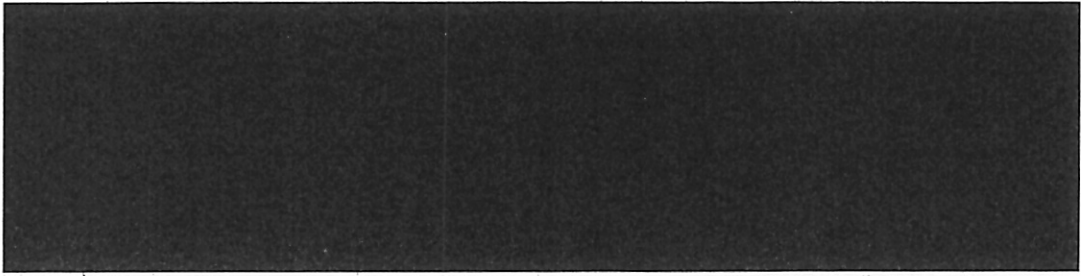
### Ⅲ 民事共通

#### 1 民事第一審手続の概説（講義）



#### 2 民事総合1・2





第2 刑事関係科目

I 刑事裁判

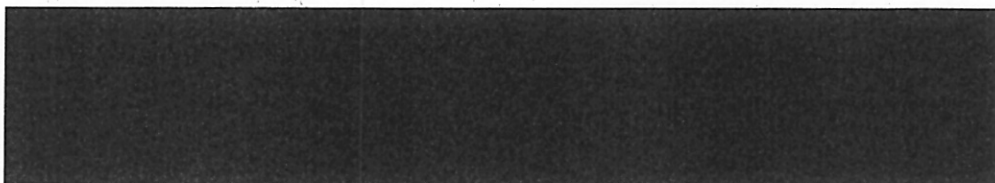
1 講義（事前課題解説等）



2 即日起案・事前課題の解説

(1) 即日起案

ア 目的



イ 事案の概要



ウ 起案事項

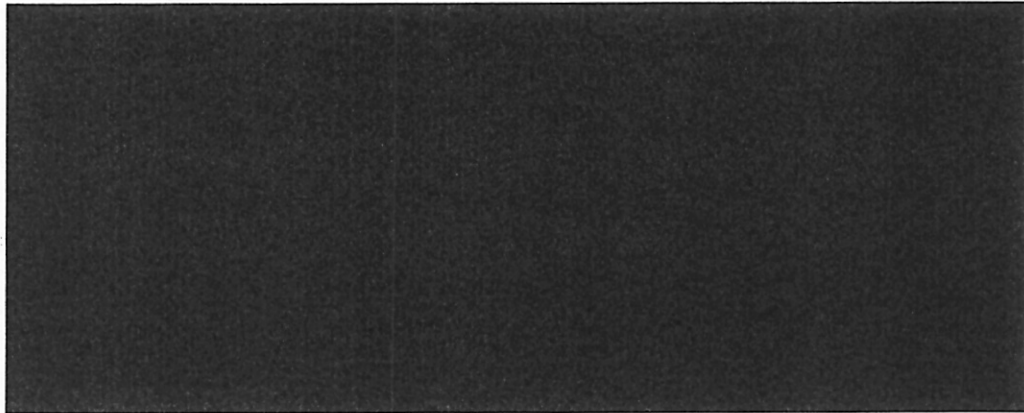


エ 解説





(2) 事前課題の解説等



3 裁判修習に向けて（民事裁判と共通）  
民事裁判の項参照

## II 検察

### 1 導入講義

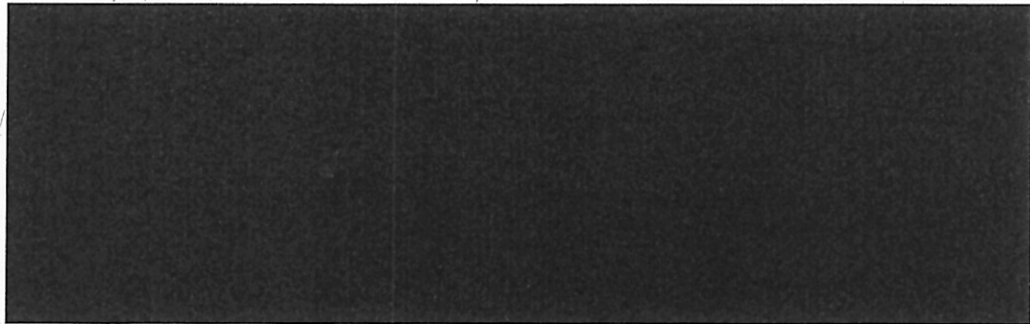


### 2 即日起案

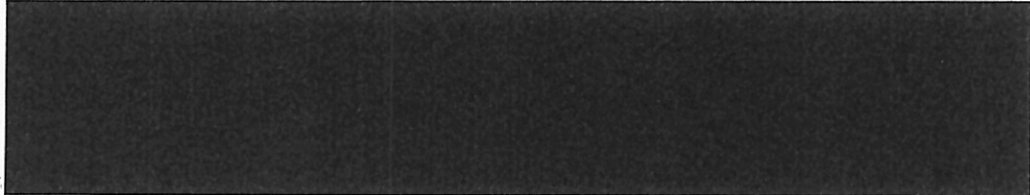
#### (1) 目的



#### (2) 使用した修習記録の事案の概要

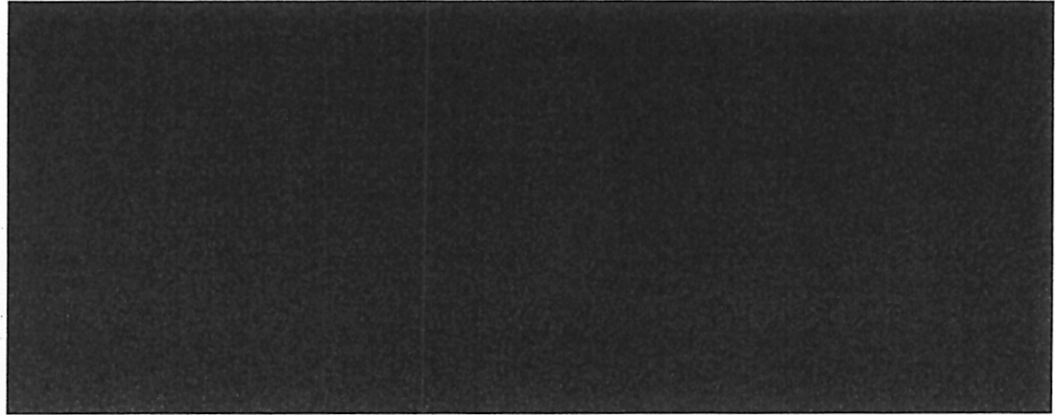


#### (3) 起案事項



### 3 捜査演習





4 即日起案講評+検察官の心構え等



### Ⅲ 刑事弁護

#### 1 刑弁演習1 (捜査弁護)

(1) 目的

[Redacted]

(2) 事案の概要

[Redacted]

(3) 実施内容

[Redacted]

#### 2 刑弁演習2 (即日起案の解説・否認事件)

(1) 目的

[Redacted]

(2) 事案の概要

[Redacted]

(3) 起案事項

[Redacted]

(4) 講評等

[Redacted]



3 刑弁演習3 (量刑事件)

(1) 目的



(2) 事案の概要



(3) 実施内容



#### IV 刑事共通

##### 1 刑事問題研究（勾留）

###### (1) 目的

[Redacted text]

###### (2) 事案の概要

[Redacted text]

###### (3) 実施内容

[Redacted text]

##### 2 刑事共通演習基礎（公判前整理手続）

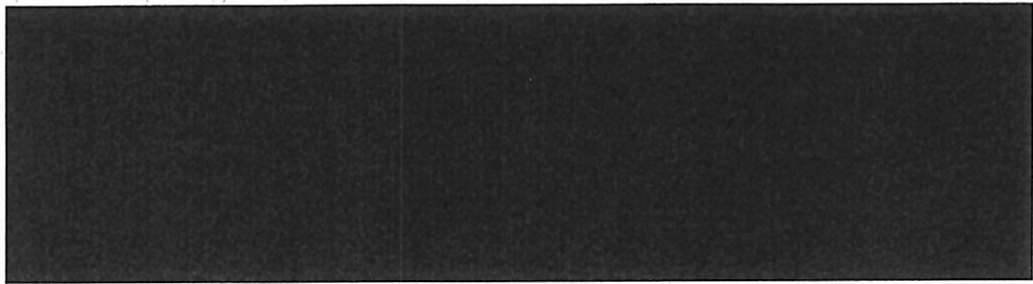
###### (1) 目的

充実した公判の審理を実現するためには、公判前整理手続において的確かつ迅速に争点整理を行うことが不可欠である。

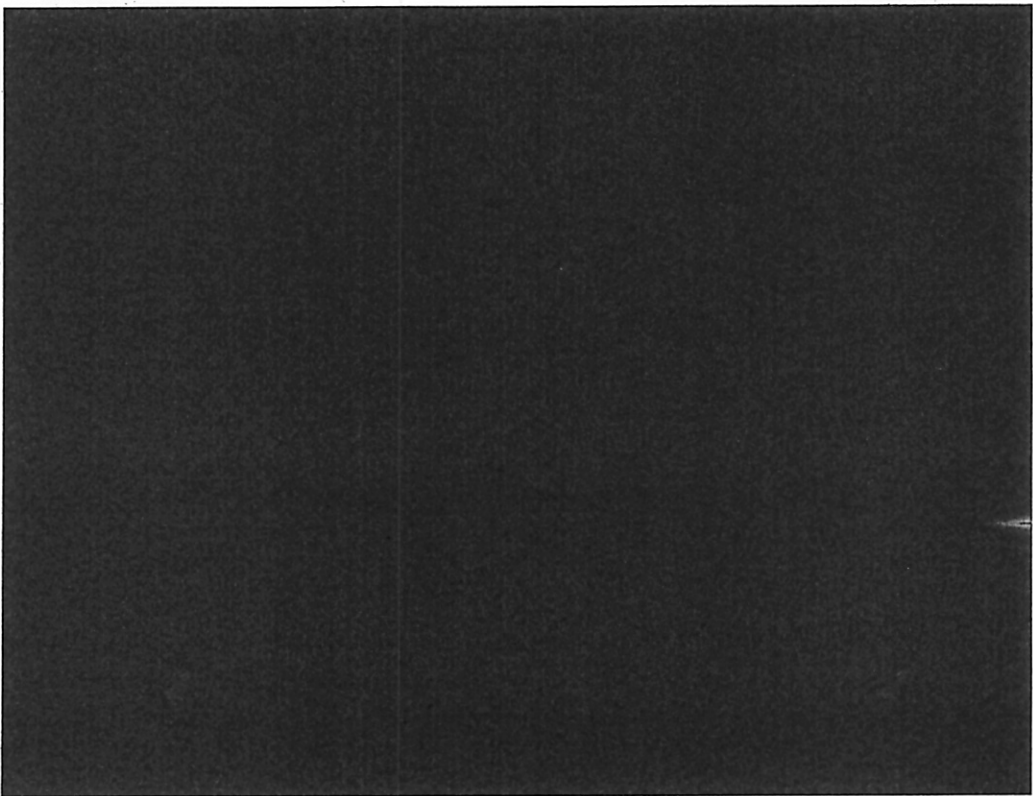
[Redacted text]

###### (2) 事案の概要

[Redacted text]



(3) 実施内容



第73期 導入修習日程予定表

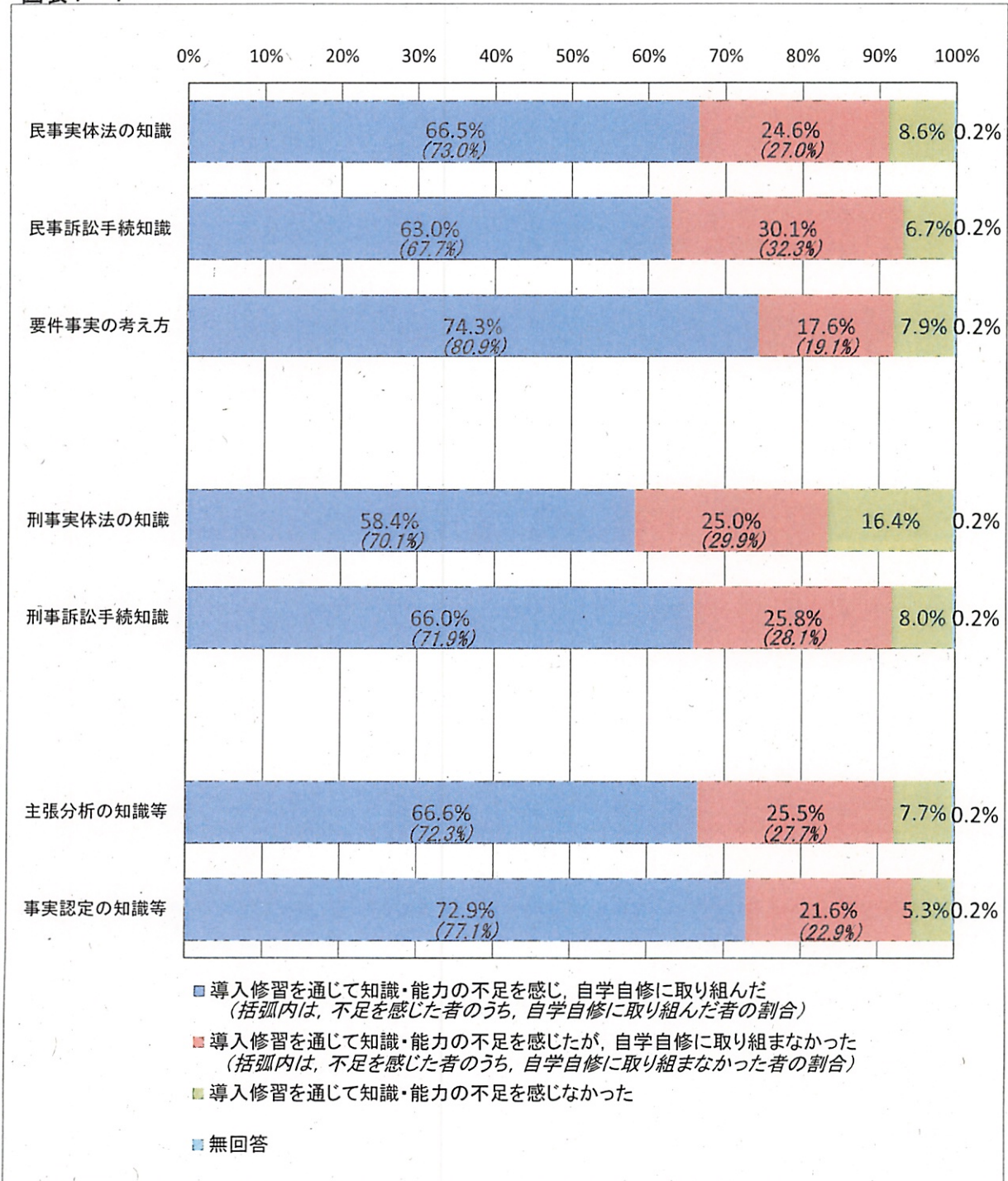
月/日	曜	A班				B班			
12月5日	木	開始式	1限目(165分) (10:35~11:55, 12:45~14:10) 民事第1審手続の概説(講義) (民裁・民弁)	2限目(165分) (14:25~17:10) 民弁問題研究1(事案分析)	開始式	1限目(110分) (10:35~12:25) 刑裁講義(事前課題解説 等)	2限目(110分) (13:15~15:05) 検察導入講義	3限目(110分) (15:20~17:10) 刑弁演習1(捜査弁護)	
12月6日	金	9:50~ 10:05) 事務連絡 教官	1限目(110分) (10:05~11:55) 刑裁講義(事前課題解説 等)	2限目(110分) (12:55~14:45) 検察導入講義	3限目(110分) (15:00~16:50) 刑弁演習1(捜査弁護)	9:50~ 10:05) 事務連絡 教官	1限目(165分) (10:05~11:55, 12:55~13:50) 民事第1審手続の概説(講義) (民裁・民弁)	2限目(165分) (14:05~16:50) 民弁問題研究1(事案分析)	
12月9日	月	1限目(180分) (9:50~12:50) 民裁即日起案		2限目(180分) (14:00~17:00) 検察即日起案	1限目(180分) (9:50~12:50) 民裁即日起案		2限目(180分) (14:00~17:00) 検察即日起案		
12月10日	火	1限目(180分) (9:50~12:50) 民弁問題研究2(即日起案)		2限目(180分) (14:00~17:00) 刑裁即日起案		1限目(180分) (9:50~12:50) 民弁問題研究2(即日起案)		2限目(180分) (14:00~17:00) 刑裁即日起案	
12月11日	水	1限目(85分) (9:50~11:15) 民事総合1 (民裁・民弁)	2限目(85分) (11:30~12:10, 13:10~13:55) 刑事問題研究(勾留) (刑裁・検察・刑弁)	3限目(180分) (14:10~17:10) 刑弁即日起案	1限目(85分) (9:50~11:15) 刑事問題研究(勾留) (刑裁・検察・刑弁)	2限目(85分) (11:30~12:10, 13:10~13:55) 民事総合1 (民裁・民弁)	3限目(180分) (14:10~17:10) 刑弁即日起案		
12月12日	木	(9:50~12:20, 13:20~16:50) 捜査演習 (検察)			1限目(170分) (9:50~11:50, 12:50~13:40) 民事総合2 (民裁・民弁)		2限目(170分) (14:00~16:50) 民弁講義1(立証)		
12月13日	金	1限目(170分) (9:50~11:50, 12:50~13:40) 民弁講義1(立証)		2限目(170分) (14:00~16:50) 民弁講義2(民事保全・民事執行①)		(9:50~12:20, 13:20~16:50) 捜査演習 (検察)			
12月16日	月	1限目(170分) (9:50~11:50, 12:50~13:40) 民事総合2 (民裁・民弁)		2限目(170分) (14:00~16:50) 民弁演習(和解条項)		(9:50~12:20, 13:20~16:50) 刑弁演習2(即日起案解説・否認事件)			
12月17日	火	(9:50~11:50, 12:50~16:50) 民裁即日起案解説				(9:50~12:20, 13:20~16:50) 刑裁即日起案・事前課題の解説			
12月18日	水	1限目(170分) (9:50~11:50, 12:50~13:40) 民事事実認定の手法と留意点 (民裁)		2限目(170分) (14:00~16:50) 民弁問題研究3(主張書面)		(9:50~11:50, 12:50~16:50) 刑事共通演習基礎(公判前整理手続) (刑裁・検察・刑弁)			
12月19日	木	(9:50~11:50, 12:50~16:50) 刑事共通演習基礎(公判前整理手続) (刑裁・検察・刑弁)				1限目(170分) (9:50~11:50, 12:50~13:40) 民弁講義2(民事保全・民事執行①)		2限目(170分) (14:00~16:50) 民弁演習(和解条項)	
12月20日	金	(9:50~12:20, 13:20~16:50) 刑裁即日起案・事前課題の解説				(9:50~11:50, 12:50~16:50) 民裁即日起案解説			
12月23日	月	(9:50~12:20, 13:20~16:50) 刑弁演習2(即日起案解説・否認事件)				1限目(170分) (9:50~11:50, 12:50~13:40) 民事事実認定の手法と留意点 (民裁)		2限目(170分) (14:00~16:50) 民弁問題研究3(主張書面)	
12月24日	火	1限目(170分) (9:50~12:00, 13:00~13:40) 裁判修習に向けて (民裁・刑裁)		2限目(170分) (14:00~16:50) 検察即日起案講評+検察官の心構え等		1限目(170分) (9:50~11:40, 12:40~13:40) 検察即日起案講評+検察官の心構え等		2限目(170分) (14:00~16:50) 裁判修習に向けて (民裁・刑裁)	
12月25日	水	1限目(50分) (9:50~10:40) 民弁講義2(民事保全・民 事執行②)	2限目(80分) (10:50~12:10) 民弁講義3 (弁護士倫理・職責等)	3限目(140分) (13:10~15:30) 刑弁演習3(量刑事件)	4限目(70分) (15:50~17:00) 留意事項 事務局長	1限目(140分) (9:50~12:10) 刑弁演習3(量刑事件)	2限目(70分) (13:10~14:20) 留意事項 事務局長	3限目(50分) (14:40~15:30) 民弁講義2(民事保全・民 事執行②)	4限目(80分) (15:40~17:00) 民弁講義3 (弁護士倫理・職責等)

## 導入修習に関するアンケート集計結果

○ 第73期の司法修習生に対し、導入修習終了時にアンケート調査を実施した。  
司法修習生1473人中1405人が回答(回答率95.38%)

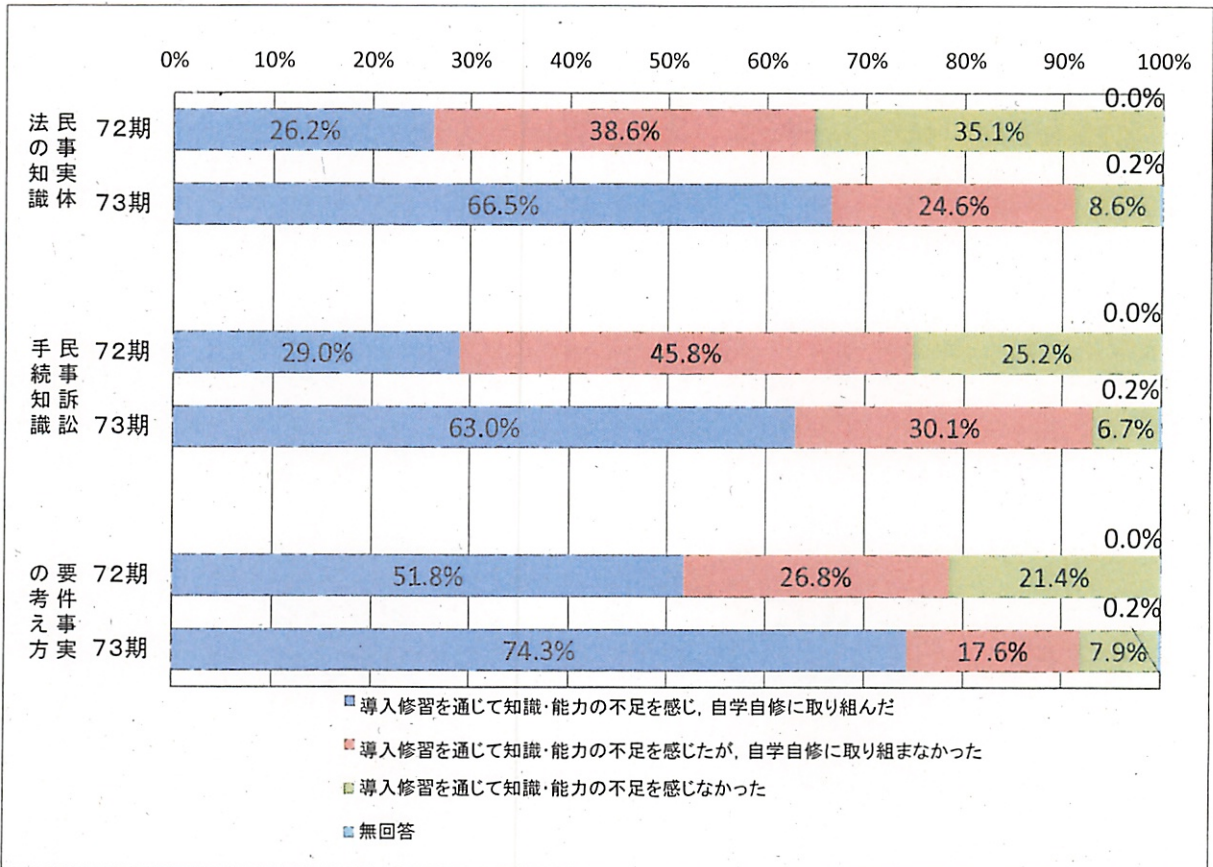
○ 導入修習を通じて知識・能力の不足を感じた者と、導入修習中に自学自修に取り組んだ者の割合

図表1-1

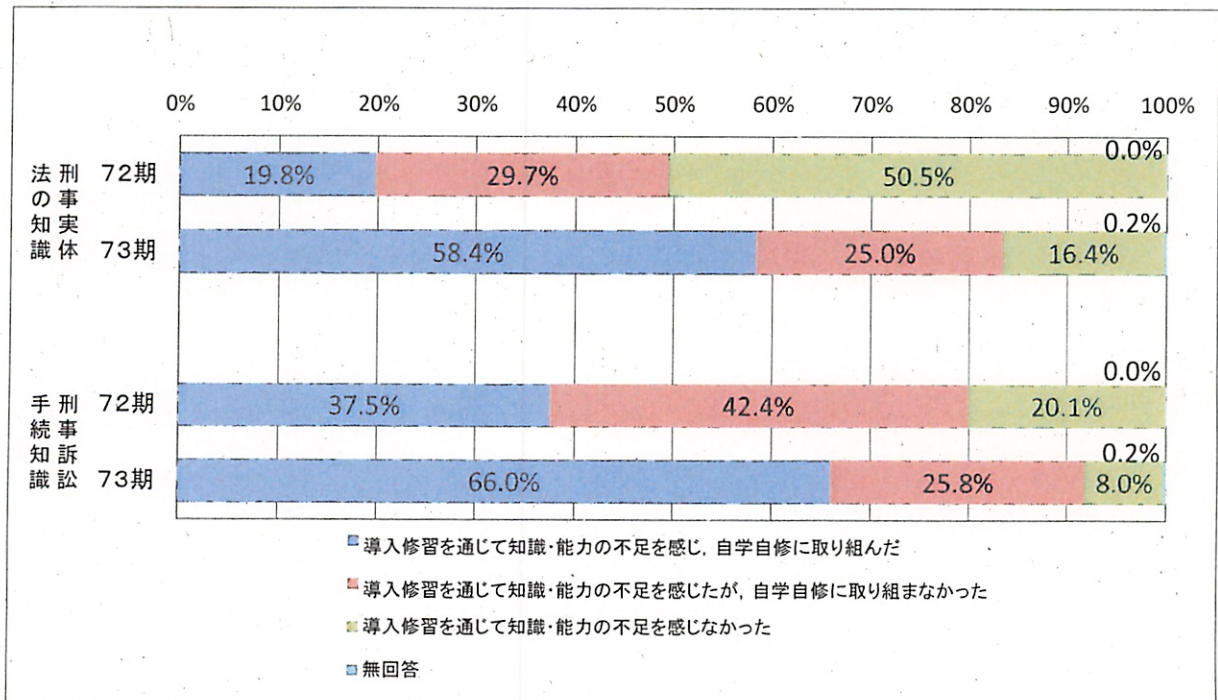


○ 72期との比較

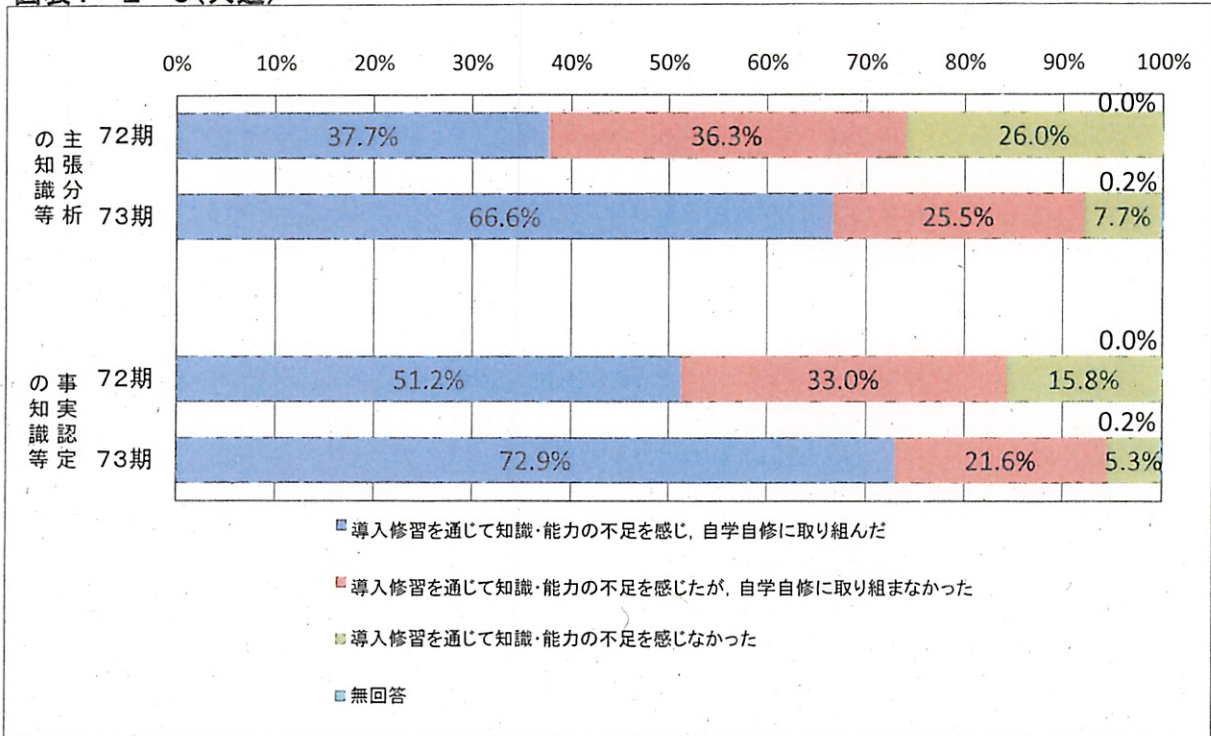
図表1-2-1(民事系)



図表1-2-2(刑事系)

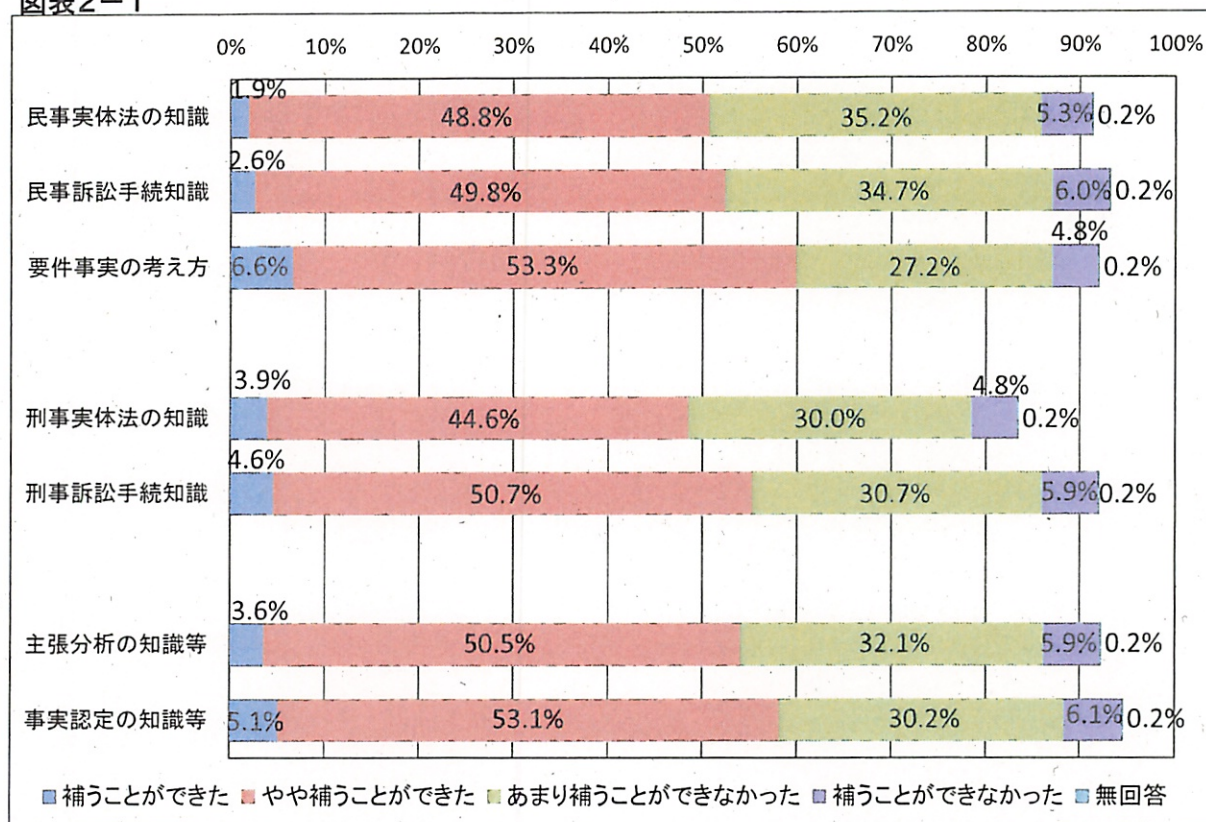


図表1-2-3(共通)



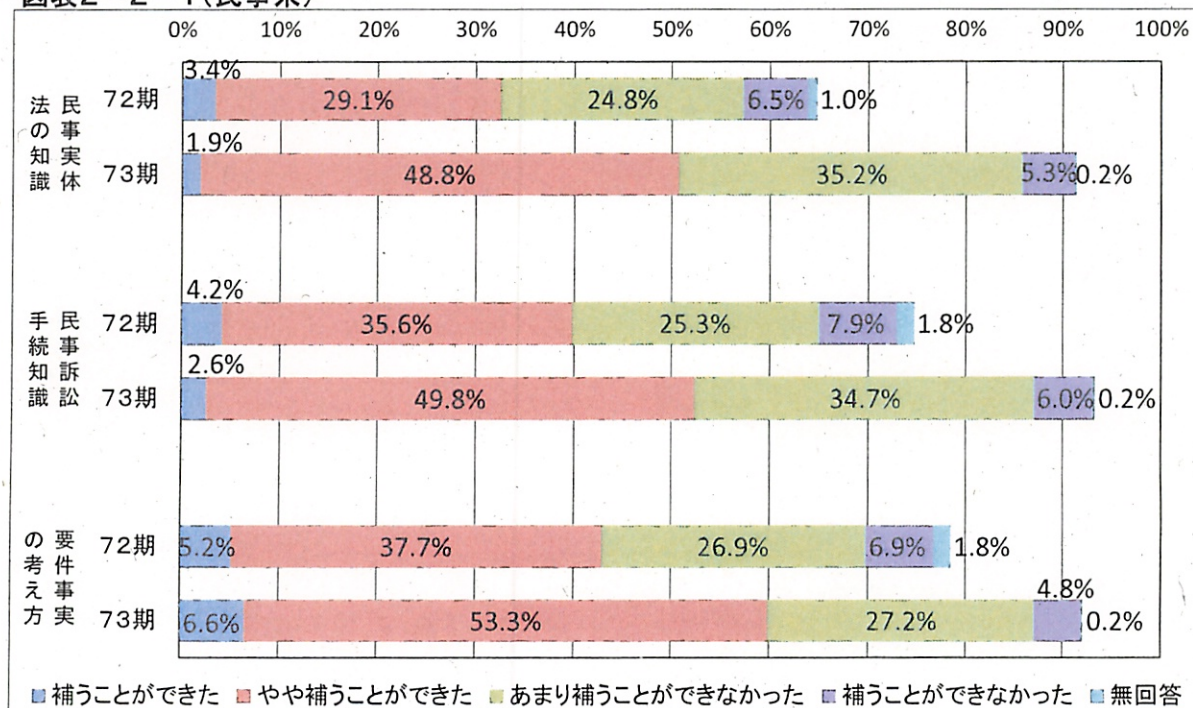
○ 導入修習を通じて不足していた知識・能力をどの程度補うことができたか(母数は回答者全員)

図表2-1

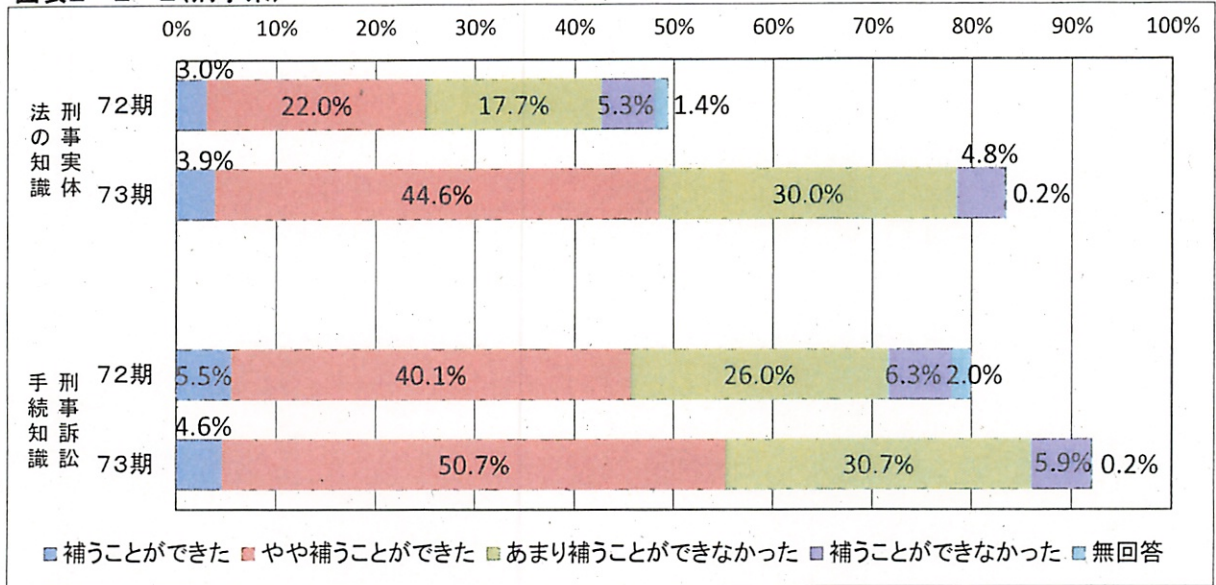


○ 72期との比較(母数は回答者全員)

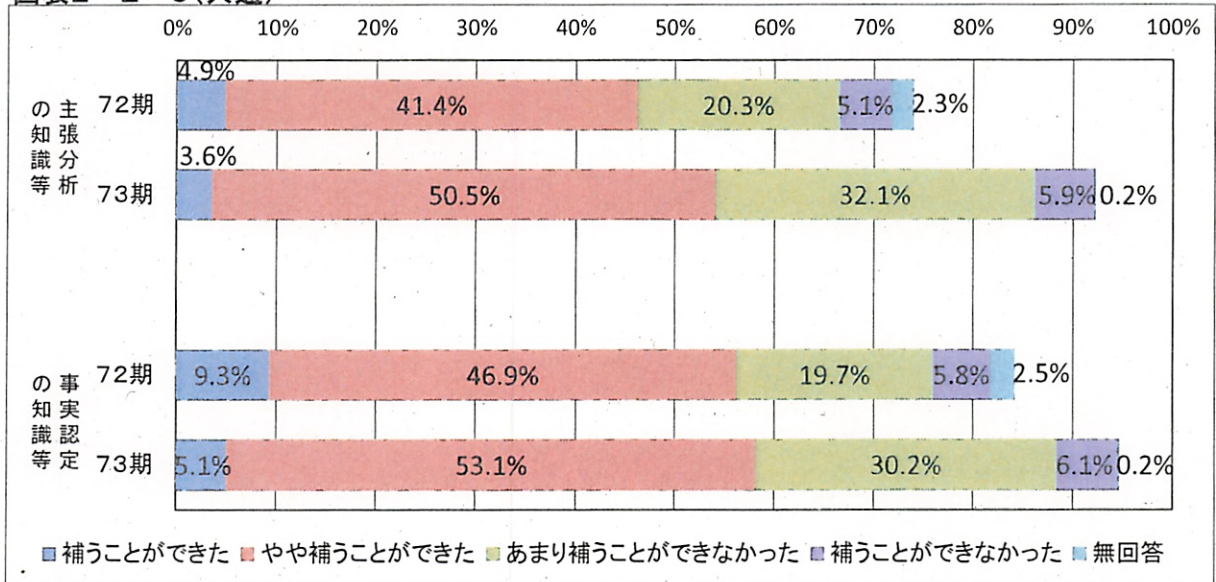
図表2-2-1(民事系)



図表2-2-2(刑事系)

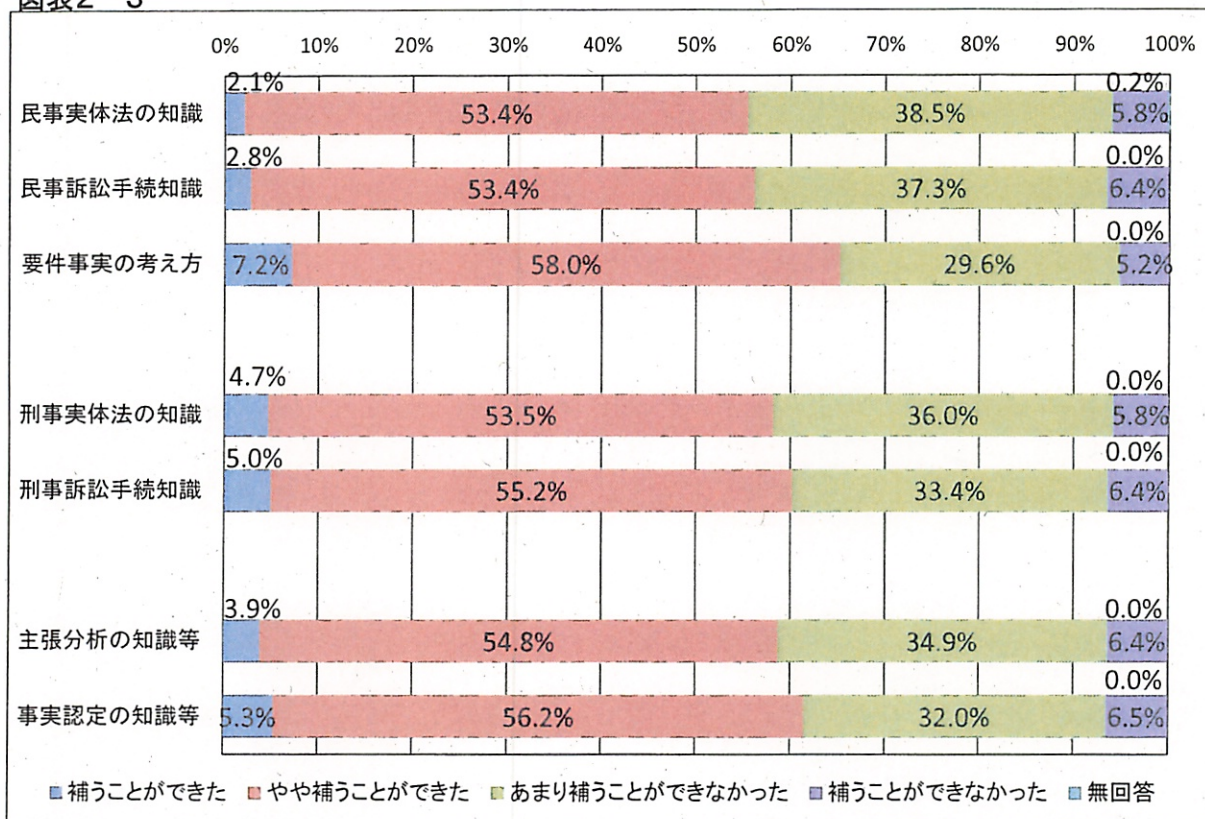


図表2-2-3(共通)



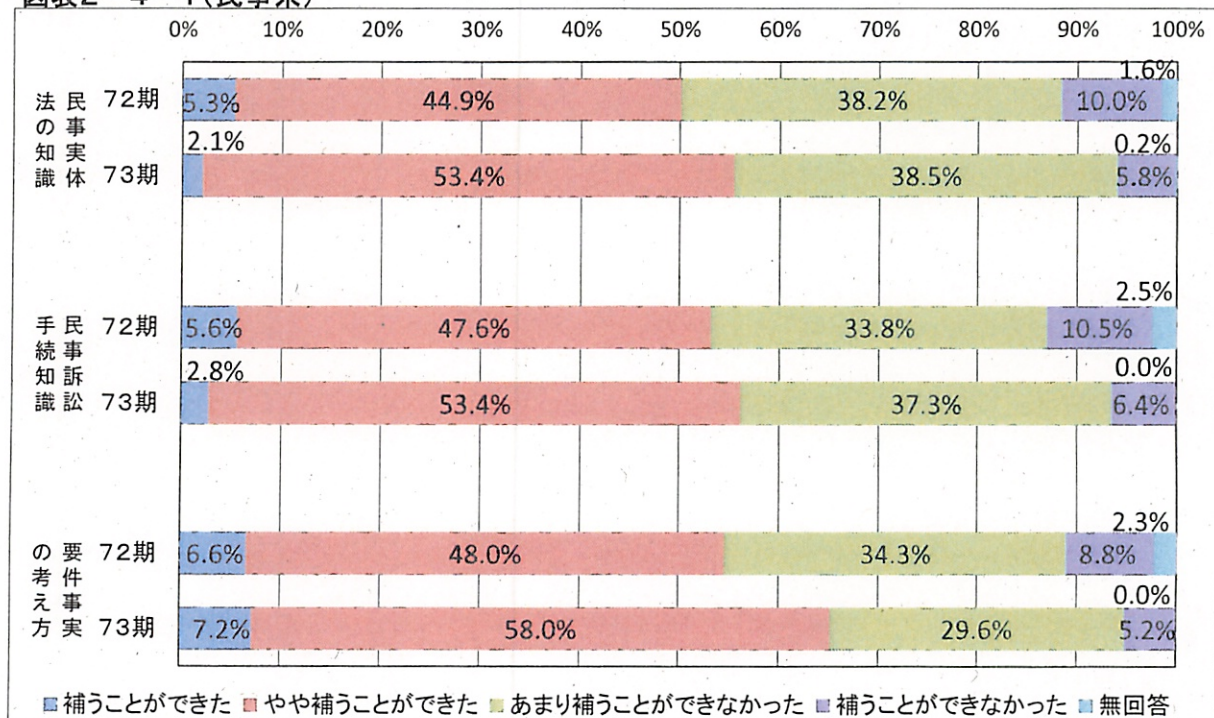
○ 導入修習を通じて不足していた知識・能力をどの程度補うことができたか(母数は不足を感じたと回答した者)

図表2-3

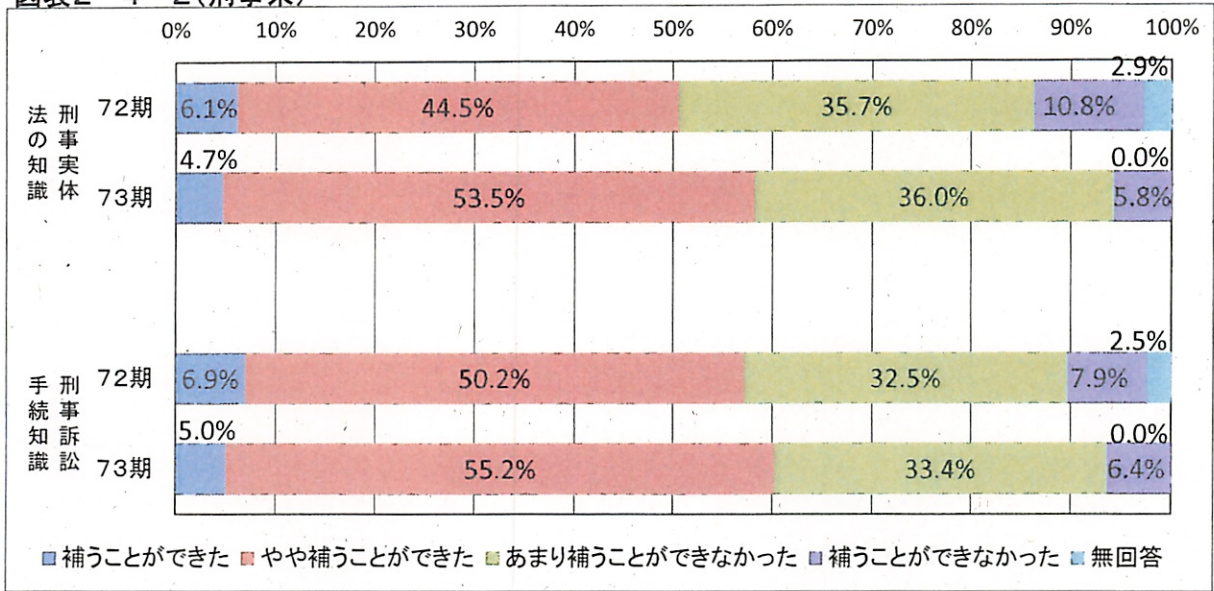


○ 72期との比較(母数は不足を感じたと回答した者)

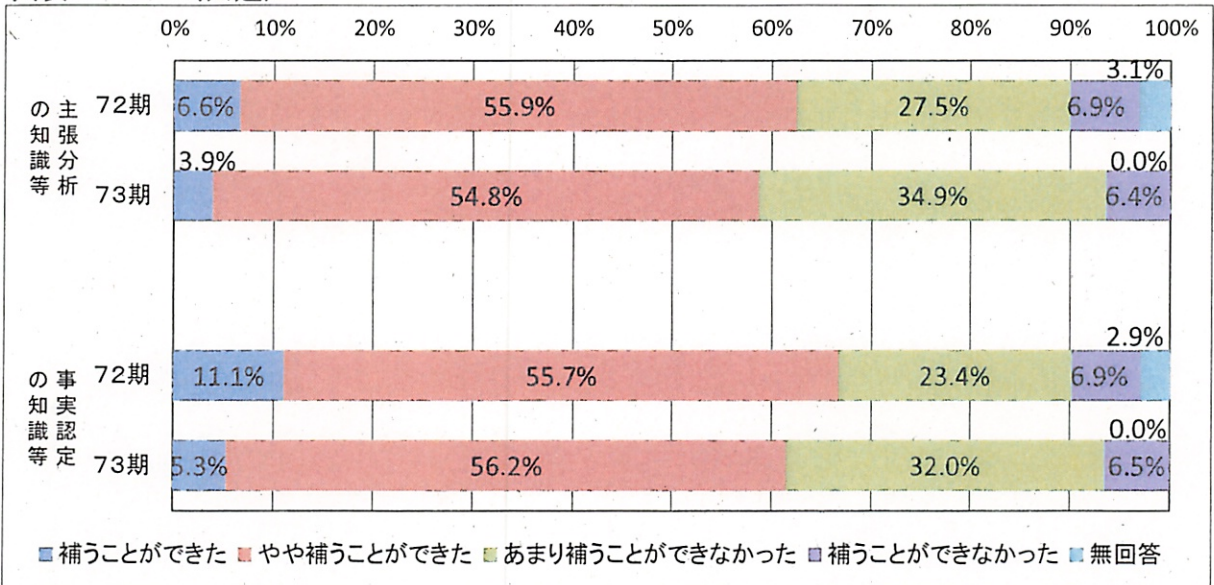
図表2-4-1(民事系)



図表2-4-2(刑事系)

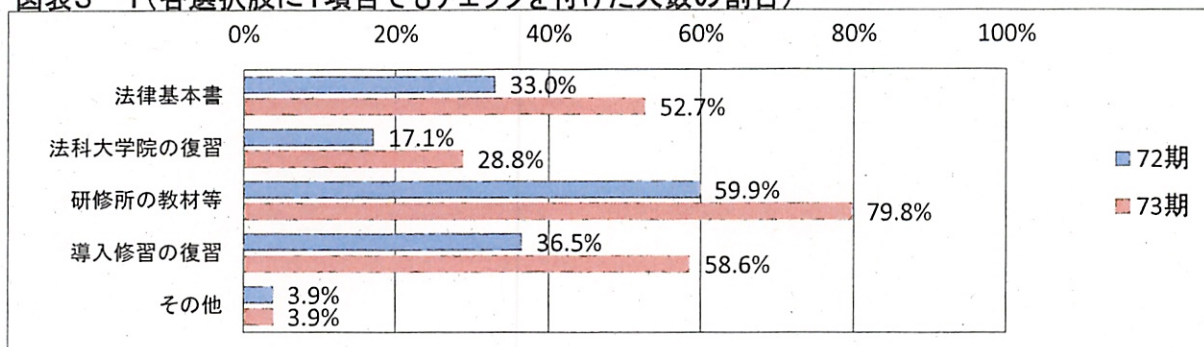


図表2-4-3(共通)



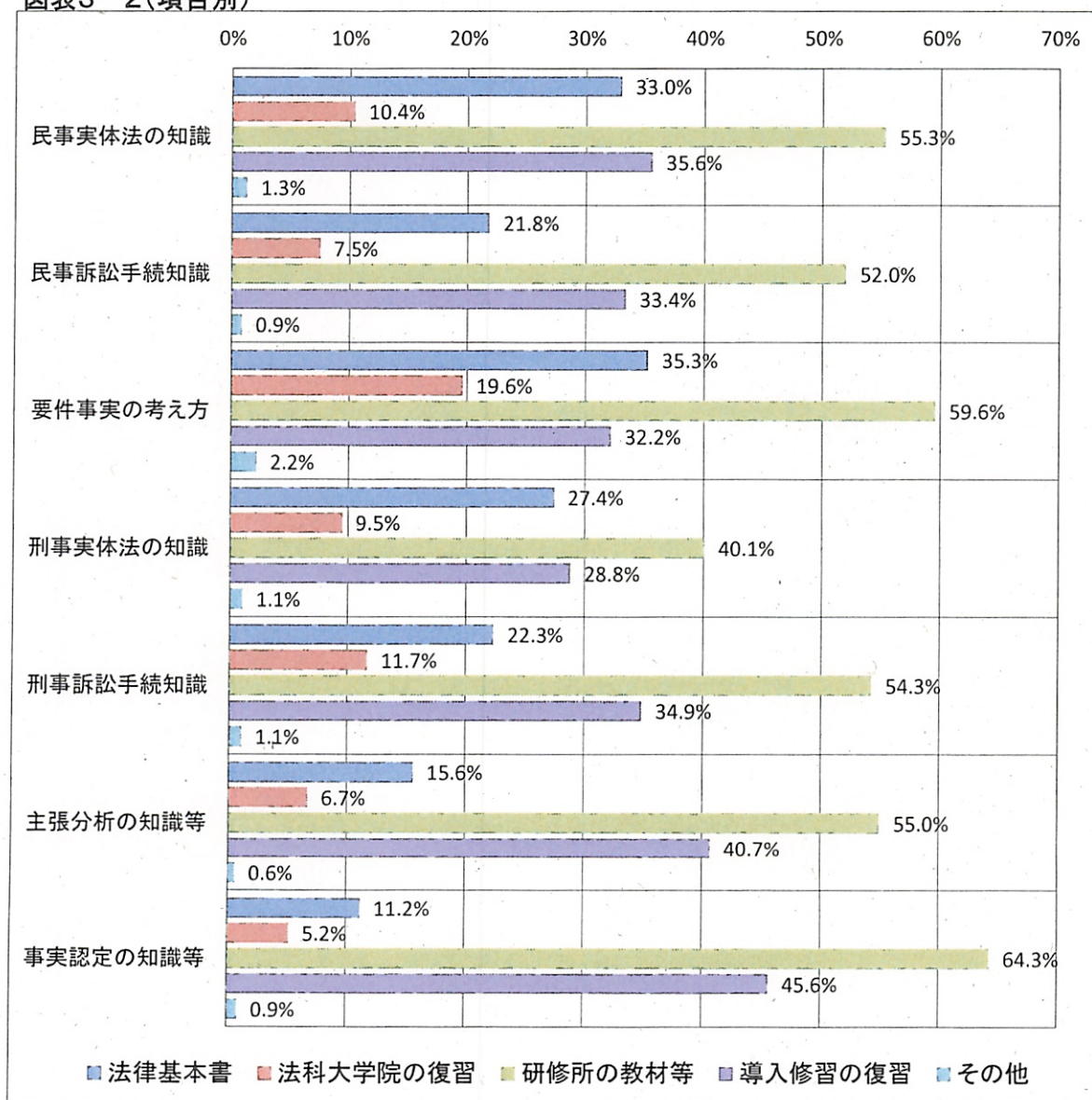
○ 自学自修の内容

図表3-1(各選択肢に1項目でもチェックを付けた人数の割合)



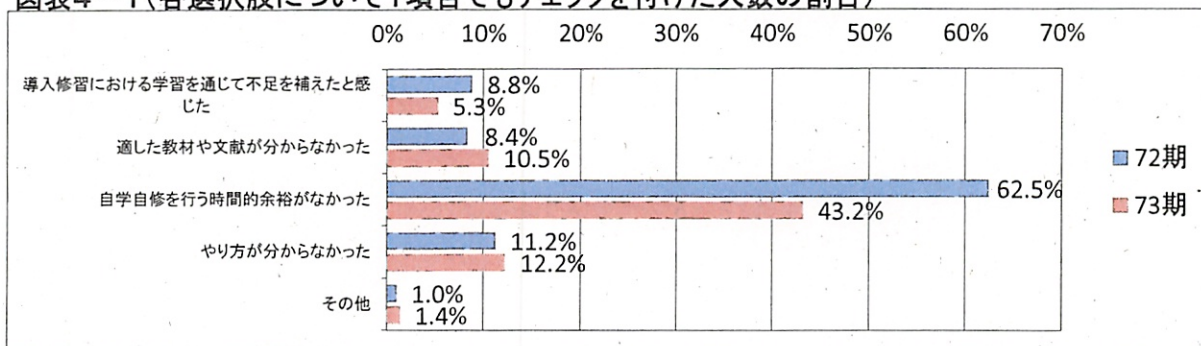
○ 自学自修の内容

図表3-2(項目別)



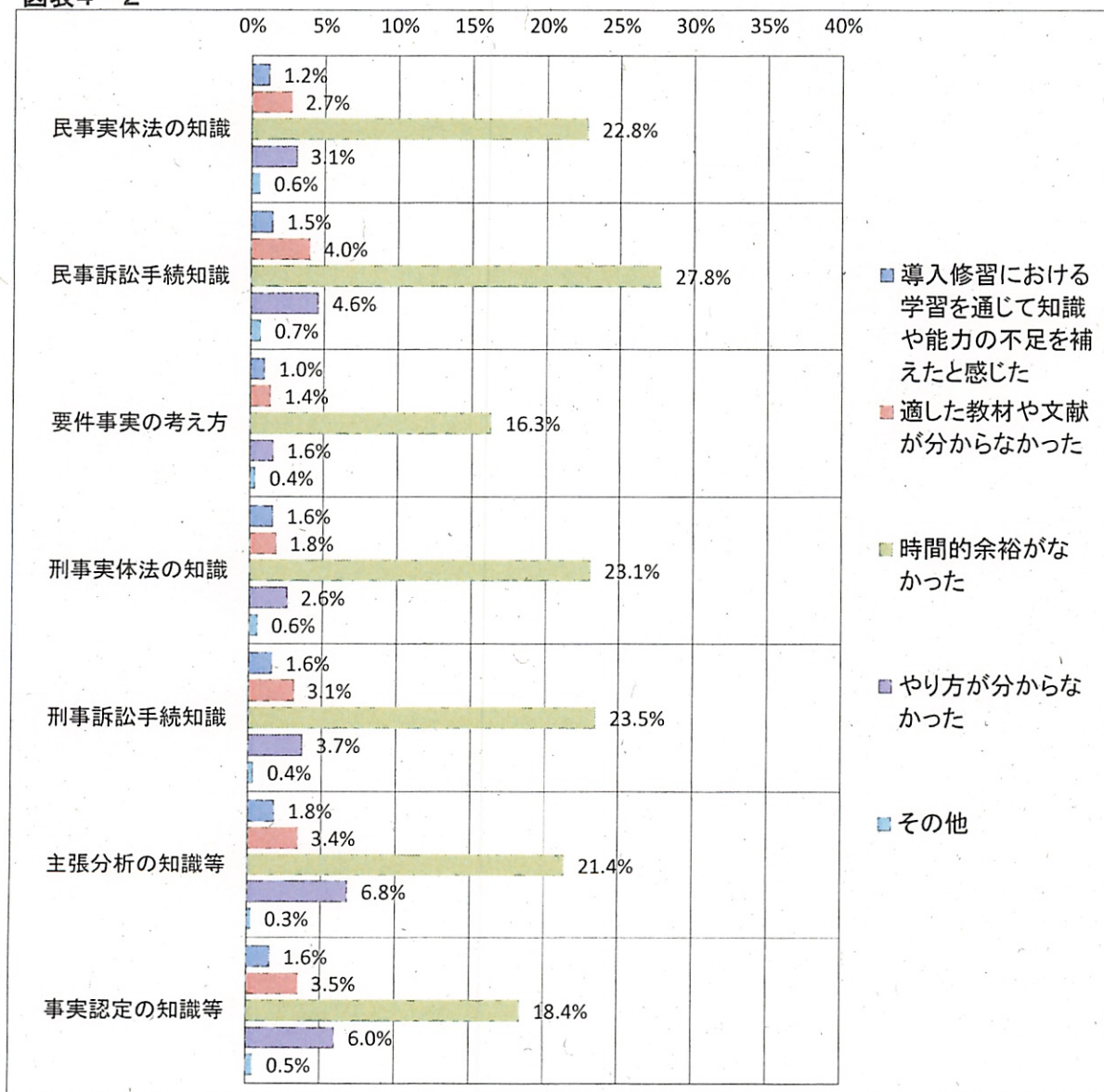
○ 自学自修に取り組まなかった理由

図表4-1(各選択肢について1項目でもチェックを付けた人数の割合)



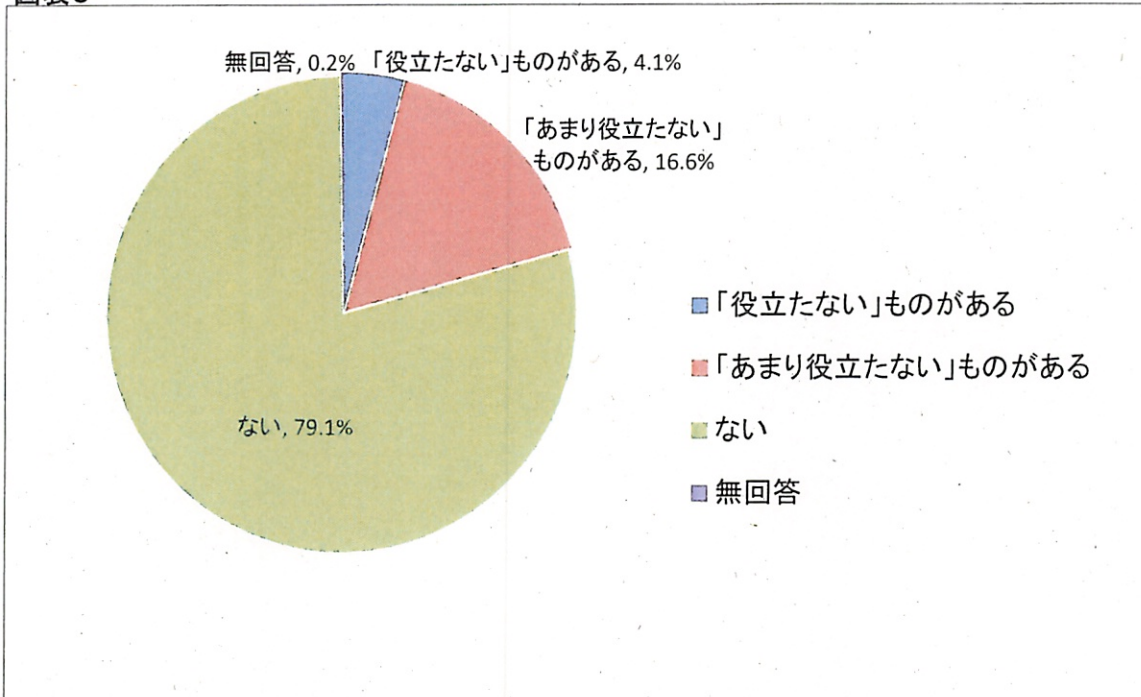
○ 自学自修に取り組まなかった理由

図表4-2



○ 導入修習のカリキュラムの中に「役立たない」ものがあると答えた者の割合

図表5

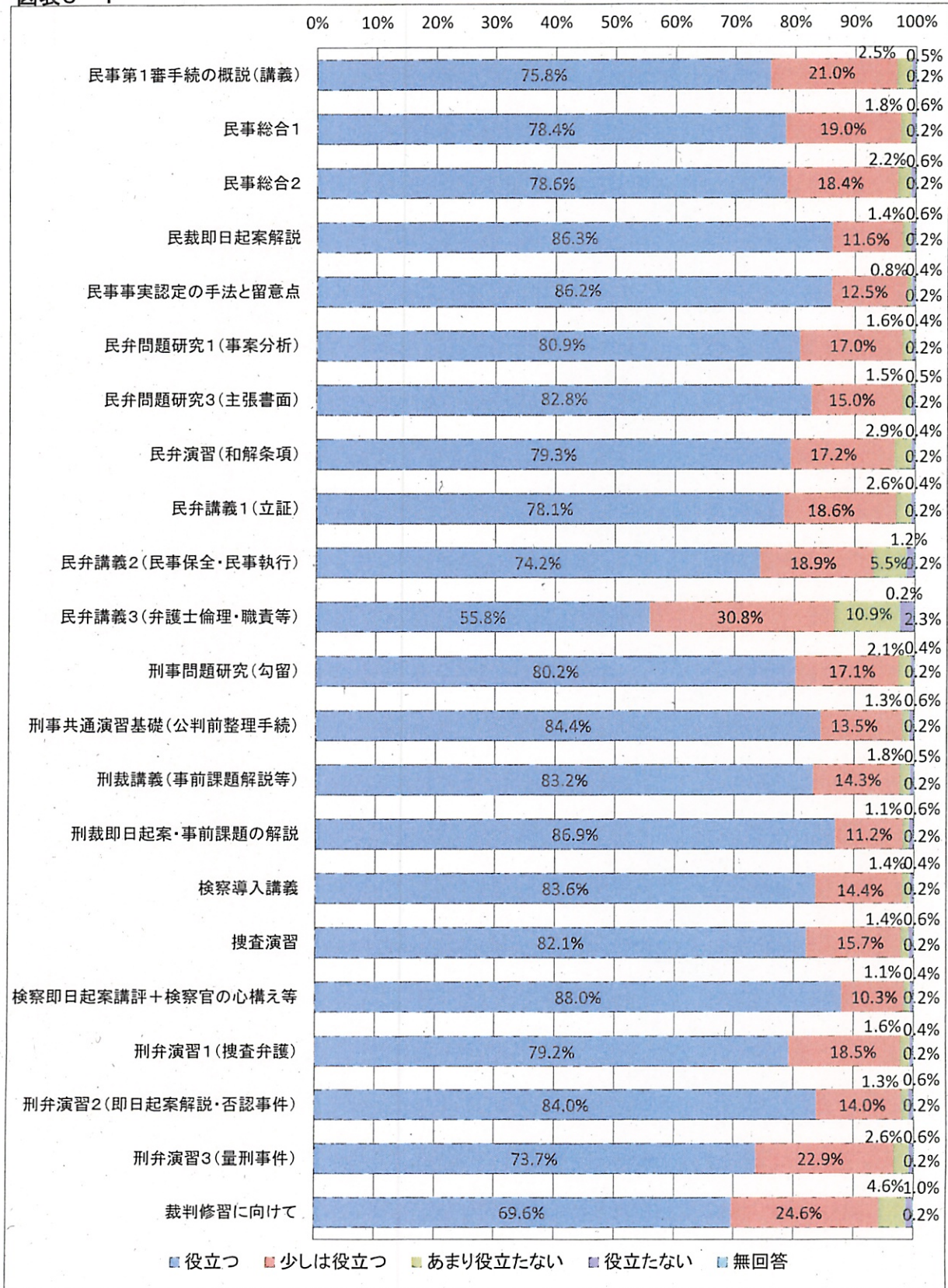


※「『役立たない』ものがある」は、一つでも「役立たない」を選択した者。

※「『あまり役立たない』ものがある」は、一つでも「あまり役立たない」を選択した者のうち、「役立たない」を選択した者を除く。

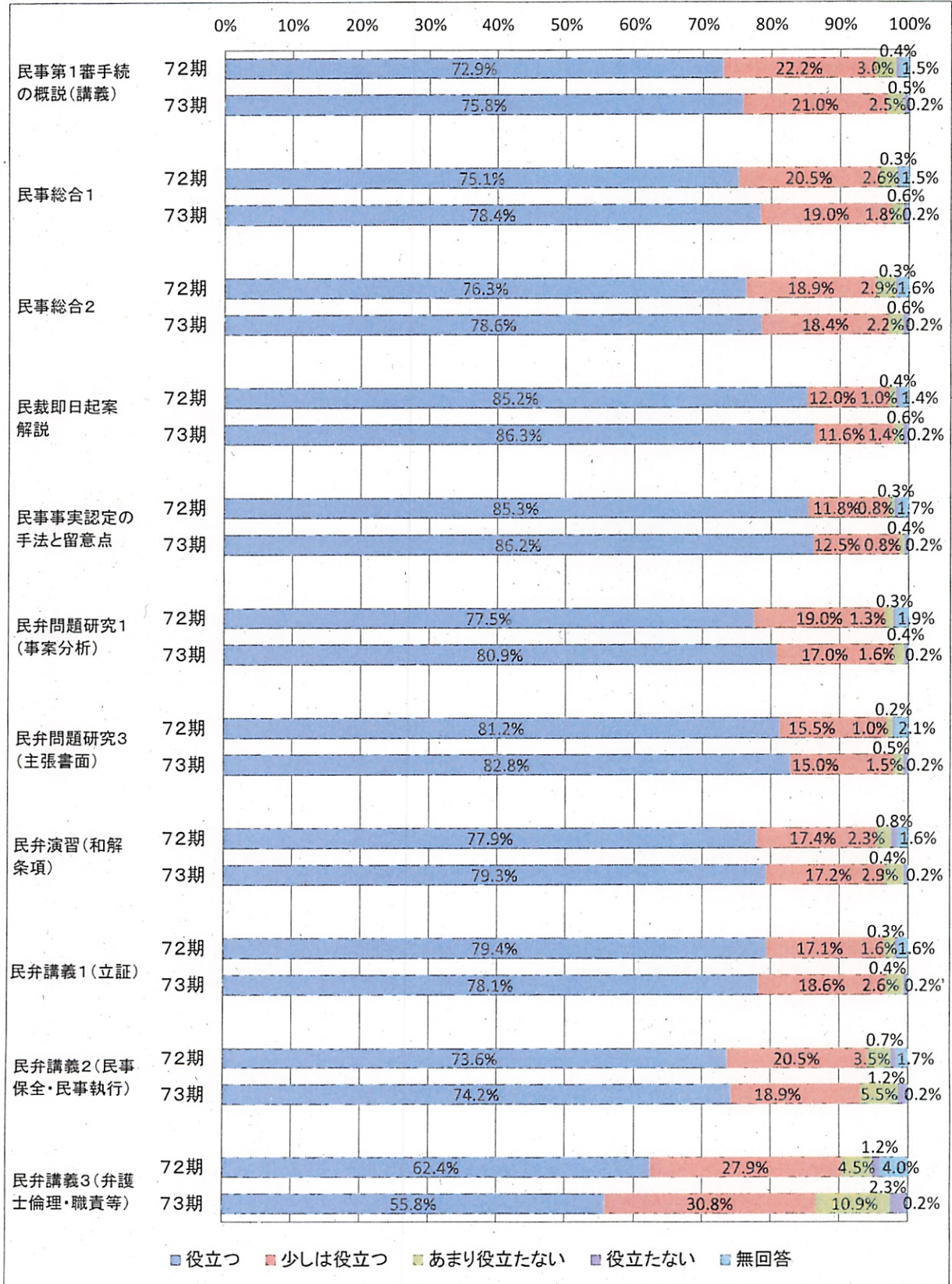
○ 導入修習の各カリキュラムはどの程度役立つと思うか

図表6-1

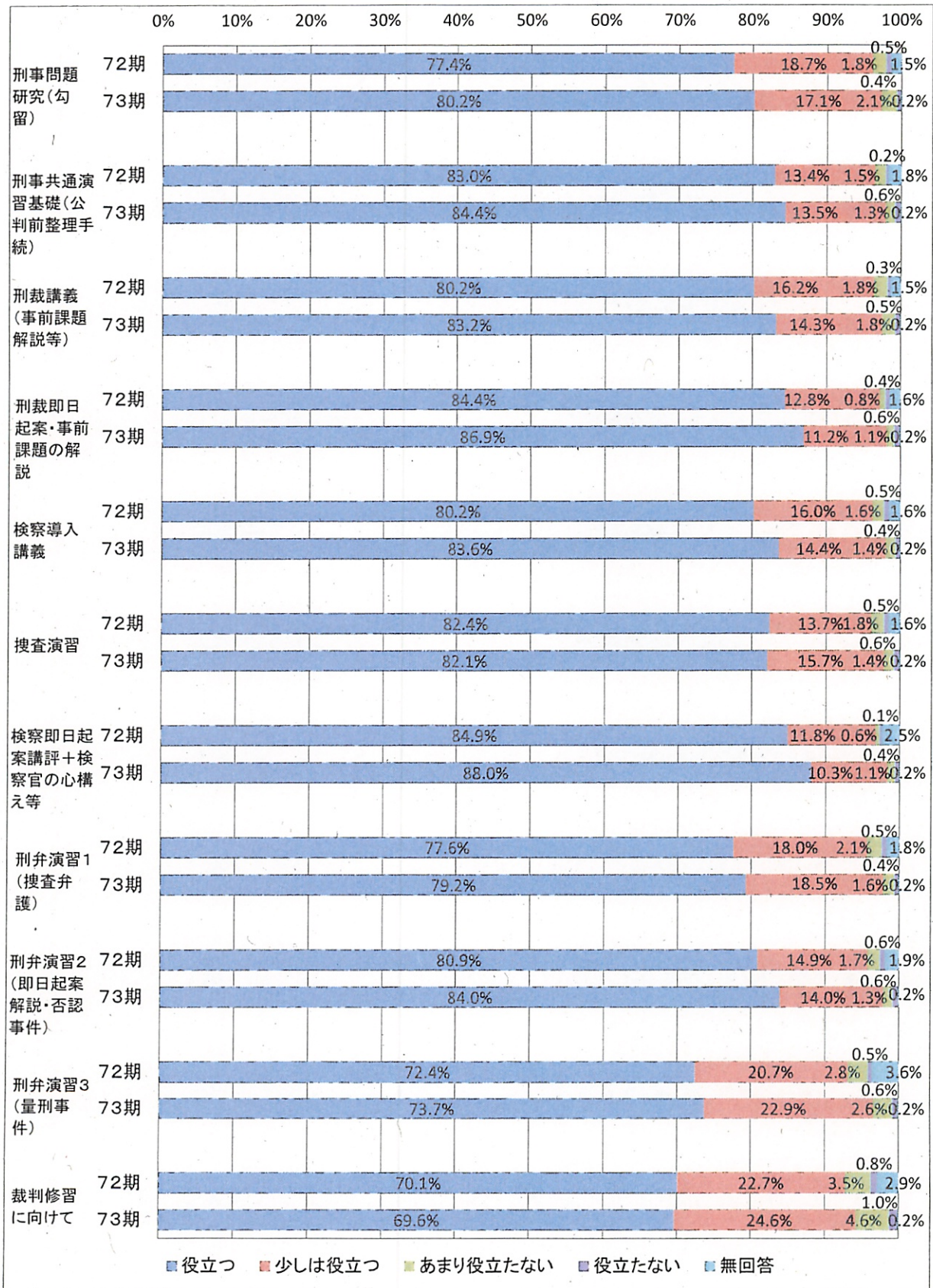


○ 72期との比較

図表6-2



※72期と73期でカリキュラム名称に一部変更があるが、内容的に対応するカリキュラムを比較したもの





**4 刑事関係（共通）**

(1) 知識・能力の項目ごとに、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

<input type="checkbox"/> ア	事実関係に応じてその法的処理にふさわしい法規範を選択・適用できる刑事実体法の知識
<input type="checkbox"/> イ	捜査・公判の各段階において、問題状況に応じて適切に選択・適用できる刑事訴訟手続の知識
<input type="checkbox"/> ウ	主張分析・法的構成に関する基礎的知識・理解
<input type="checkbox"/> エ	事実認定に関する基礎的知識・理解
<input type="checkbox"/> カ	口頭表現能力
<input type="checkbox"/> ク	その他（
<input type="checkbox"/> オ	事実調査に関する基礎的知識・理解
<input type="checkbox"/> キ	文章表現能力

(2) どのような場面・理由で不足・課題を感じましたか(必要に応じ(1)ア～クの項目を示してください。複数選択可。)

**5 刑事裁判**

(1) 以下の基礎的な理解について、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

<input type="checkbox"/> 令状請求の判断に必要な基礎的知識・理解	<input type="checkbox"/> 公判前整理手続での主張・証拠の整理に必要な基礎的知識・理解
<input type="checkbox"/> 公判手続の進行に必要な基礎的知識・理解	<input type="checkbox"/> 争点判断のための事実認定に必要な基礎的知識・理解

(2) (1)で課題を感じた理解を深めるため、刑裁実務修習で取り組みたいと考えていることと、実務修習中、どのような自学自修が必要と考えているかを記載してください。

**6 検察**

(1) 以下の基礎的知識・能力について、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

<input type="checkbox"/> ア 捜査の進展に伴う事実認定（動的事実認定）	<input type="checkbox"/> イ 補充捜査	<input type="checkbox"/> ウ 取調べ
<input type="checkbox"/> エ 終局処分（ <input type="checkbox"/> 犯人性の認定 <input type="checkbox"/> 犯罪の成否等）	<input type="checkbox"/> オ 公判活動	<input type="checkbox"/> カ 決裁等口頭報告

(2) (1)で選択した項目について、どのような場面で不足・課題を感じたか、実務修習中、どのような方法で学修したいと考えているかを記載してください(必要に応じ(1)ア～カの項目を示してください。複数選択可。)

(3) 実務修習で経験したいことや受けたい指導があれば記載してください。

**7 刑事弁護**

(1) 以下の各項目の理解に関し、前記※の1～3から当てはまるものを選んで「回答欄」に記入してください。

<input type="checkbox"/> ア ケースセオリーの意義・確立方法	<input type="checkbox"/> イ 接見でのやり取り
<input type="checkbox"/> ウ 釈放に向けた活動（手段、主張・立証）	<input type="checkbox"/> エ 公判前整理手続における弁護人の役割
<input type="checkbox"/> オ 説得のために必要な事実の抽出	<input type="checkbox"/> カ 説得のために必要な事実の評価
<input type="checkbox"/> キ 検察官の立証構造の把握	<input type="checkbox"/> ク 弁論の構成
<input type="checkbox"/> ケ 尋問において獲得すべき事実	<input type="checkbox"/> コ 行為責任の考え方を踏まえた情状立証

(2) 特に課題を感じた項目(複数可)に関し、(1)ア～コの項目を示し、その理由を記載してください。また、実務修習で経験したいことや受けたい指導があれば記載してください。

令和元年12月6日

司法研修所事務局

73期司法修習生のみなさんへ

## 導入修習に関するアンケート及び導入修習チェックシートについて

### 1 導入修習に関するアンケート

導入修習に関するアンケートを実施しますので、各自、パソコン等を利用してID等通知書記載のウェブページにアクセスし、画面の表示に従って各設問に対する回答を入力してください。

このアンケートは、導入修習を経験した皆さんから実情をうかがって今後の参考にするためのものですから、必ず、回答期限（令和2年1月6日）までに入力を行ってください（回答結果は無記名で集計しますので、忌憚のないご意見をお寄せください。）。

なお、インターネットにアクセスできない場合には、調査係窓口にご相談してください。

### 2 導入修習チェックシートについて

#### (1) 本シートの趣旨・目的

導入修習は、現時点でみなさんに不足している実務基礎知識・能力に気付いてもらい、円滑に分野別実務修習を行えるようにすることを目的としています。しかし、せっかく導入修習で自分の課題に気付いても、実務修習でその課題に取り組まなければ、みなさんが導入修習を十分に活かすことができたとはいえません。

そこで、みなさんが導入修習において自分の知識・能力等に課題があると感じた場合に、その気づきをみなさんに意識してもらい、実務修習期間中の自学自修に活かしてもらおうとともに、これを実務修習の指導担当者等に送付して、指導に活かしてもらおうことを目的として、導入修習チェックシートを作成してもらっています（現時点で課題があるのは当然のことですし、以上のような趣旨・目的のものでありますから、成績評価等には一切関係ありません。）。

#### (2) 本シートの作成・提出方法

ID等通知書記載のウェブサイトアクセスし、12月24日（火）までにシートを作成・保存をして提出してください。作成に当たっては、上記(1)の趣旨・目的をよく理解した上で、導入修習のカリキュラムごとに、自らに不足している知識・能力等について感じたことを逐次メモするなどし、それらを整理して作成してください。そして、本シートを作成後、必ず、A4用紙1枚に「両面印刷」して、実務修習結果簿の所定の場所に綴り込むようにしてください。本シートの趣旨・目的を

踏まえ、提出の直前に慌てて思い出しながら作成するようなことのないように注意してください。

なお、インターネットにアクセスできない場合には、企画係窓口にご相談してください。

### (3) 作成に当たっての注意点

① 「経歴」欄は、法科大学院（LS）修了（既修＝1，未修＝2），LSを修了していない＝3の該当するものから選んで記入してください。

法科大学院修了者は、予備試験合格資格で司法試験を受験した場合でも、LS修了を選んでください。

② 各項目の自由記載欄は、指示に従ってできるだけ具体的に記載するようにしてください。実務修習中の取組や自学自修について記載する際に、学修に当たって悩んでいること、分からないことなどについて記載しても差し支えありません。

### (4) 本シートの利用方法

上記(2)のとおり、みなさんは、本シートを作成後、必ず、A4用紙1枚に「両面印刷」して、実務修習結果簿の所定の場所に綴り込んで保存し、失くさないようにするとともに、実務修習期間中に随時見直し、自学自修や分野別実務修習に活用することを意識してください。また、実務修習の指導担当者と、本シートを用いて面談を行うなどして、実務修習の目標や取り組み方について相談してください。

本シートは、分野別実務修習の指導担当者のほか、司法研修所から、クラス担当教官や各配属庁会にも交付されます。ただし、第1クールに限っては、司法研修所からの送付が間に合わないため、クール開始の際に各自で分野別実務修習の指導担当者に交付してください。

各クールの終わりには、本シートの記載内容を踏まえて実務修習を振り返り、実務修習結果簿の該当頁に、取組の成果や自分の課題の状況について記載してください。

みなさんが、実務修習を有意義なものとし、大きく成長されることを期待しています。

以上

令和元年12月23日

司法研修所事務局

司法修習生指導担当者 各位

## 導入修習チェックシートの活用について

**1 本シートの趣旨・目的**

導入修習は、司法修習生に現時点で不足している実務的基礎知識・能力に気付かせ、円滑に分野別実務修習を行えるようにすることを目的としています。本シートは、その目的を十分に達成するため、司法修習生が導入修習において知識・能力等に課題があると感じた場合に、その気付きを司法修習生に自覚させ、実務修習中の自学自修に結び付けるとともに、これを実務修習の指導担当者と共有し、実務修習での指導に活用していただくために作成させるものです。

また、本シートの活用の一助として、導入修習における指導内容をまとめた「73期導入修習カリキュラムの概要」を令和2年1月中旬までには各配属庁会に送付いたしますので、併せて御参照ください。

**2 本シートの共有の範囲について**

- (1) 本シートは、第1クールは修習生本人から、第2クール以降は配属庁会を通じて、指導担当者に交付ないし配布されます。その際、原則として、各指導担当者が実際に指導を担当する司法修習生のシートのみを提供することとしておりますが、活用のため、以下の点に御留意ください。
- (2) 実際に指導に当たられる方が複数である場合、指導担当者間で共有してください。例えば、地方裁判所では、配属先(部)で指導に当たる裁判官全員が、当該司法修習生のシートを閲覧できるようにしてください(適宜写しを作成していただいて差し支えありません。)
- (3) 分野別実務修習の全体的な方針を検討する必要がある場合に、担当者が共有すること等は差し支えありません。例えば、弁護士会の司法修習委員会の委員間で共有していただくことが考えられます。

**3 本シートの活用方法**

本シートの活用方法としては、指導担当者におかれて、指導を担当する司法修習生との面談の材料として用いることなどが考えられます。具体的な活用方法は、各修習地・各指導担当者の実情に応じ、工夫していただくことが望ましいと考えておりますが、御参考までに、活用例を以下にいくつか紹介します(全てを実施することを求めるものではありません。)

- ・ 実務修習のクール開始時の面談の材料とし、どのような修習を行わせるか、どのようなポイントを重点的に指導するかを定める参考とする。
- ・ ある程度実務修習が進んだ段階で面談の材料とし、導入修習時に感じた課題に対する取組状況や、その後新たに気付いた課題がないか等を確認する。また、司法修習生の自己認識と指導担当者の客観的な評価を比較し、ずれがあればその原因について議論する等して、その後の実務修習のモチベーションを喚起したり、意識的に自己分析させ、取り組むべき課題を明確化したりして、実務修習の効果を高める。
- ・ 実務修習の終盤に面談の材料とし、当該クールでの取組を振り返らせ、成果を確認したり、なお残る課題について自覚させてその後の自学自修を促したりする。

なお、本シートは、その性質上、司法修習生の自己認識を記載したものであり、記載できる分量にも限りがあり、司法修習生の記載ぶりの個人差もありますので、本シートのみから得られる情報には限界があります。それを前提にしつつも、前記1で記載した目的の達成のため、有効に御活用いただきますようお願いいたします。

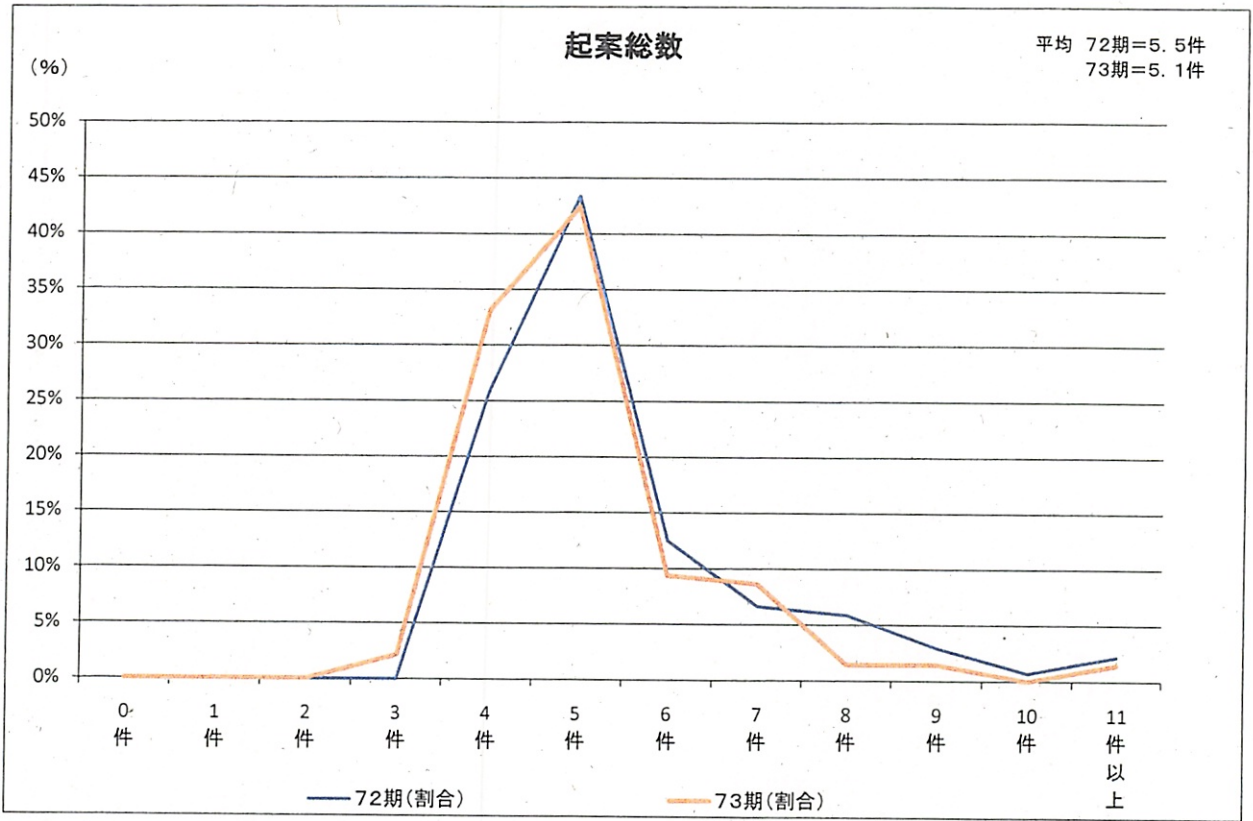
#### 4 司法修習生への周知について

司法修習生には、別添令和元年12月6日付け「導入修習に関するアンケート及び導入修習チェックシートについて」を配布し、本シートの趣旨について周知しておりますので、御参考として添付いたします。

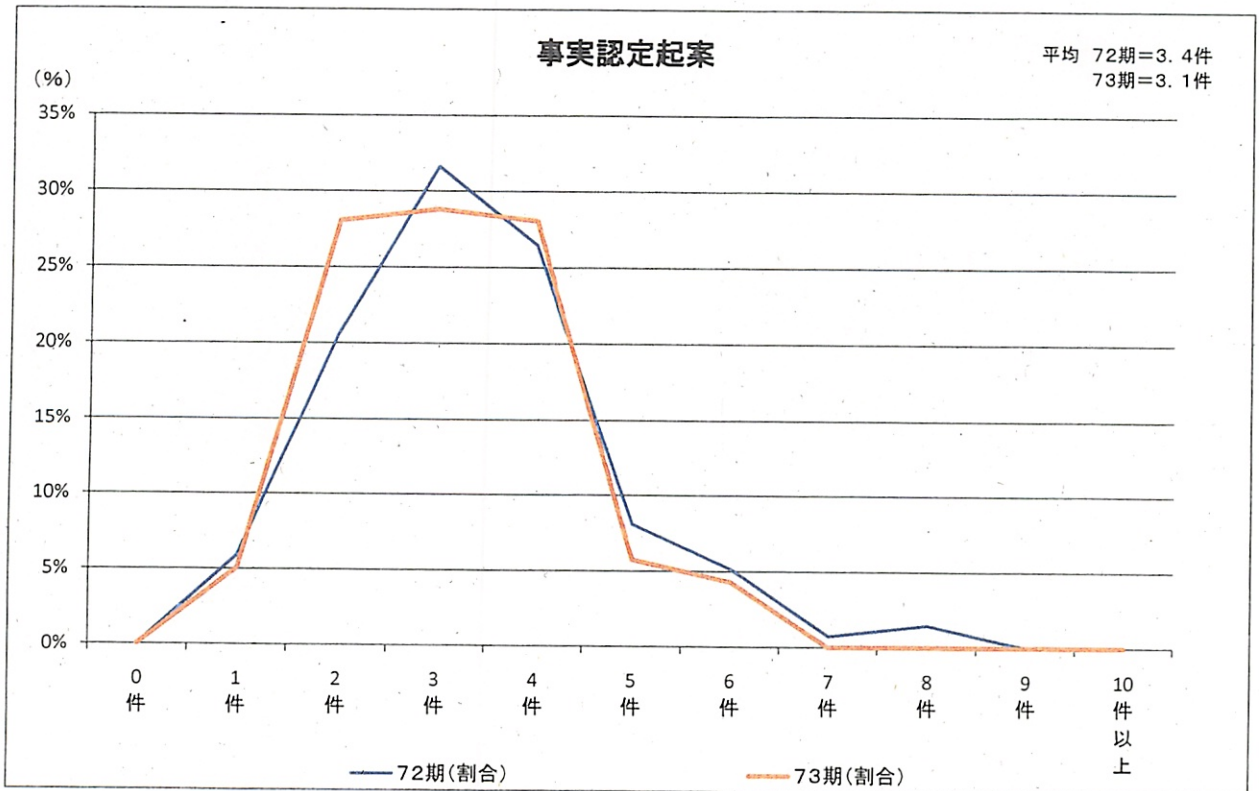
以 上

【修習結果簿(民事裁判修習:第1クール)集計結果】

グラフ1

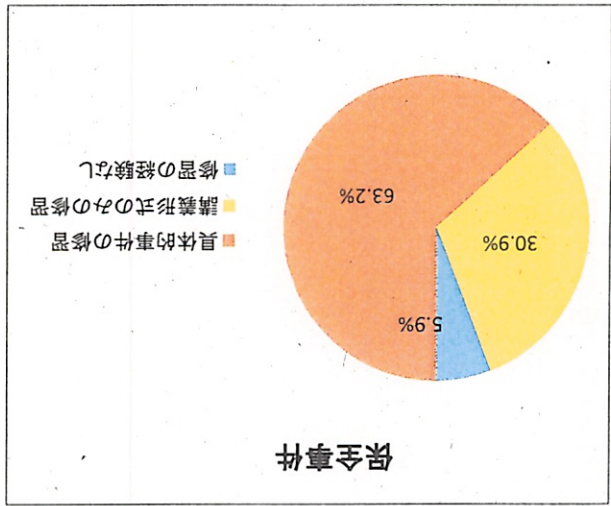


グラフ2

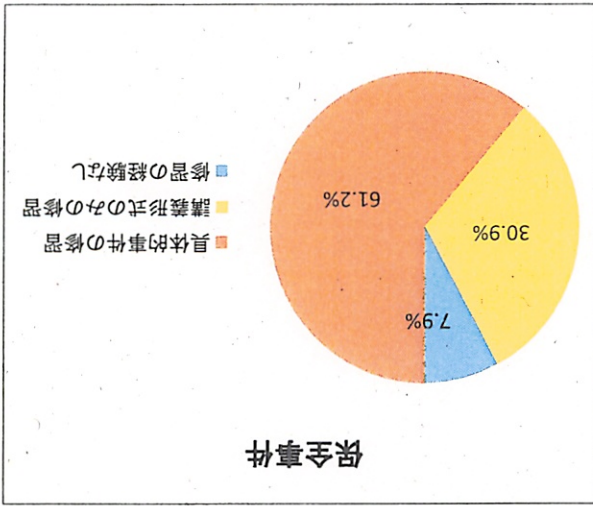


5574

【72期】



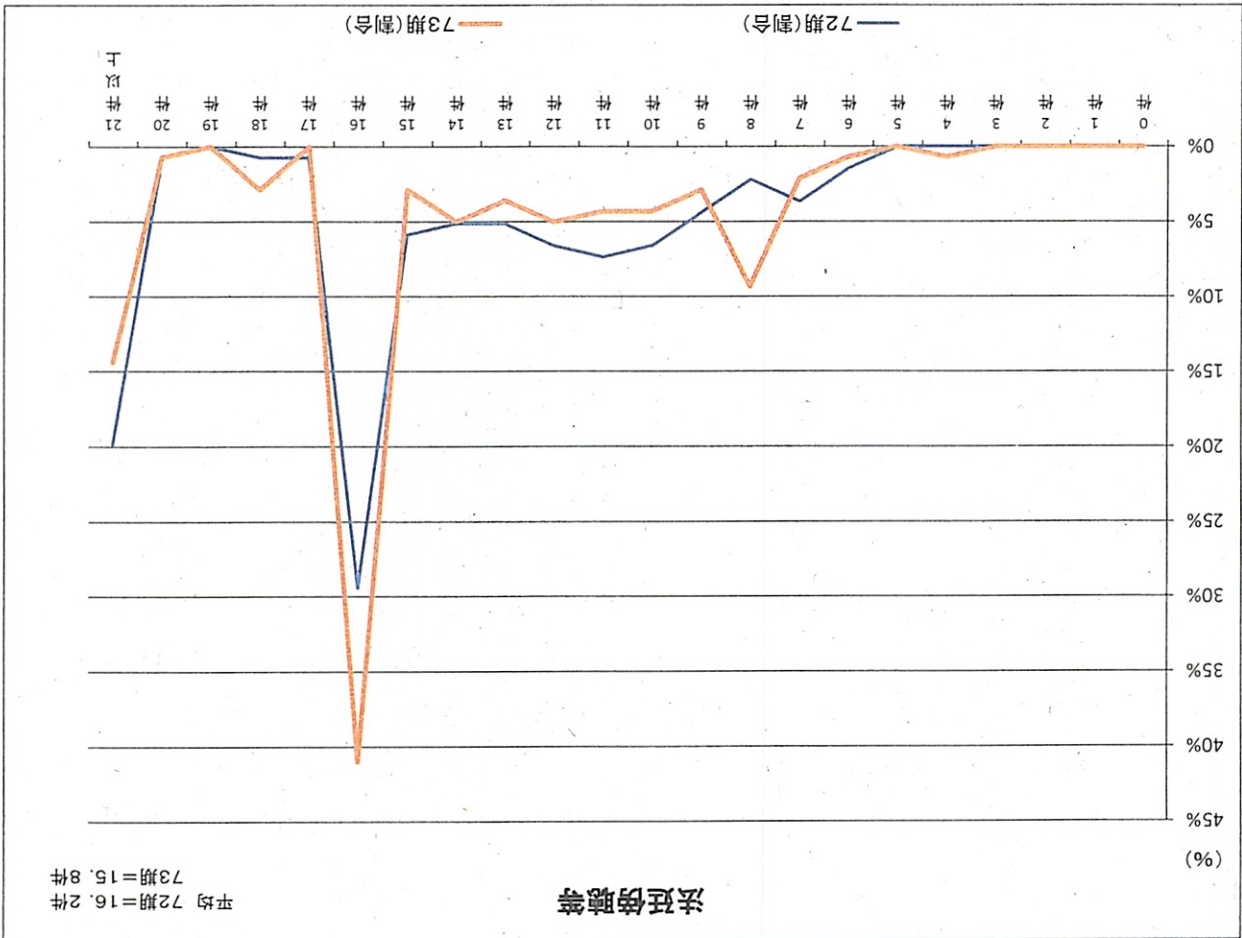
【73期】



5573

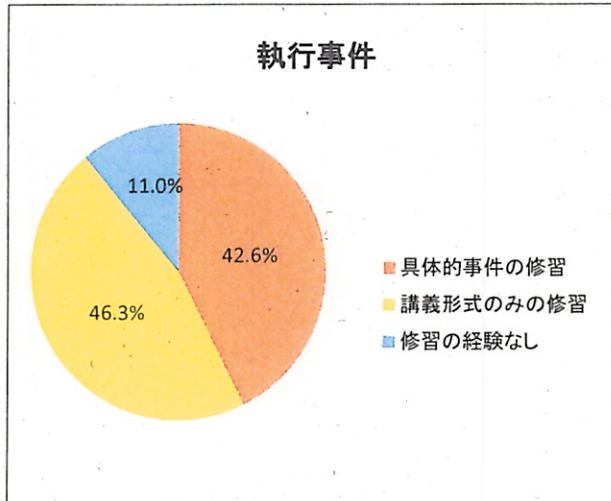
法廷傍聴率

平均 72期=16.2件  
73期=15.8件

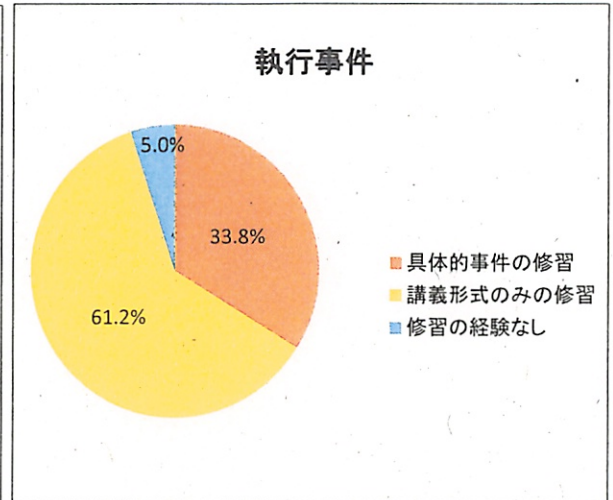


グラフ5

【72期】

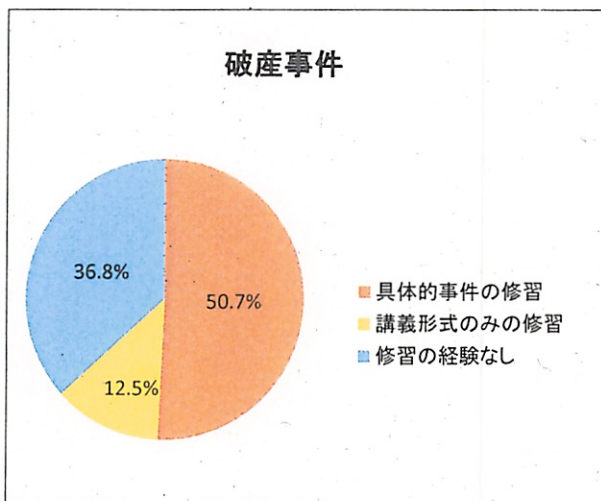


【73期】

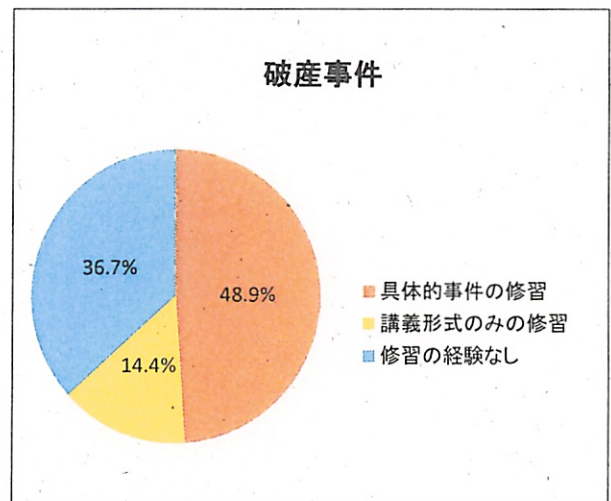


グラフ6

【72期】

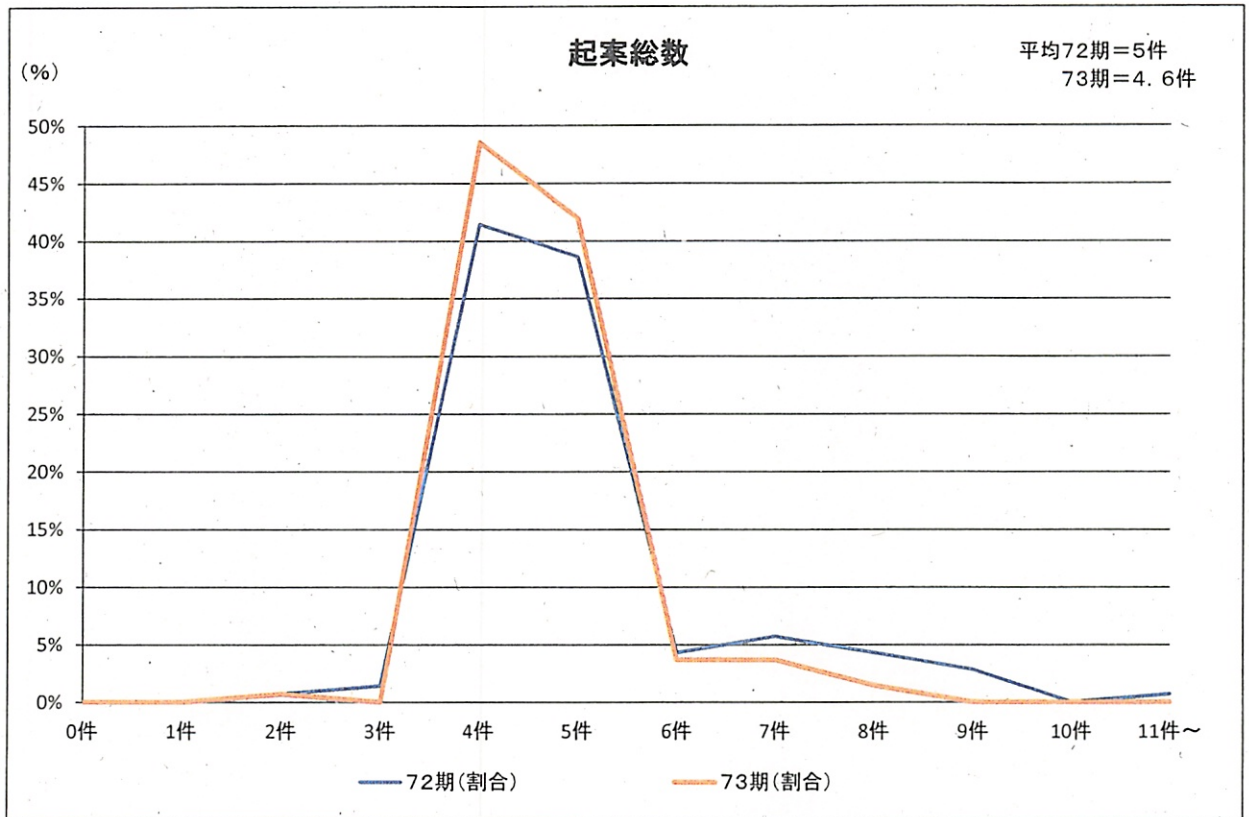


【73期】

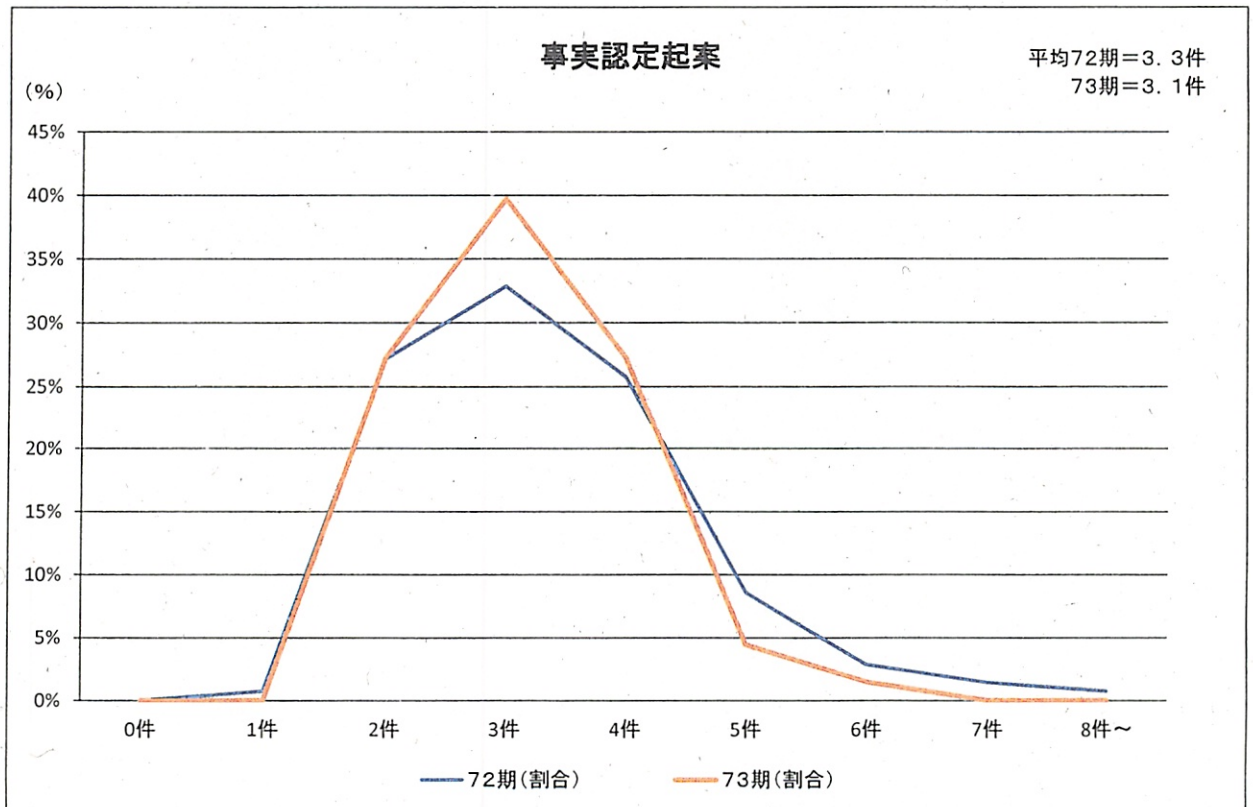


【修習結果簿(刑事裁判修習:第1クール)集計結果】

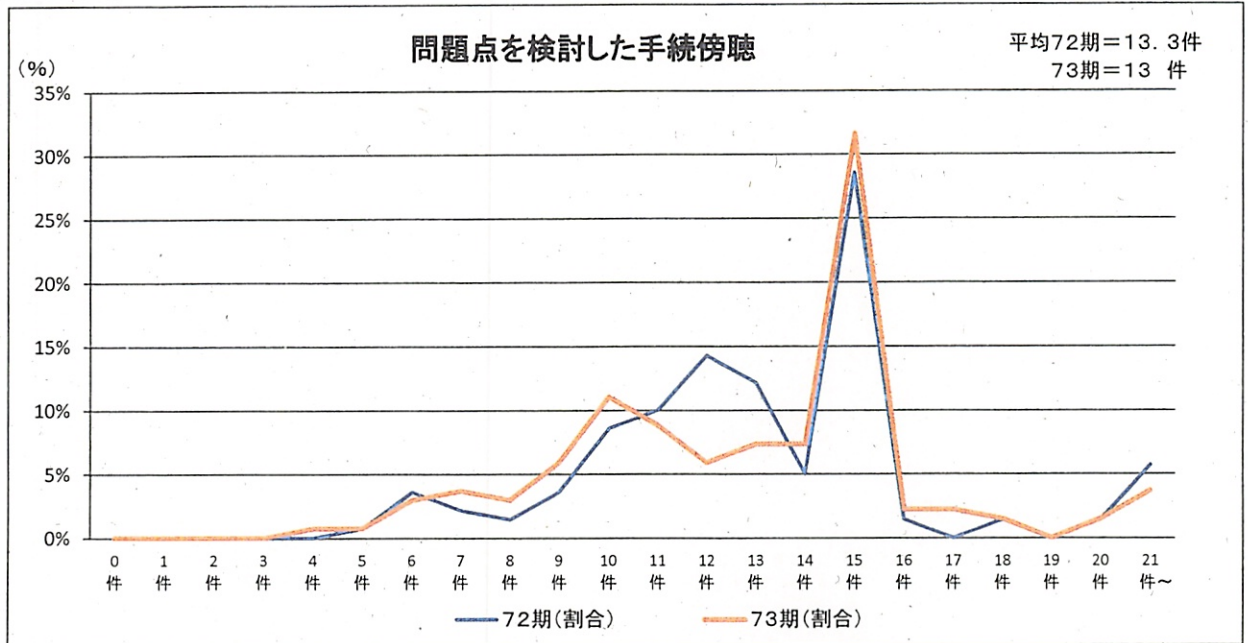
グラフ1



グラフ2

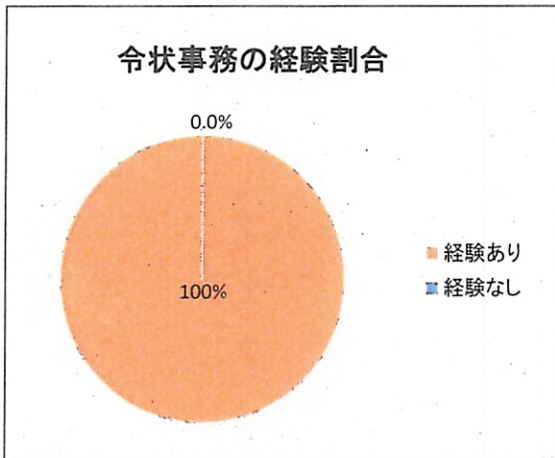


グラフ3

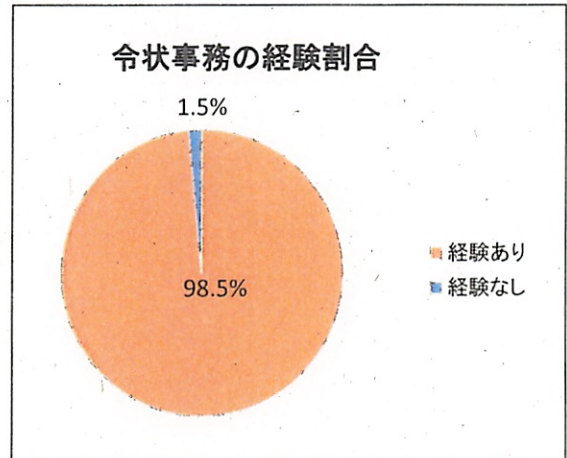


グラフ4

【72期】

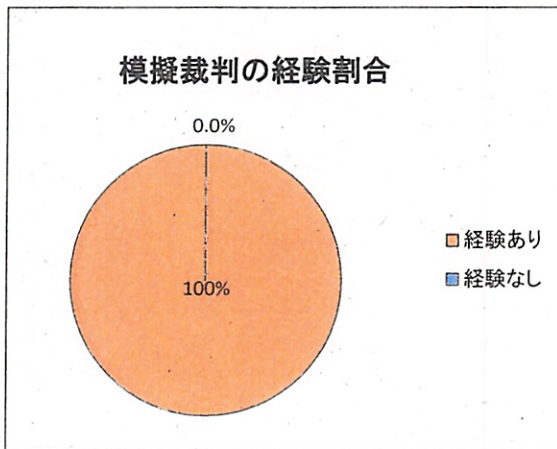


【73期】

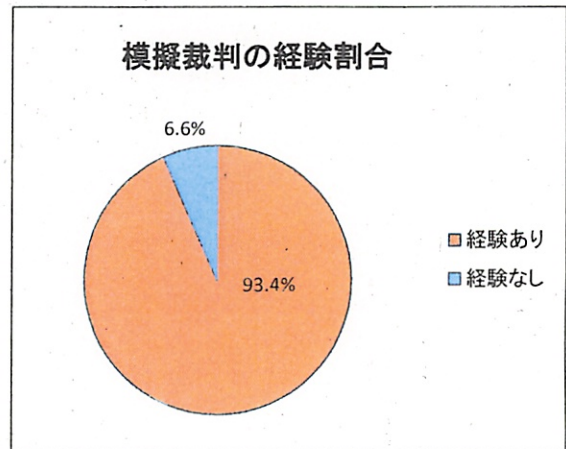


グラフ5

【72期】



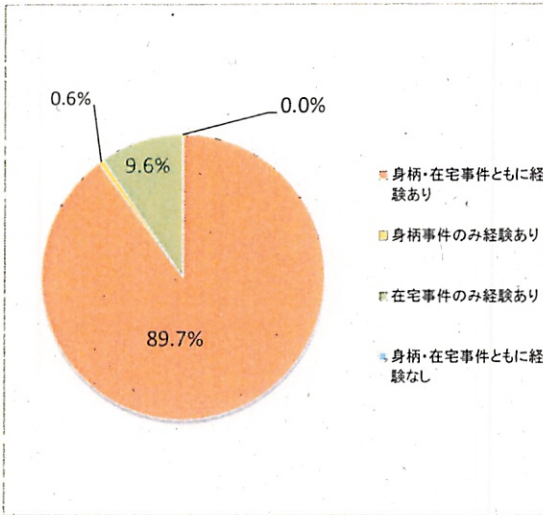
【73期】



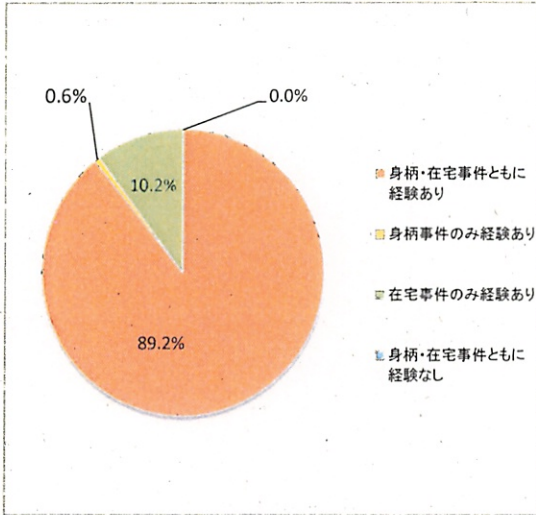
### 【修習結果簿(検察修習:第1クール)集計結果】

グラフ1 捜査実務修習(身柄・在宅事件の経験割合)

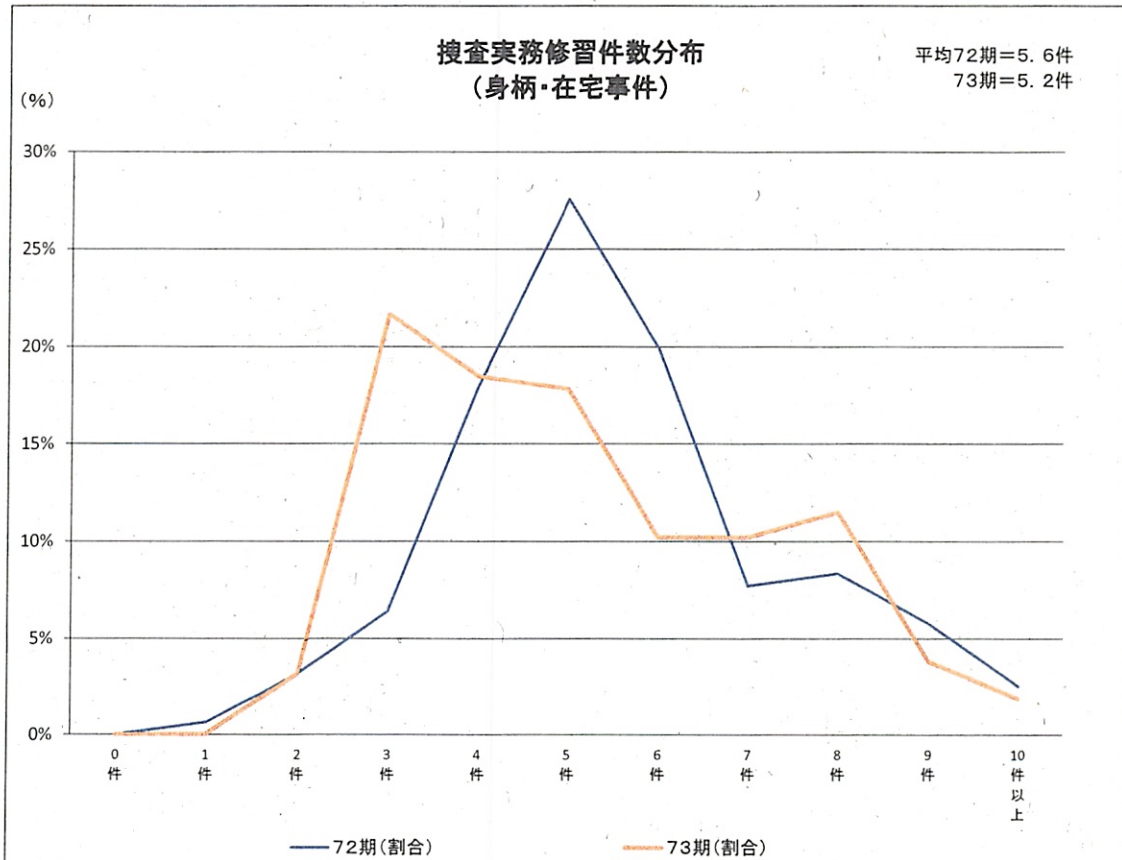
【72期】



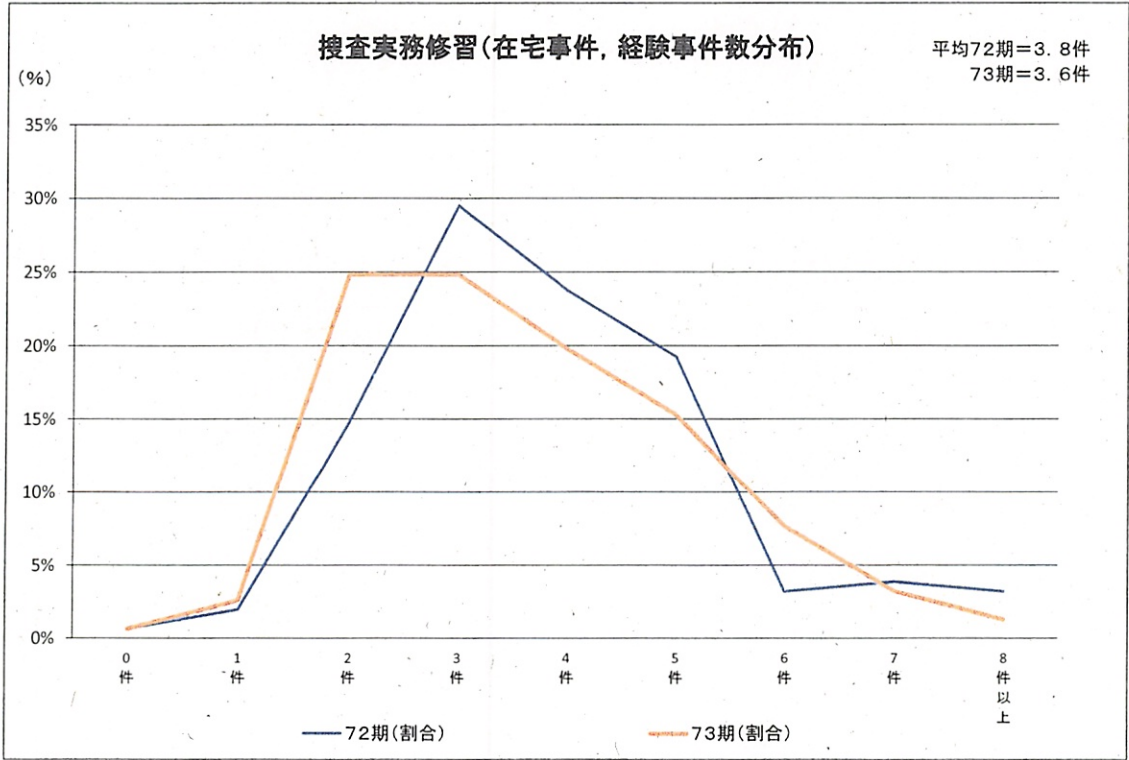
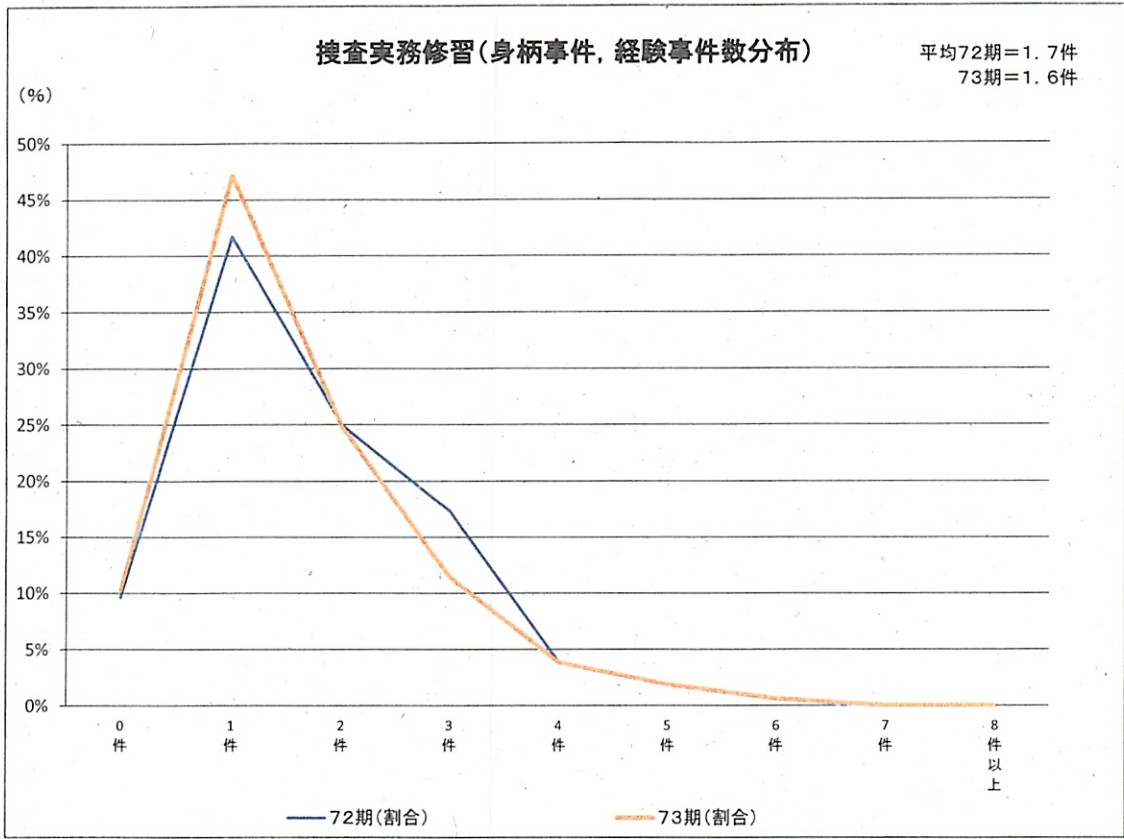
【73期】



グラフ2

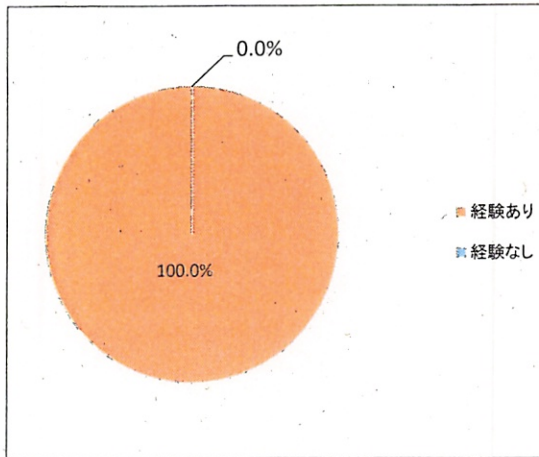


グラフ3

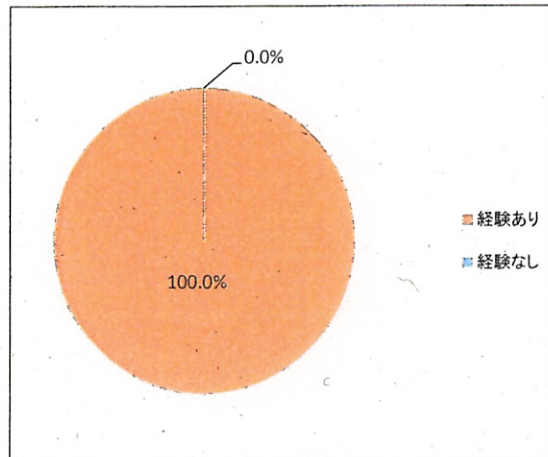


グラフ4 公判実務修習の経験

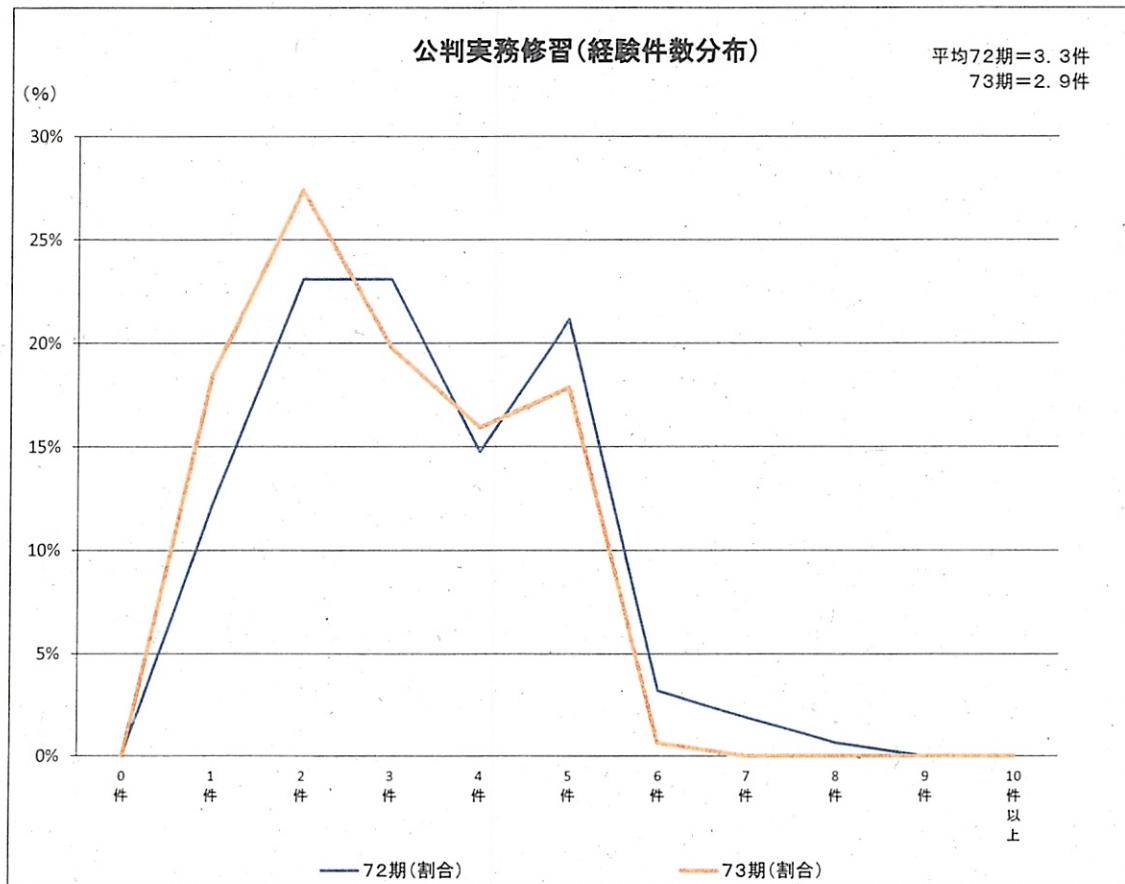
【72期】



【73期】

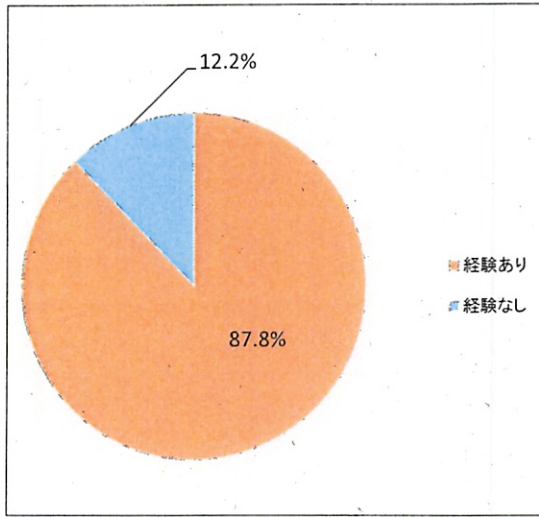


グラフ5

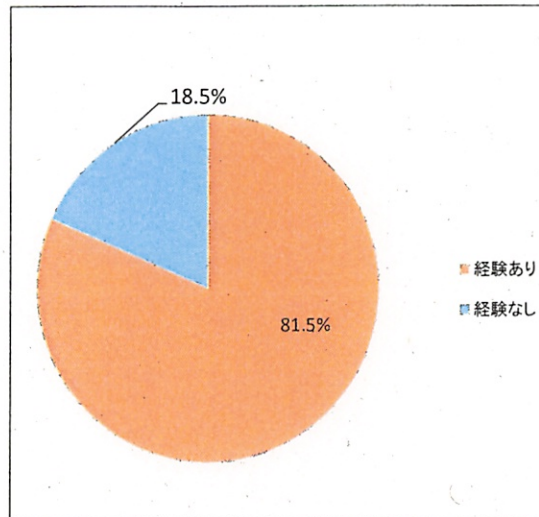


グラフ6 公判実務修習(起案の経験)

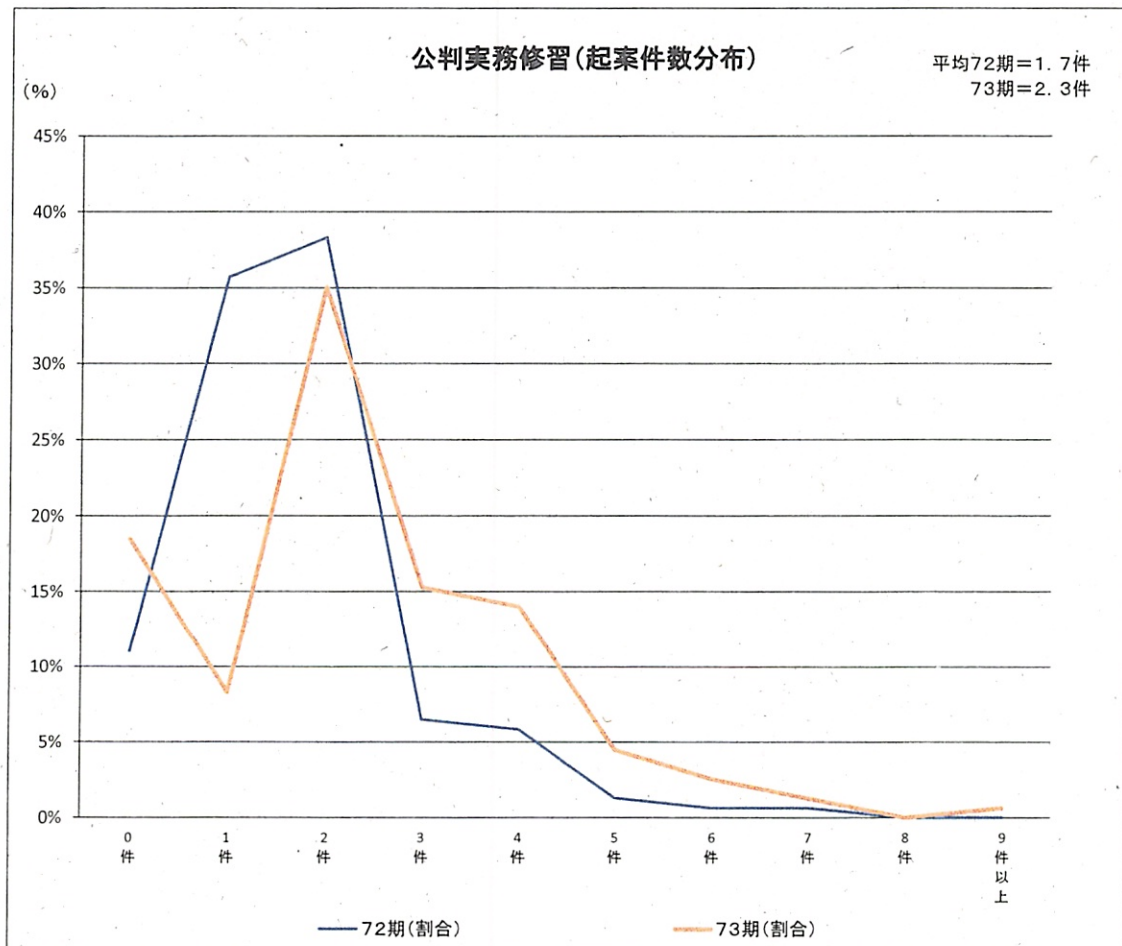
【72期】



【73期】

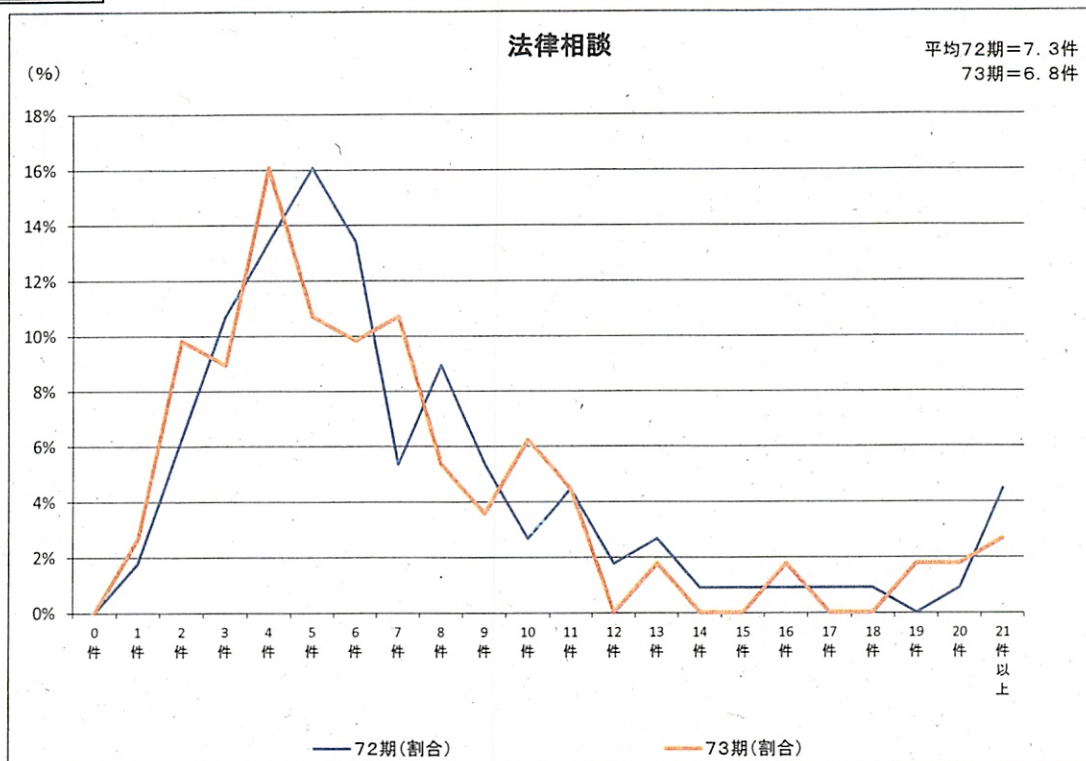


グラフ7



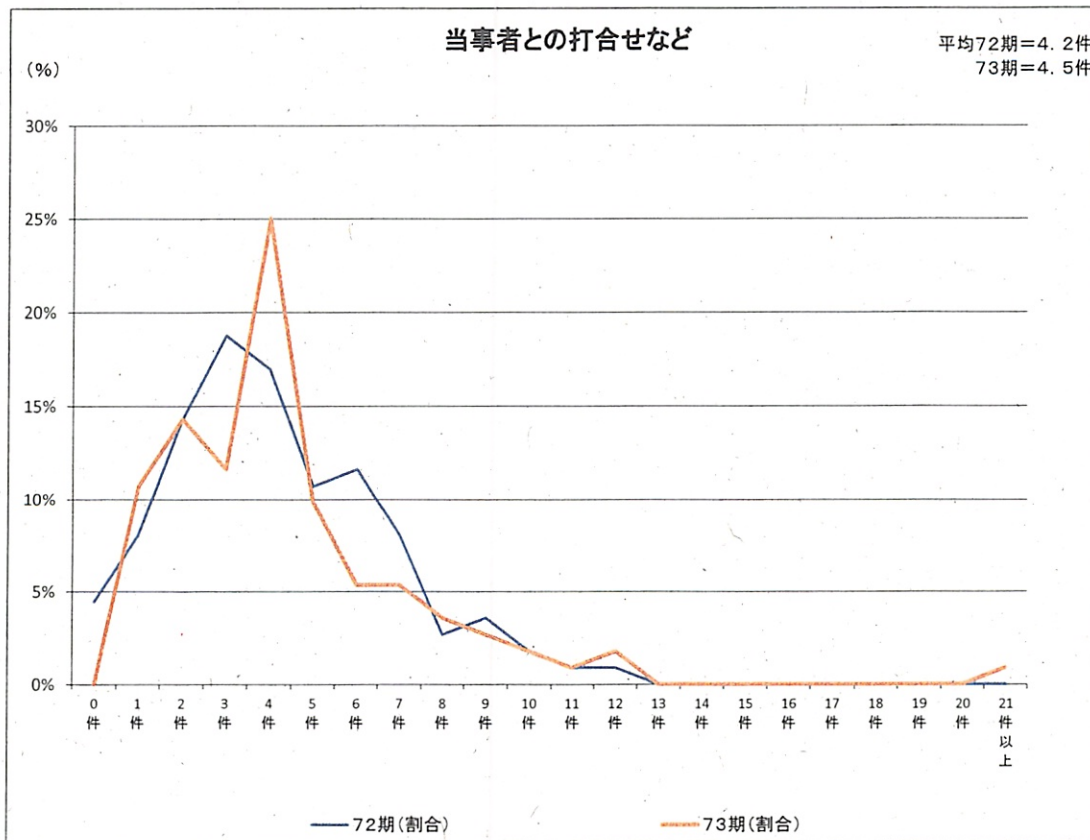
【修習結果簿(弁護修習:第1クール)集計結果】

グラフ1-1

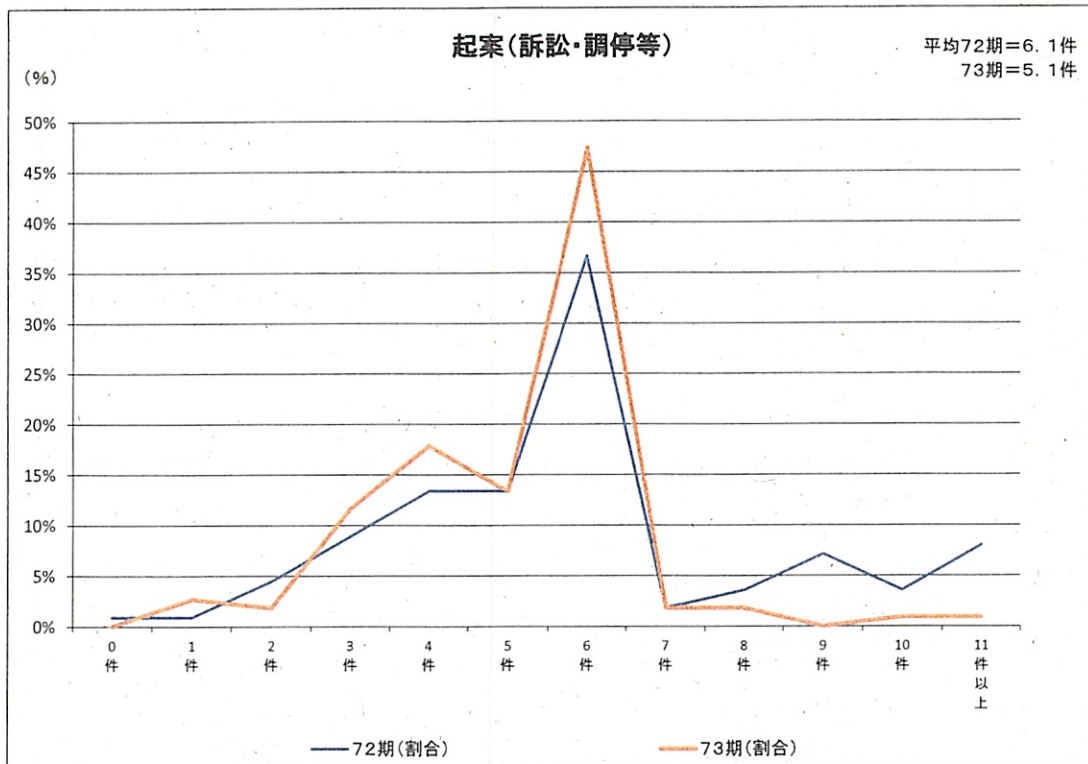


※ 法律相談(弁護士会、自治体及び事務所等におけるもの)、交渉、受任等の立会傍聴

グラフ1-2

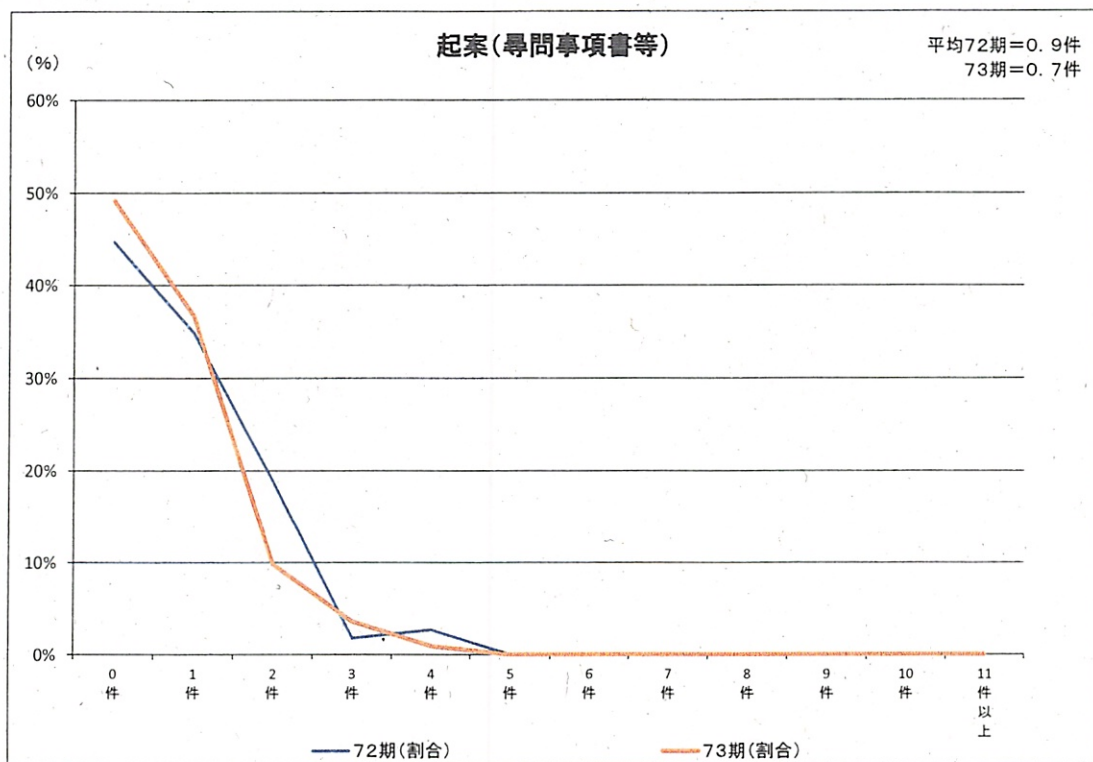


グラフ2-1



※ 訴訟, 調停[民事・家事], ADR等の訴状, 申立書, 準備書面, 内容証明等の起案

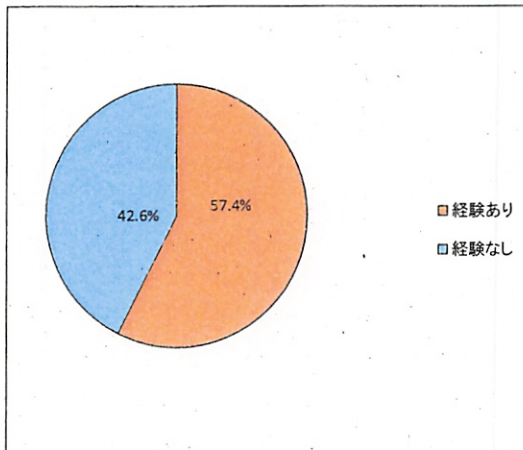
グラフ2-2



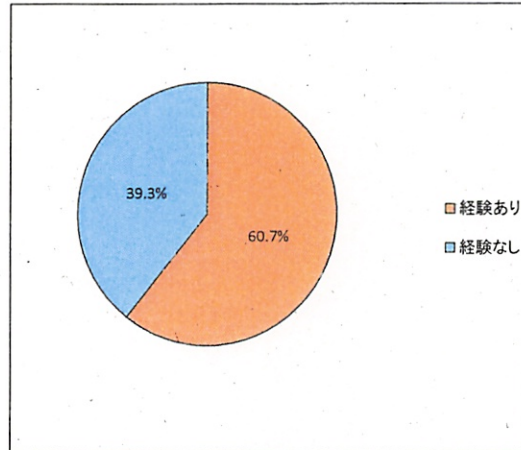
※ 尋問事項書・陳述書等の起案

グラフ3 保全・執行の経験有無

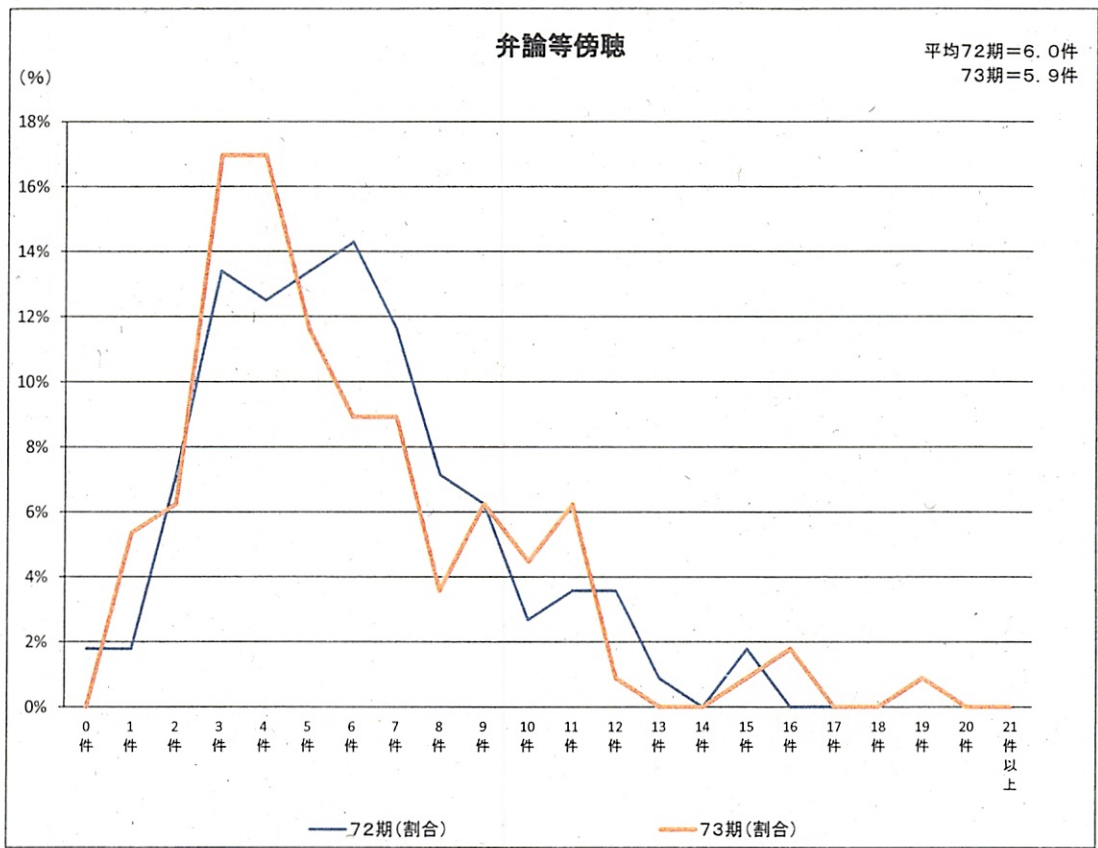
【72期】



【73期】

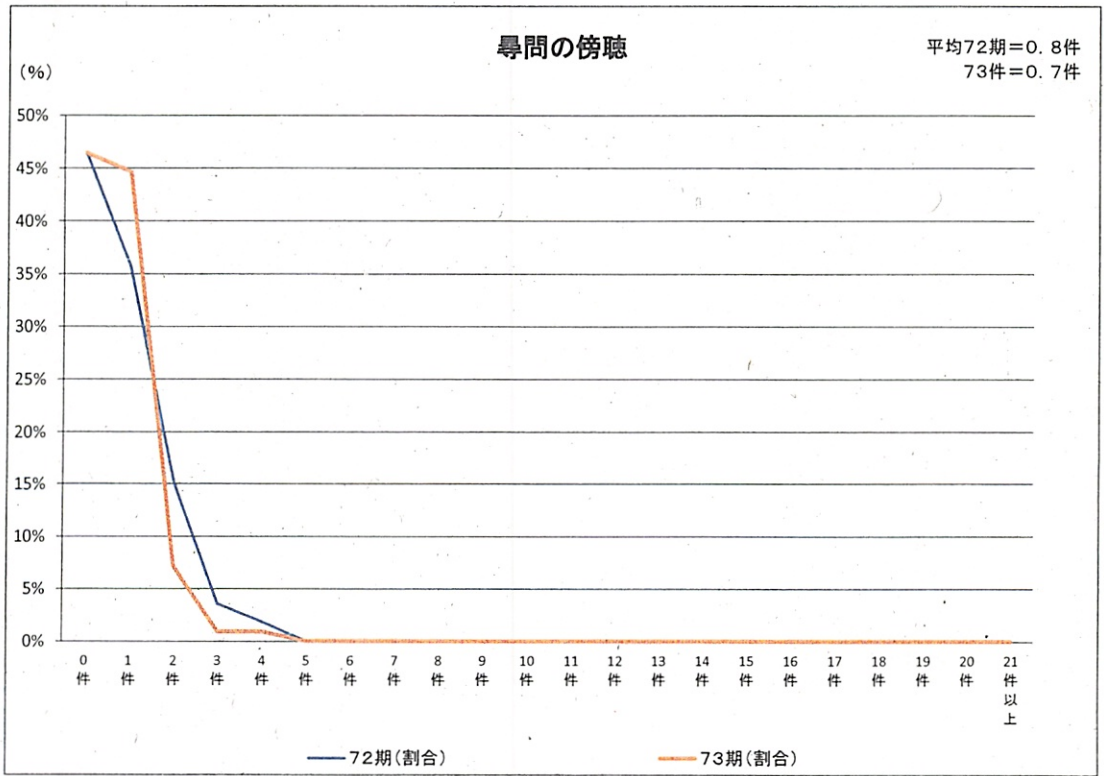


グラフ4-1



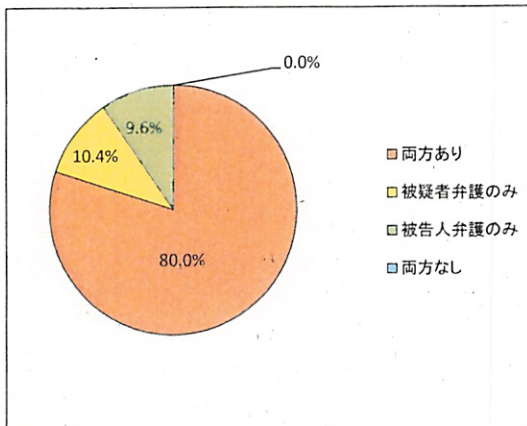
※ 口頭弁論, 弁論準備, 和解, 調停, 審判, 審尋, 裁判官面接等

グラフ4-2

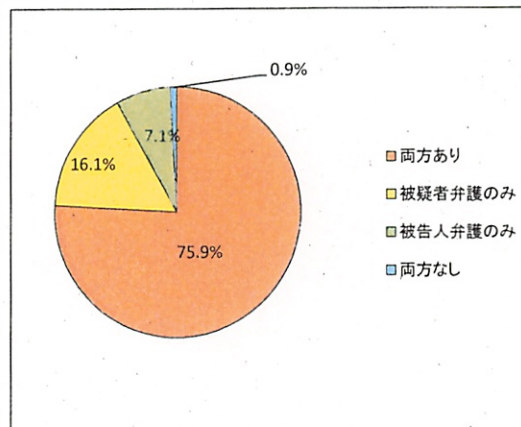


グラフ5 刑事弁護経験(被疑者・被告人弁護)の有無

【72期】

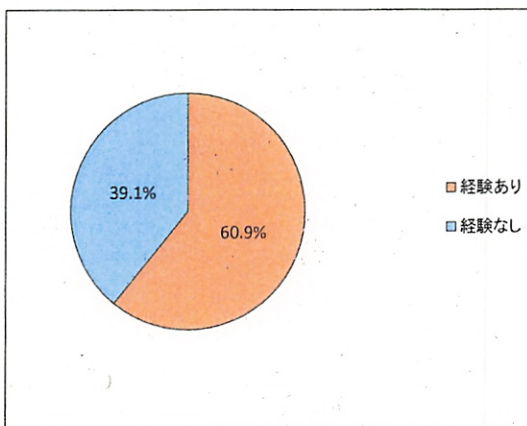


【73期】

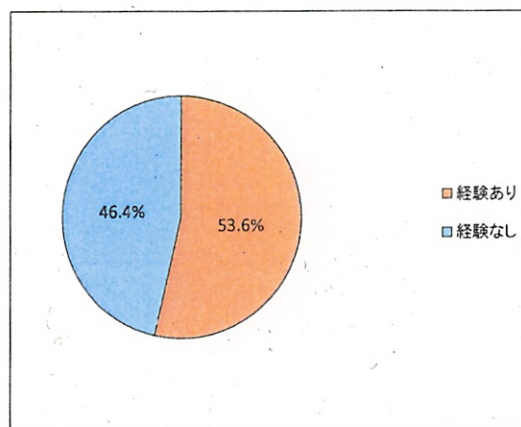


グラフ6 否認事件の経験の有無

【72期】

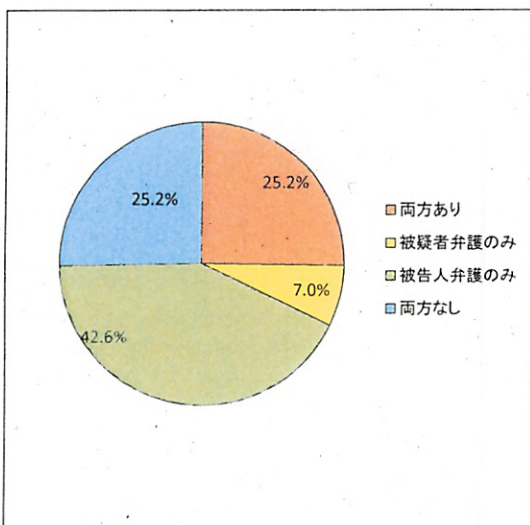


【73期】

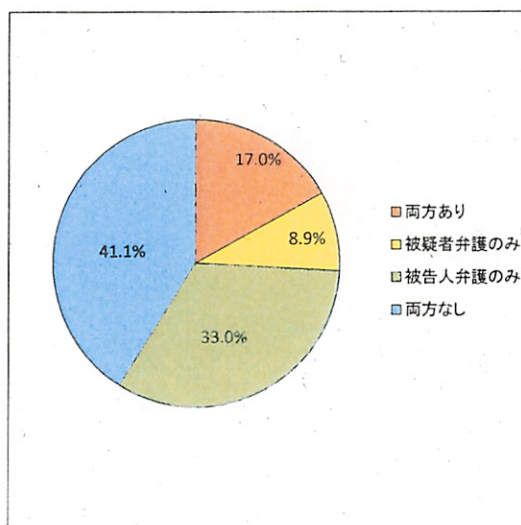


グラフ7 刑事起案経験(被疑者・被告人弁護)の有無

【72期】



【73期】



(令和3・1・15)

## 第73期集合修習A班カリキュラムの概要

司法研修所

## は し が き

令和元年度（第73期）司法修習生のうち、A班（実務修習地が東京、立川、横浜、さいたま、千葉、大阪、京都、神戸、奈良、大津及び和歌山である者）を対象とする集合修習のカリキュラムは、11クラス編成で令和2年8月17日に開始され、同年9月29日に終了した（その後、各実務修習地等において選択型実務修習が実施された。）。

第73期A班の集合修習のカリキュラムの概要は、この資料及び別添「令和元年度（第73期）司法修習生A班集合修習日程予定表」のとおりである。

集合修習のカリキュラム策定に当たっては、法科大学院において修得した学識及び実務の基礎的素養等並びに分野別実務修習の成果を踏まえて「幅広い法曹の活動に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的かつ汎用的な技法と思考方法」（司法修習生指導要綱（甲）第1章第1）を修得させる観点から、実務修習を補完し、司法修習生全員に、実務の標準的な知識、技法の教育を受ける機会を与えるとともに、体系的で汎用性のある実務知識や技法を修得させることを旨としている（要綱（甲）第3章第1）。

このような趣旨を踏まえ、第73期A班においても、修習記録を用いて司法修習生に文書を起案させ、討論、講評を行うことを指導の中心としつつ（同第4の1）、従来の司法修習で要求していたような法律書面の全体を形式面も含めて起案させることにはこだわらず、より実質的に、書面の内容の根底をなす思考過程を明らかにさせることを重視する方法で出題がされているほか、ロール・プレイングも含めた民事・刑事の様々な講義、演習、問題研究や法曹倫理、国際人権等に関する演習、講演なども実施された。

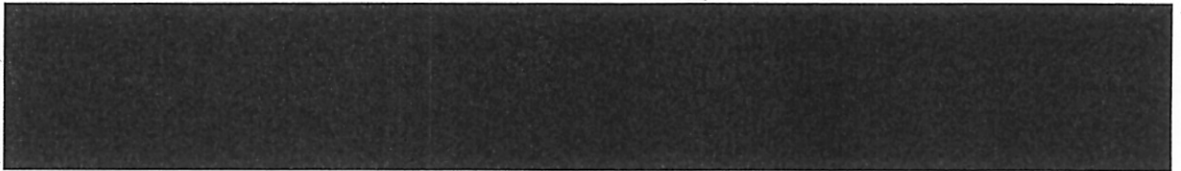
司法修習生指導担当者各位におかれては、本資料を今後の実務修習における指導の参考としていただきたい。

## 第1 民事関係科目

### I 民事裁判

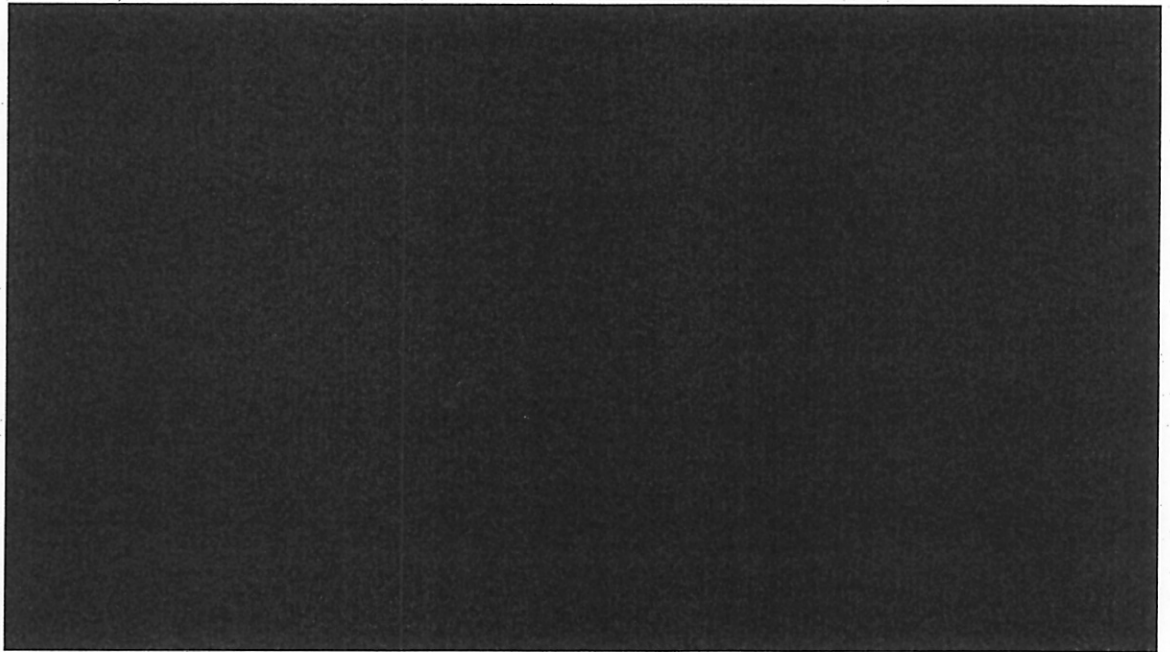
#### 1 講義

集合修習の冒頭に、集合修習に向けてのガイダンスをし、集合修習における民事裁判科目及び民事共通科目の修習内容を説明してその意義を理解させ、今後の学修方法に関する指導を行うことで集合修習への動機付けを行った。



#### 2 起案

##### (1) 総説



##### (2) 起案1

###### ア 事案の概要



イ 起案事項等

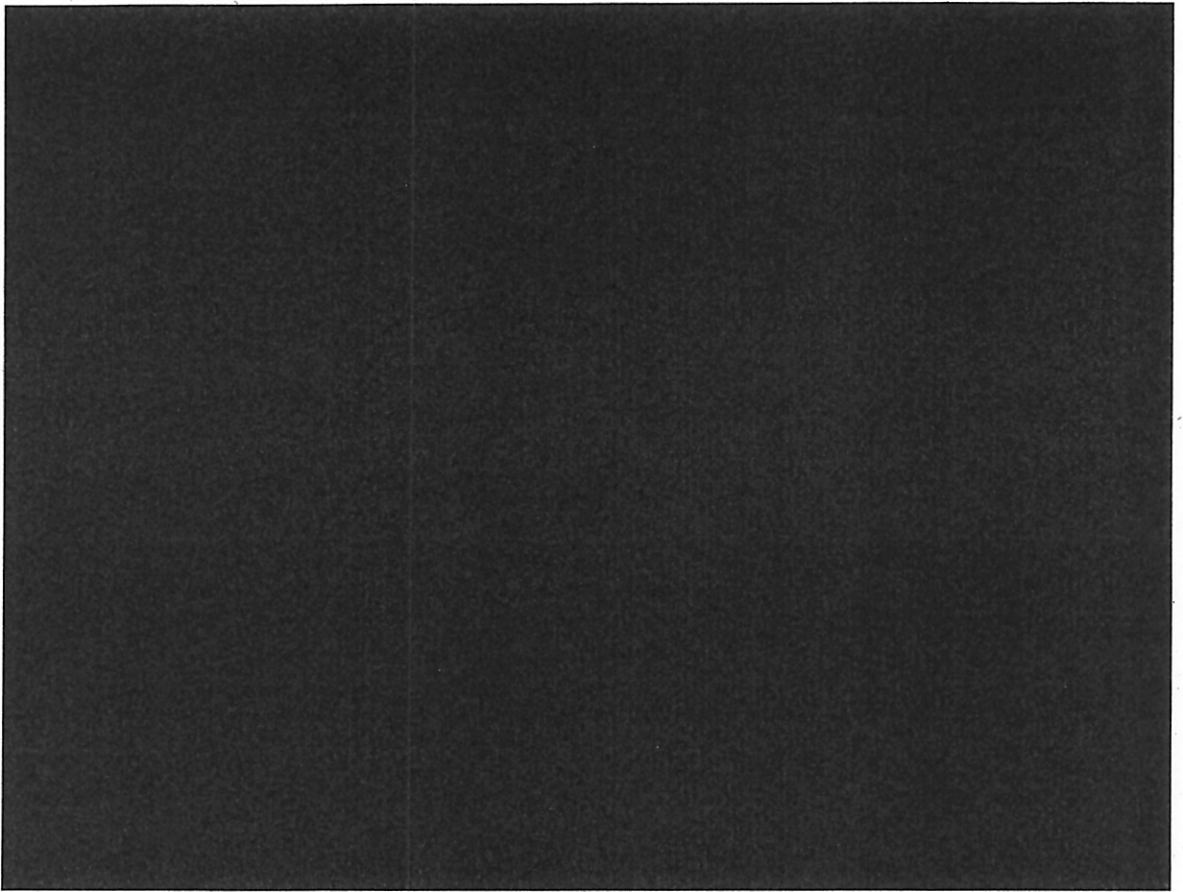
(3) 起案 2

ア 事案の概要

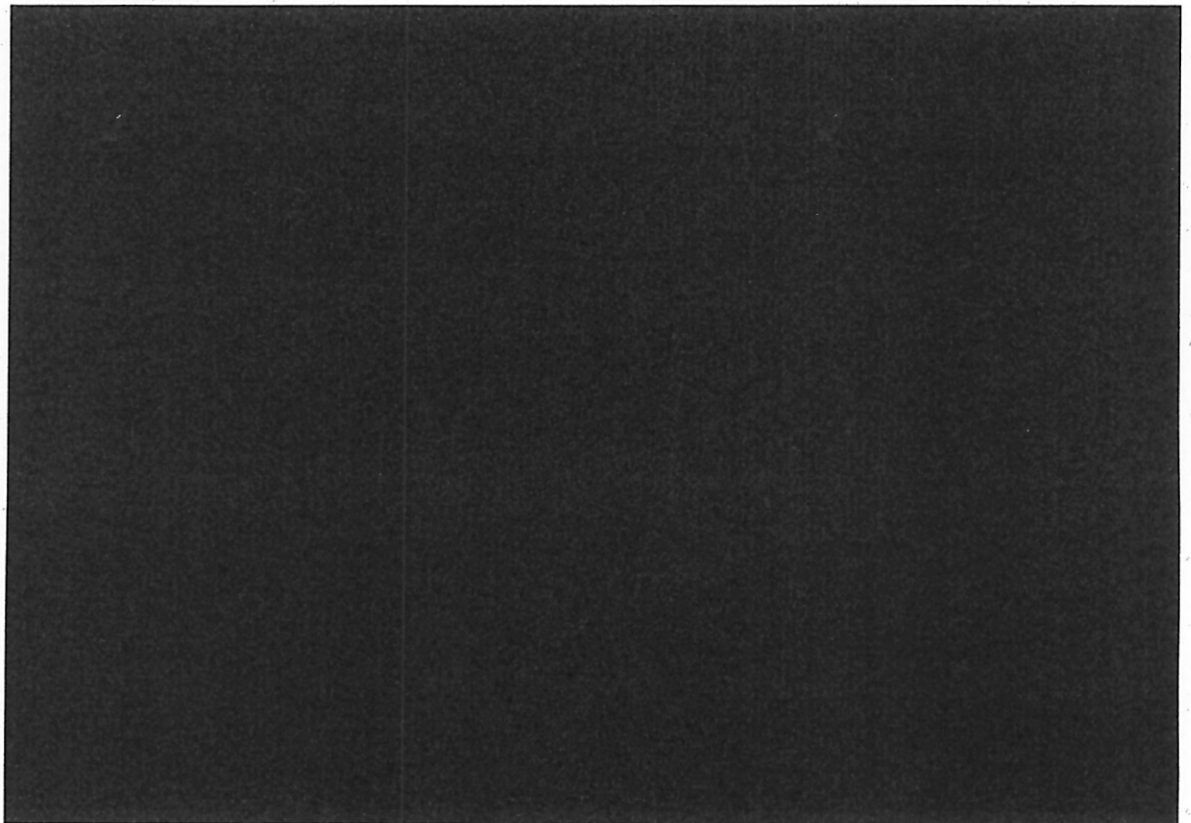
イ 起案事項等

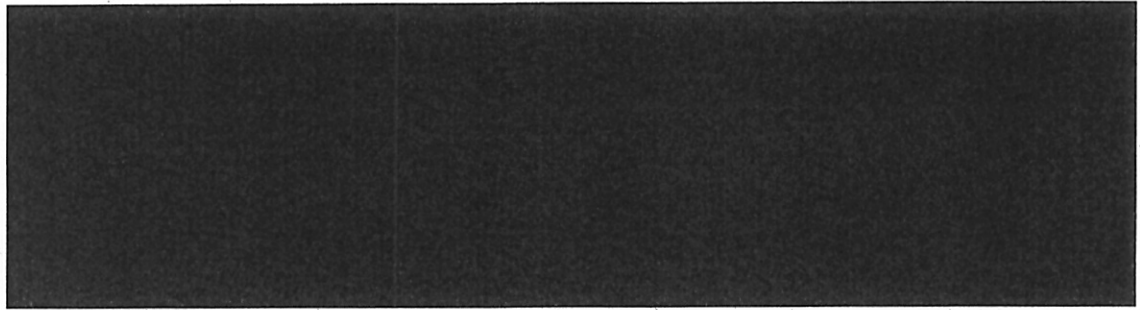
3 演習（争点整理）

(1) 総説

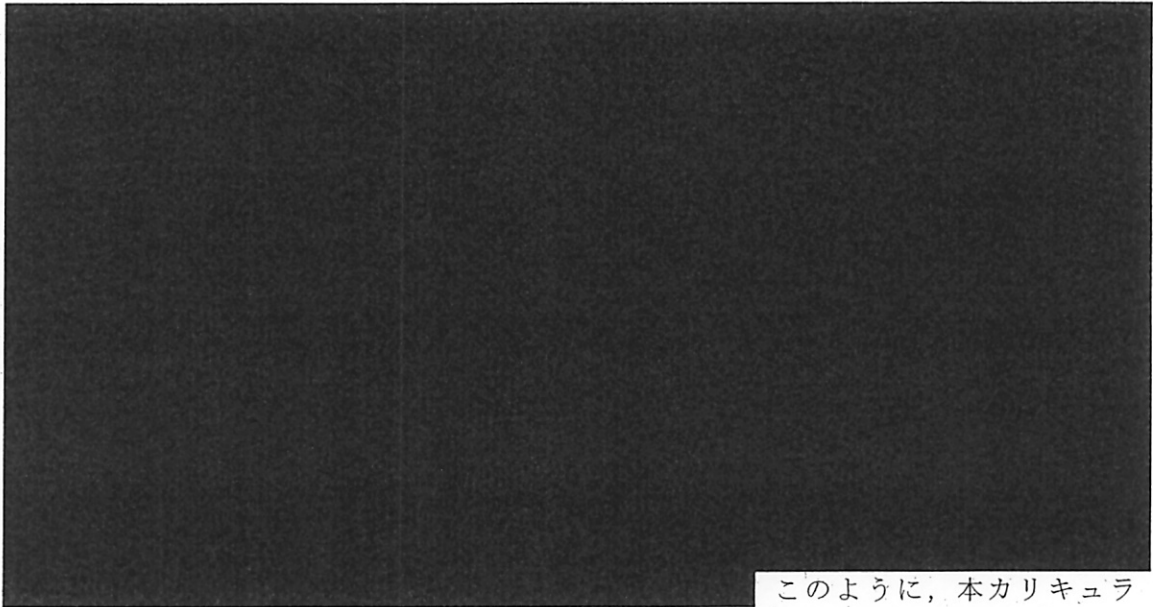


(2) 事案の概要





(3) 演習内容等

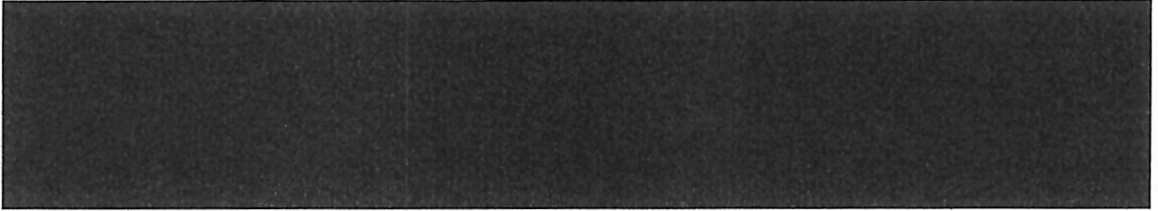


このように、本カリキュラムは、実務家としての基礎的かつ実践的な思考力、状況に応じた紛争解決能力の養成を目的とするものであり、法曹としての実際の活動との架橋を意識したものである。

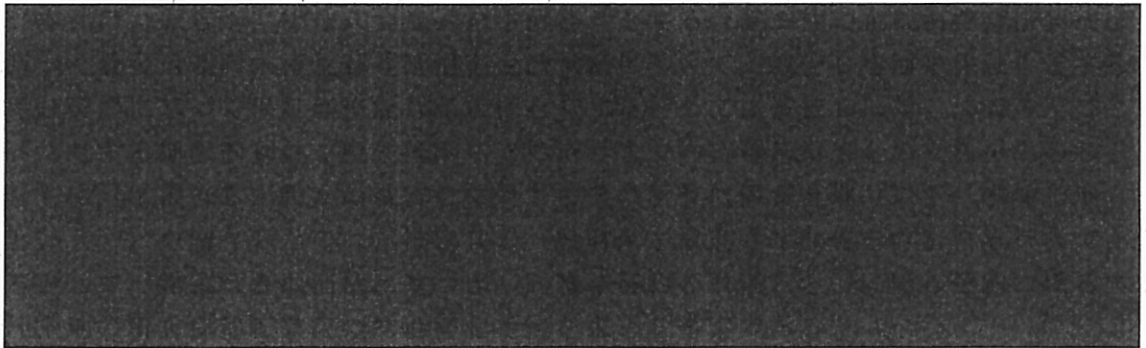
## Ⅱ 民事弁護

### 1 問題研究 1～3

#### (1) 実施の概要



#### (2) 事案の概要

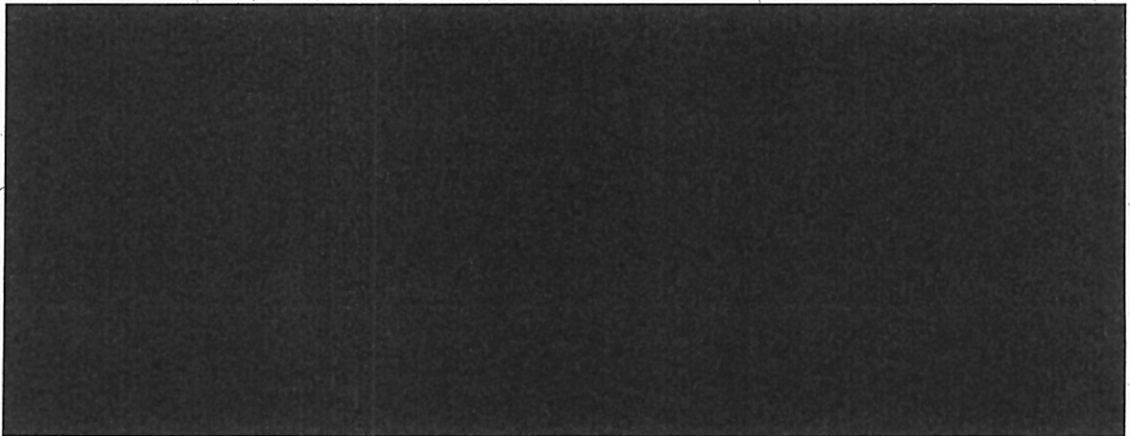


#### (3) 実施内容

##### ア 問題研究 1



##### イ 問題研究 2 (即日起案)



##### ウ 問題研究 3



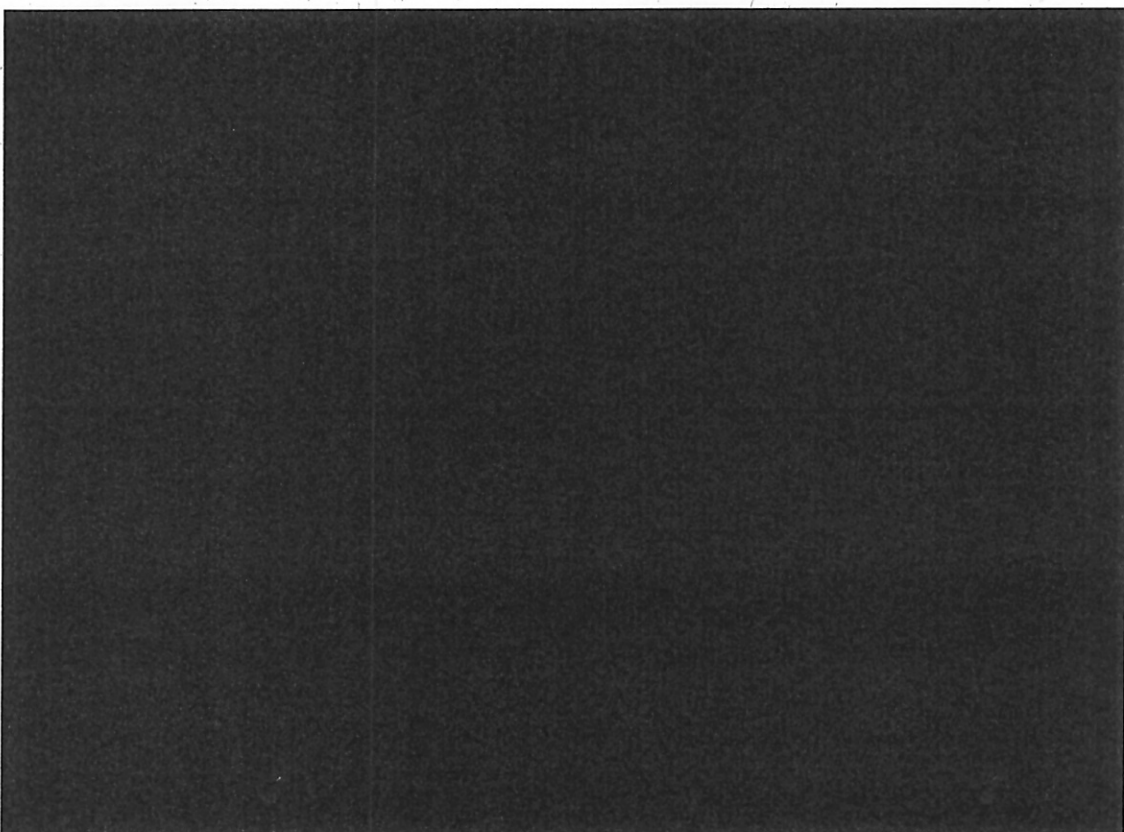
### 2 起案

#### (1) 起案 1

ア 事案の概要



イ 起案事項等



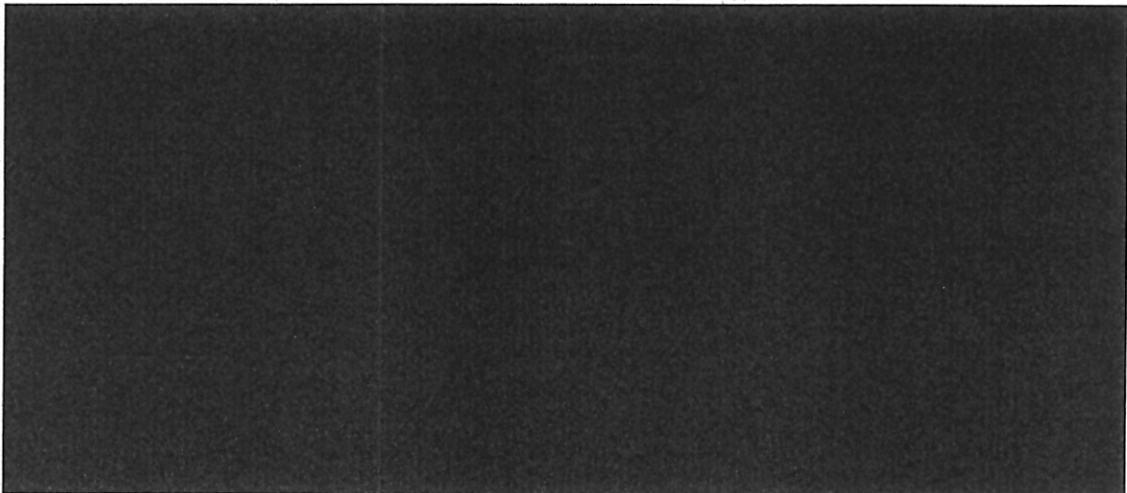
(2) 起案 2

ア 事案の概要



イ 起案事項等



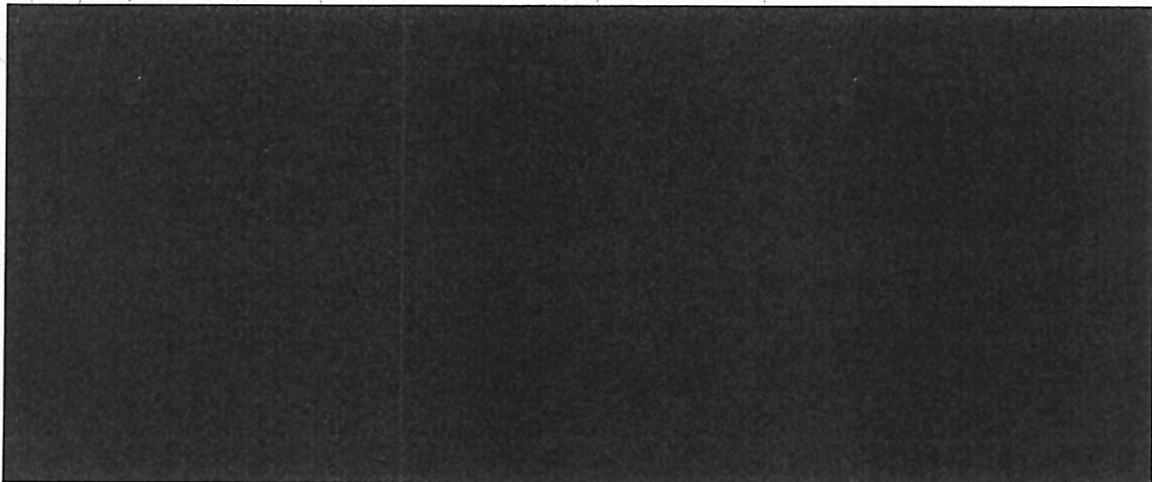


3 講義（契約）

(1) 実施の概要

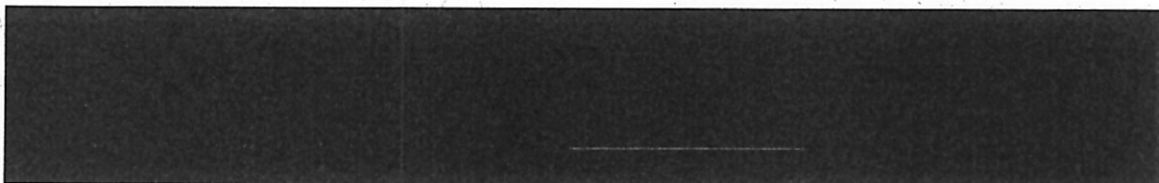


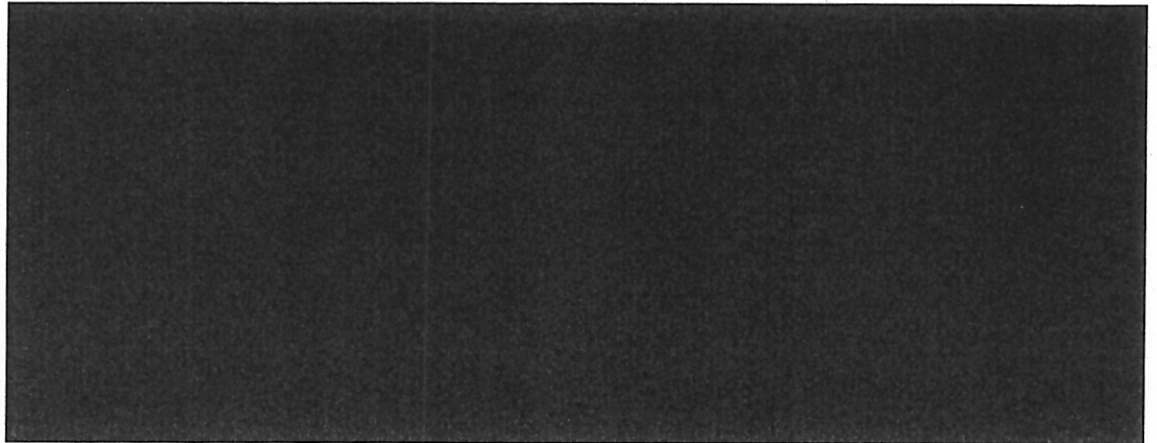
(2) 設問内容



4 演習（法律相談）

(1) 実施の概要





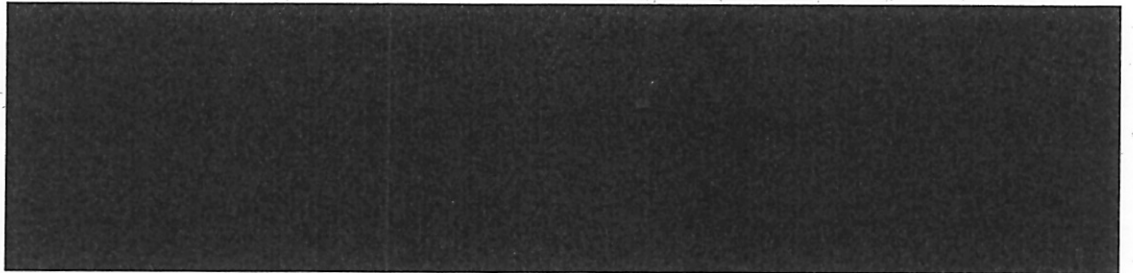
(2) 演習の目的

法律相談は、受任に先立つ行為として、受任の可否、事案解決の見込み、処理方針などを判断し、かつ、依頼者に対して、事案処理方針の説明、報酬等の説明をした上で、弁護士委任契約の締結などを行う重要なステージである。また、依頼者から適切に事案の本質を聴き出し、かつ、依頼者との信頼関係を醸成する重要な場でもある。

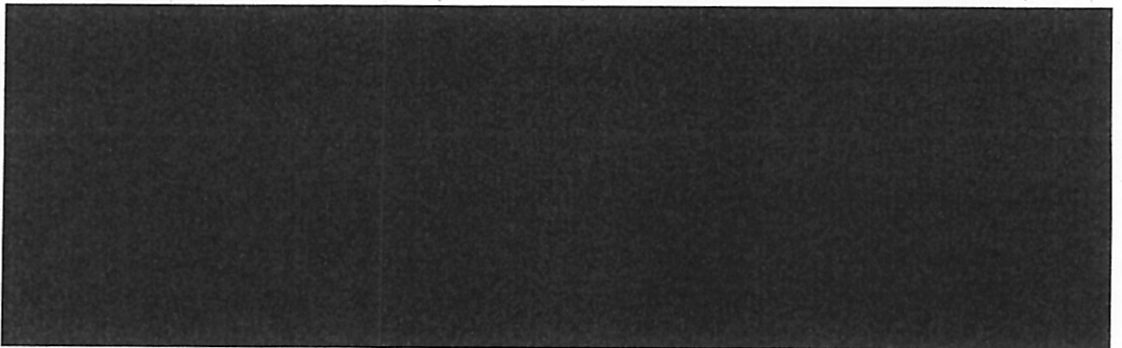


(3) 事案の概要

ア ケース 1



イ ケース 2

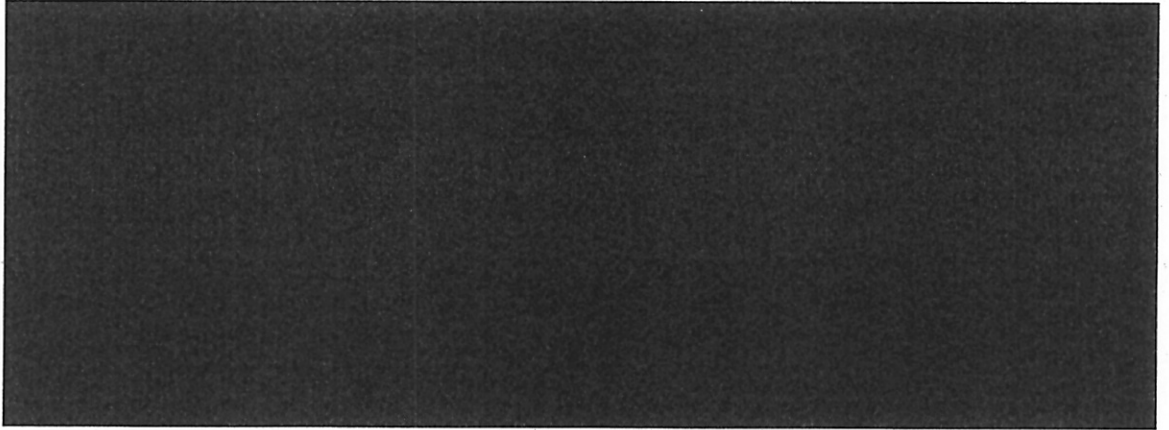


### Ⅲ 民事共通

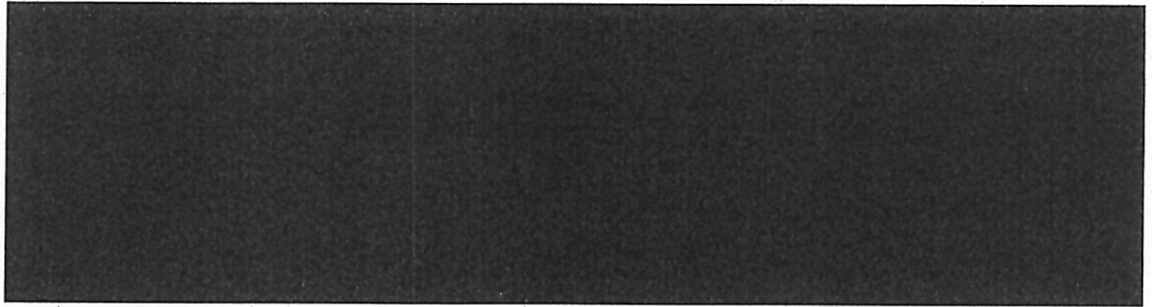
民事共通演習 1 から 3 まで

#### 1 総説

##### (1) 趣旨及び全体像

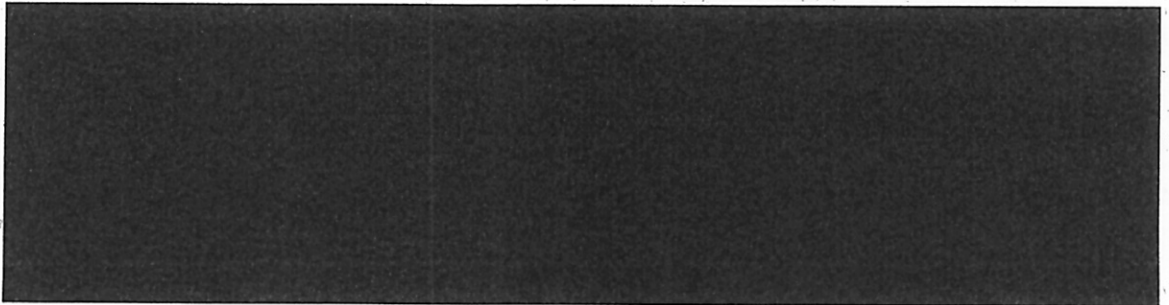


##### (2) 事案の概要



#### 2 民事共通演習 1

##### (1) 課題等

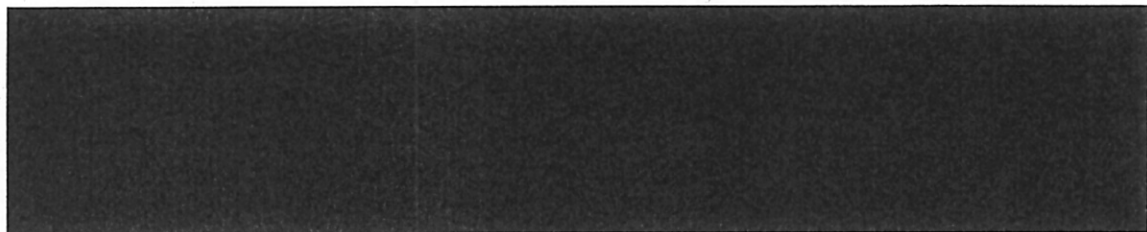


##### (2) 講評



#### 3 民事共通演習 2

##### (1) 課題等



(2) 講評等



4 民事共通演習 3

(1) 課題等



(2) 講評等

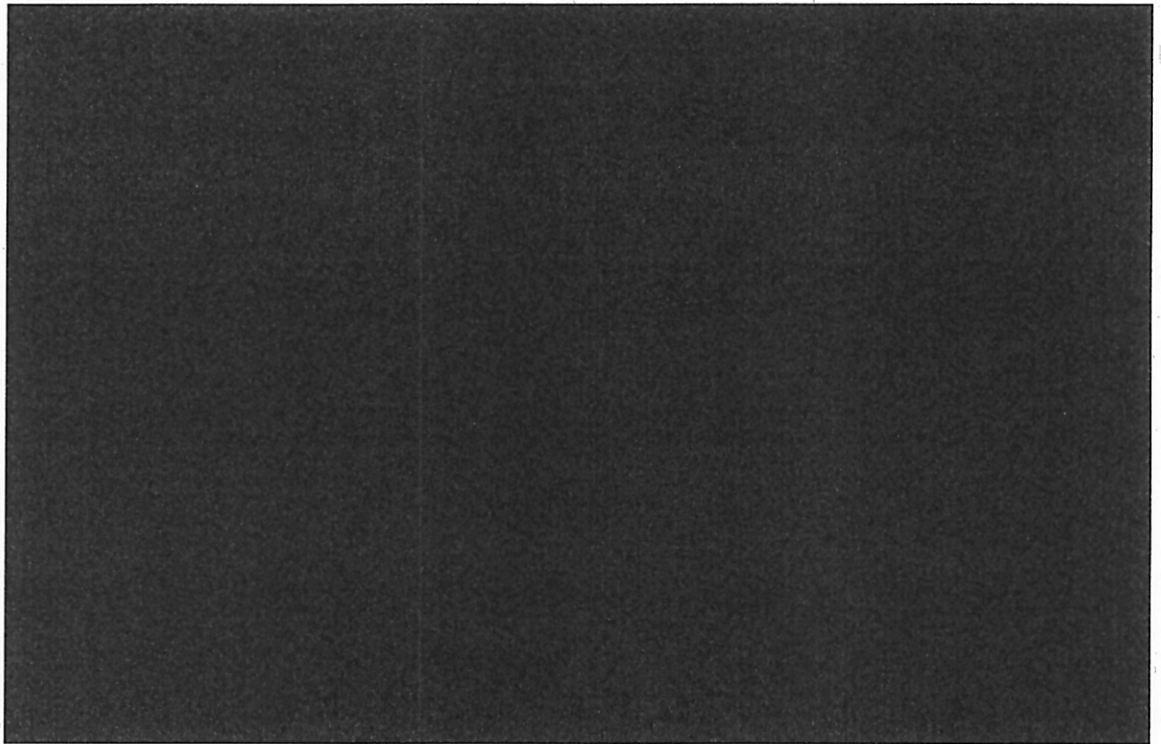


## 第2 刑事関係科目

### I 刑事裁判

#### 1 起案

##### (1) 総説



なお、いずれの設問についても、書式、形式等を要求するものではないし、単なる知識を問うものでもなく、新司法修習における指導理念に対応した、法曹としての活動に共通して必要となる汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いて出題している。

##### (2) 起案1

###### ア 事案の概要

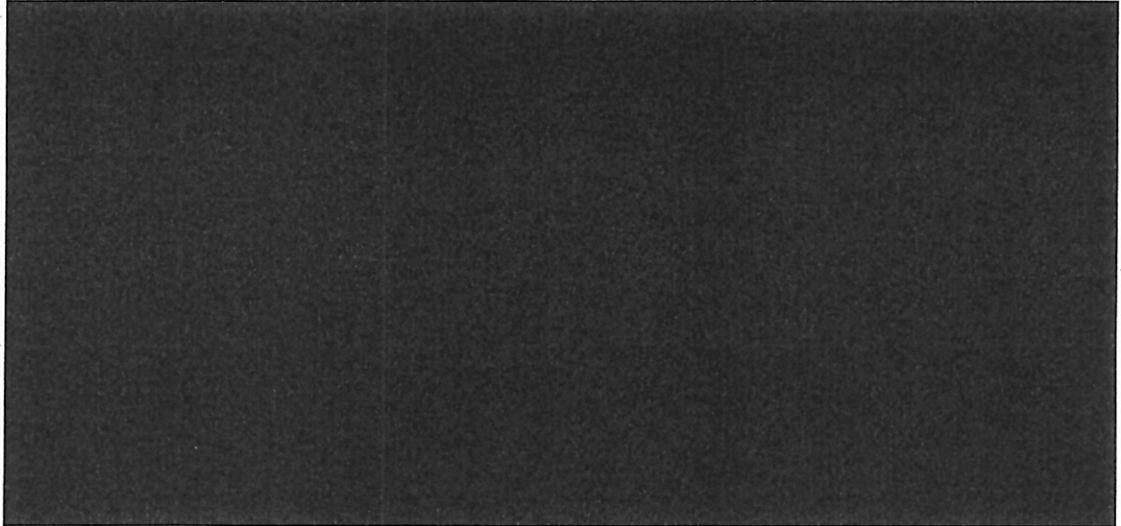


###### イ 起案事項



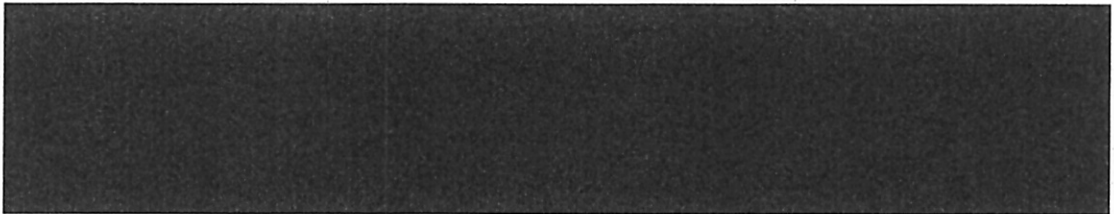


ウ 講評

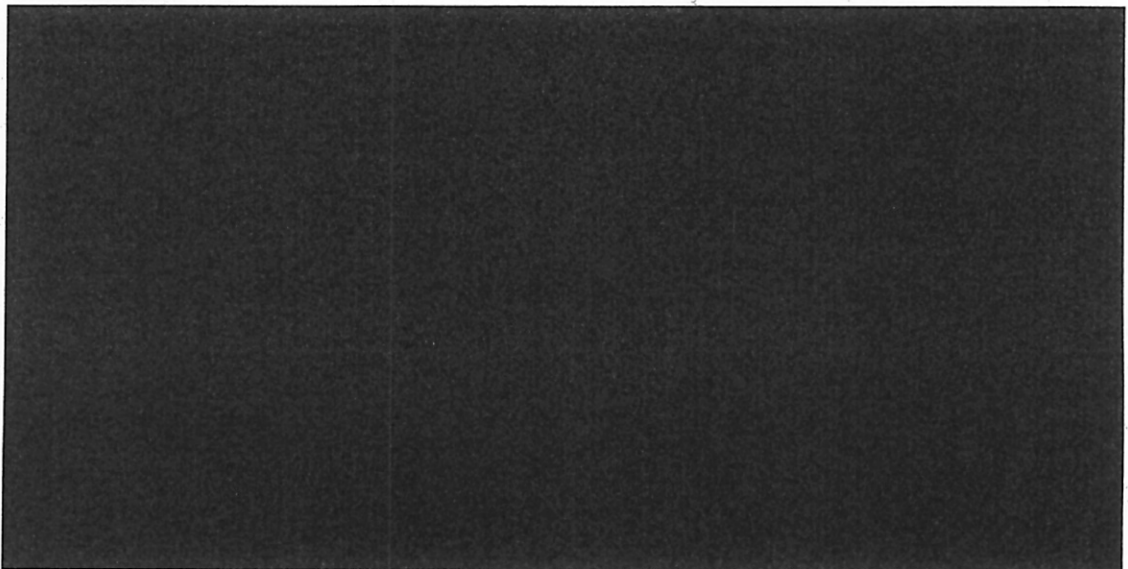


(3) 起案 2

ア 事案の概要

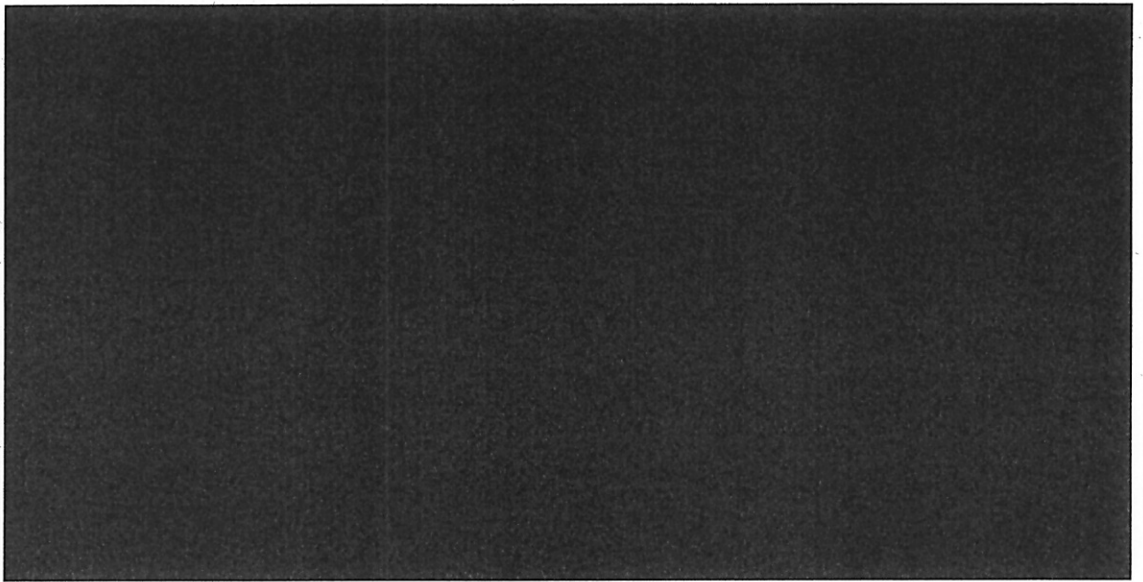


イ 起案事項



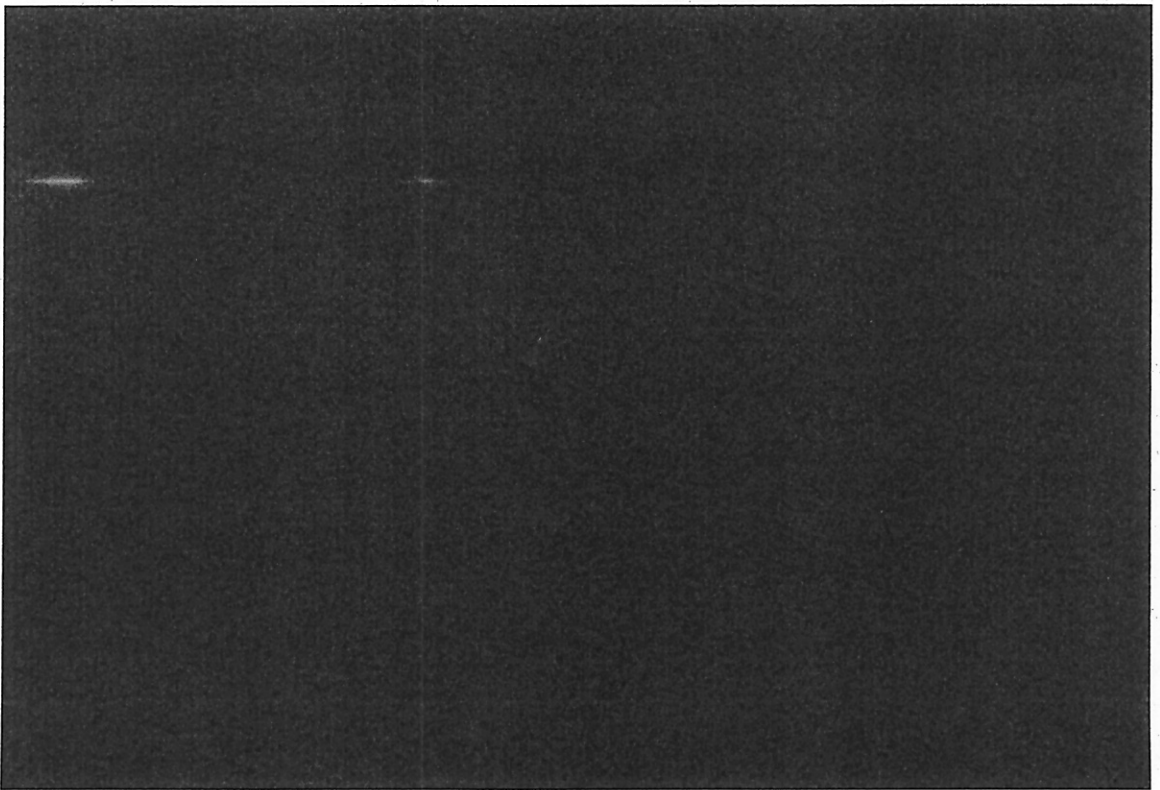
ウ 講評



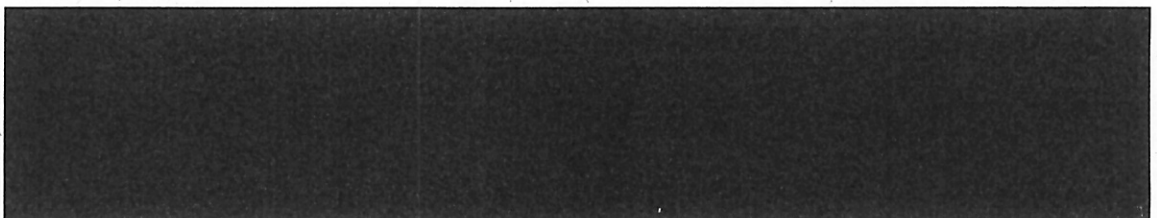


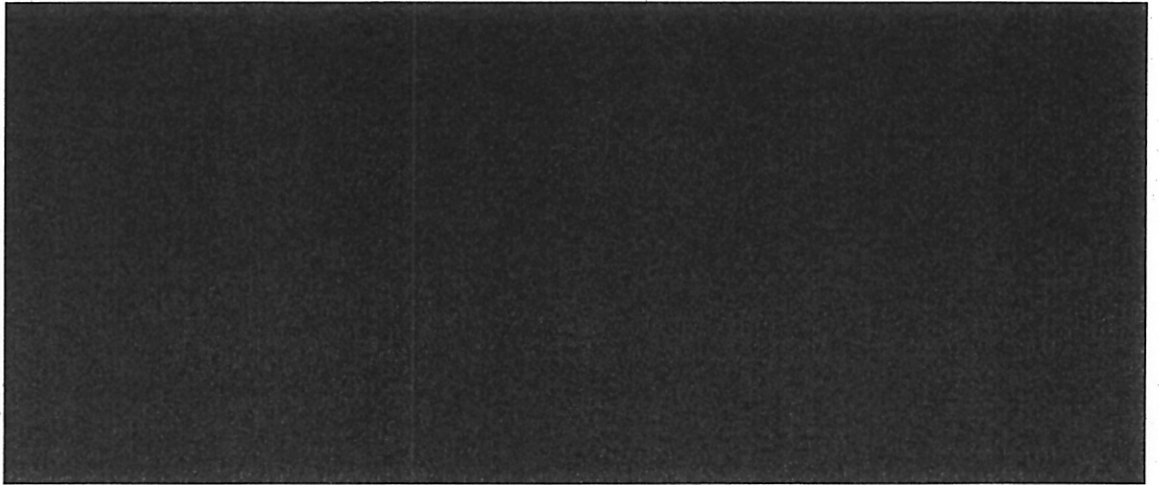
2 問題研究

(1) 指導目標



(2) 実施内容

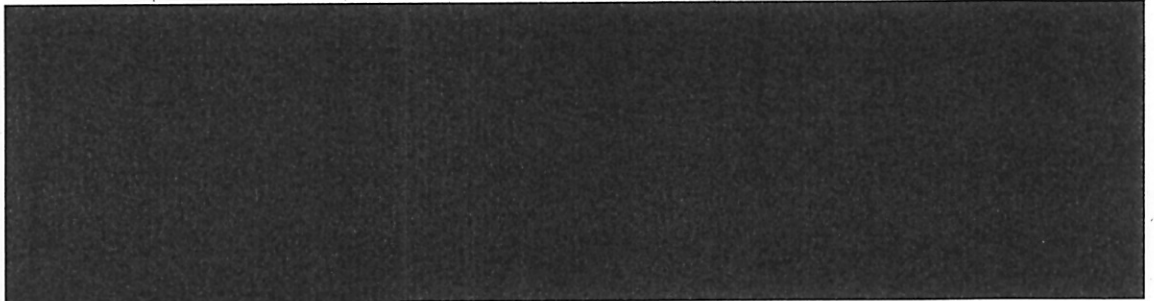




## Ⅱ 検 察

### 1 起案

#### (1) 検察起案の概要



司法修習における指導理念に対応し，法曹としての汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いた出題である。



#### (2) 起案 1

##### ア 事案の概要



##### イ 起案事項等



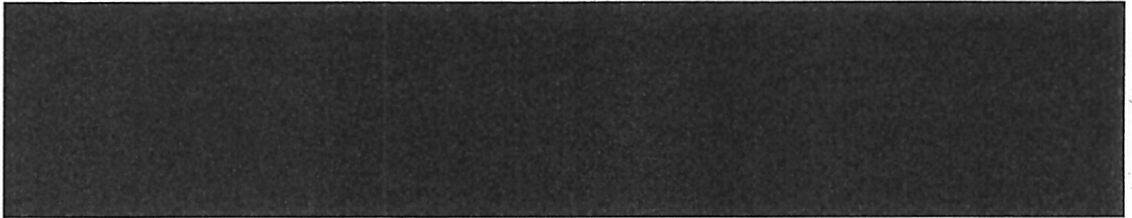
##### ウ 講評



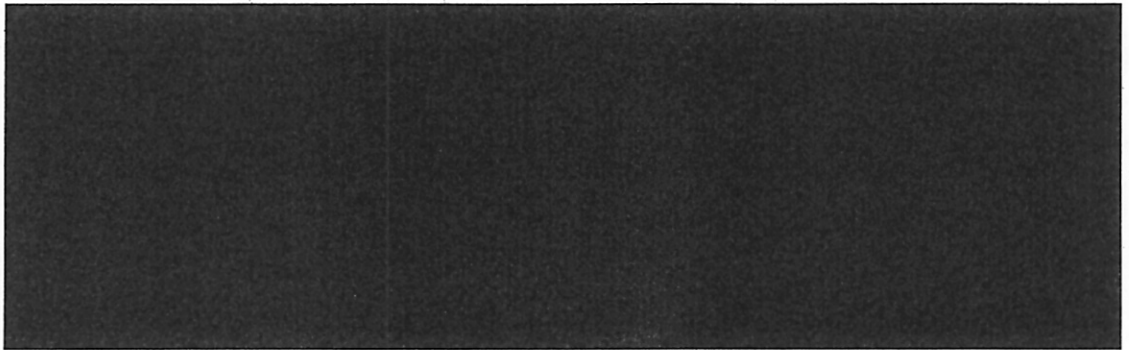


(3) 起案 2

ア 事案の概要



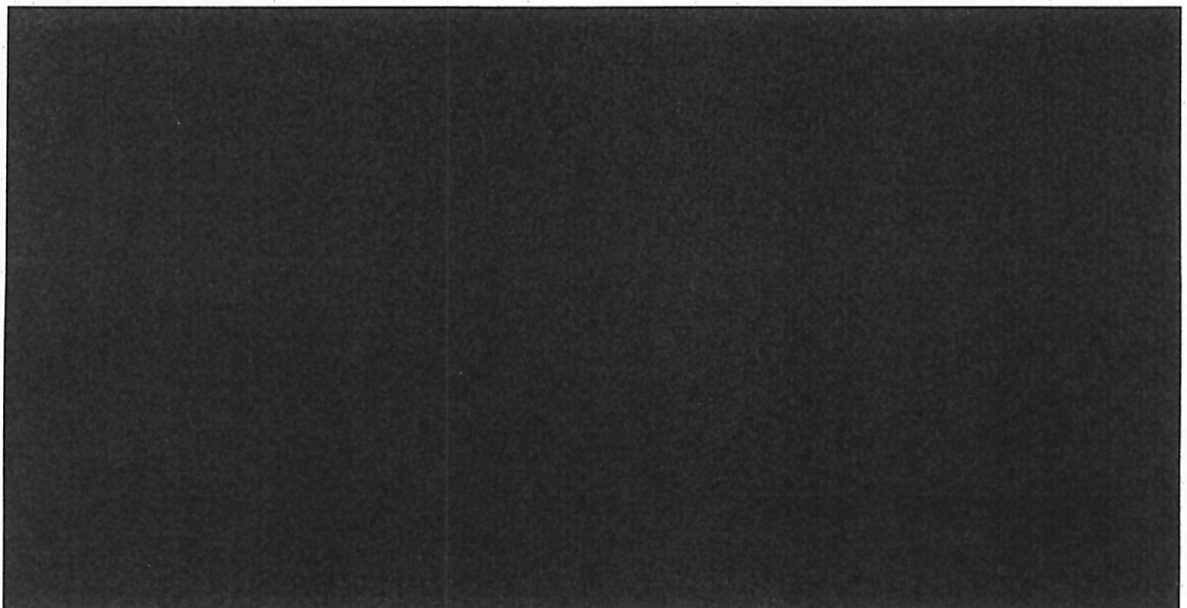
イ 起案事項等



ウ 講評



2 問題研究（被害者保護）



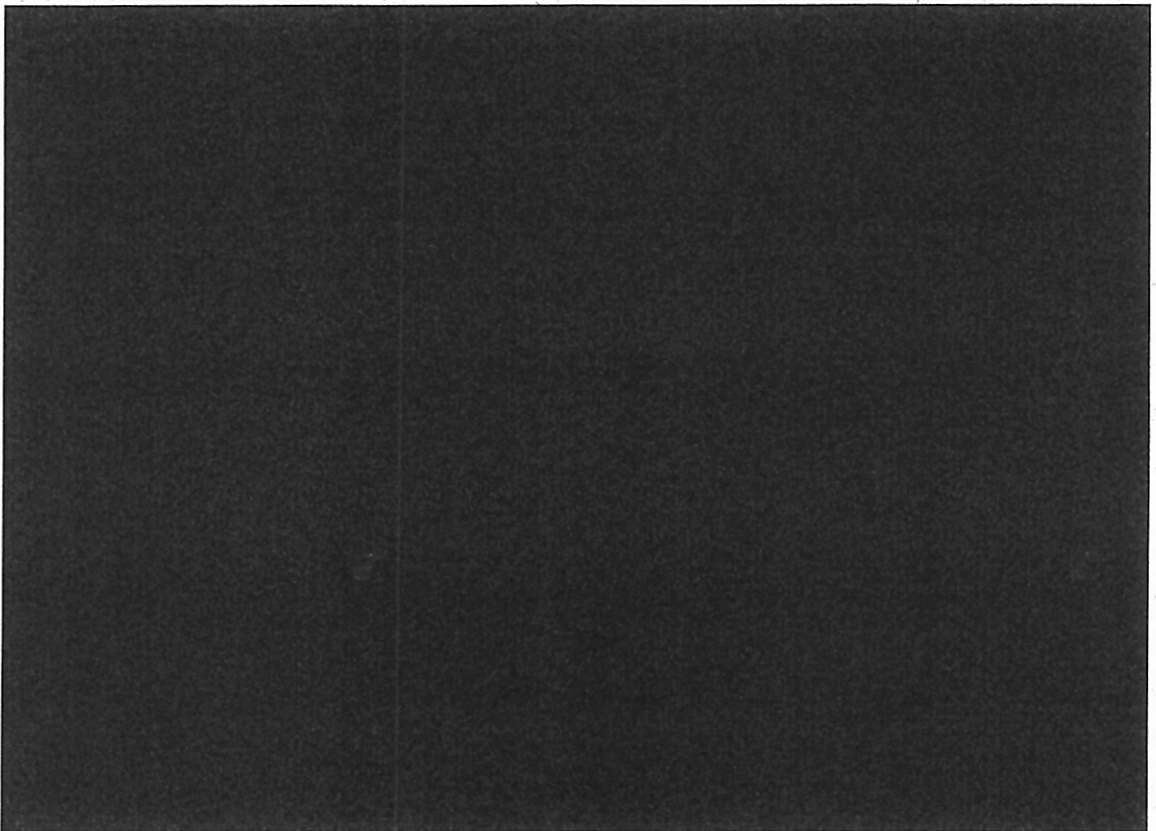


### Ⅲ 刑事弁護

#### 1 起案

##### (1) 総説

刑事弁護教官室は、修習生に対して、具体的な刑事事件に基づきケース・セオリー（弁護人の求める結論が正しいことを導く論拠）を確立する弁護活動の基本を指導し、弁護人が行うべき最善の努力を尽くした活動とは何かを考えさせることにより、弁護人としての基本的な能力・技術、さらには、法曹の活動に共通して必要とされる基本的かつ汎用的な能力を修得させるとともに、法曹資格取得後の自己研鑽への意識付けをさせることを指導方針としている。



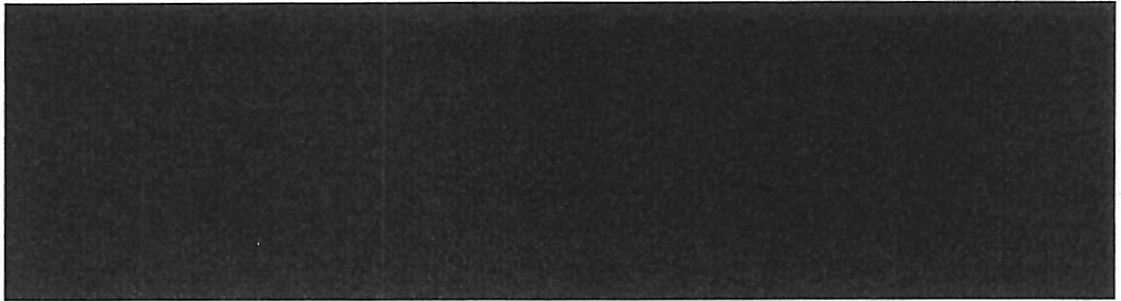
##### (2) 起案 1

###### ア 事案の概要



###### イ 起案事項





ウ 講評

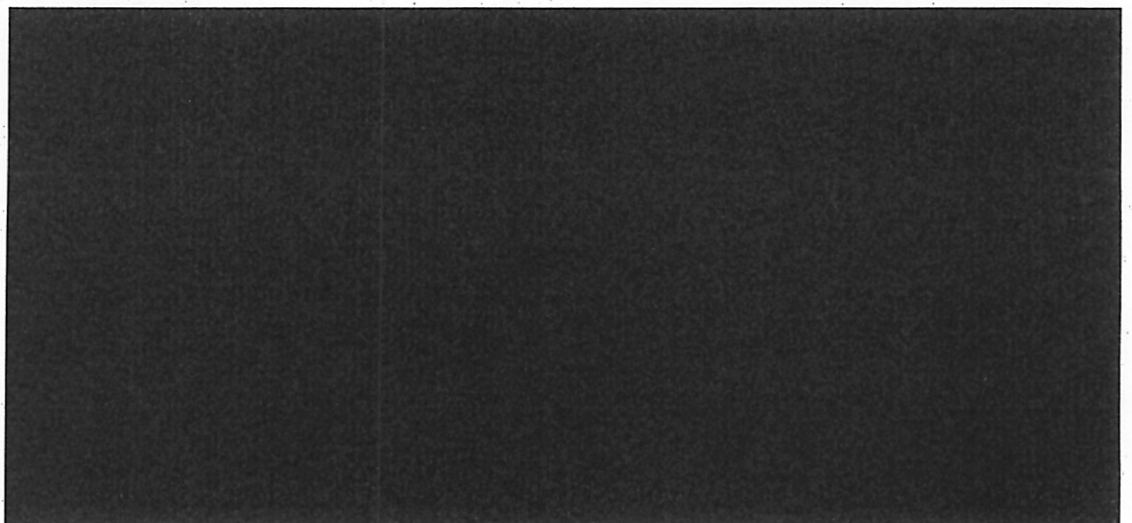


(3) 起案 2

ア 事案の概要

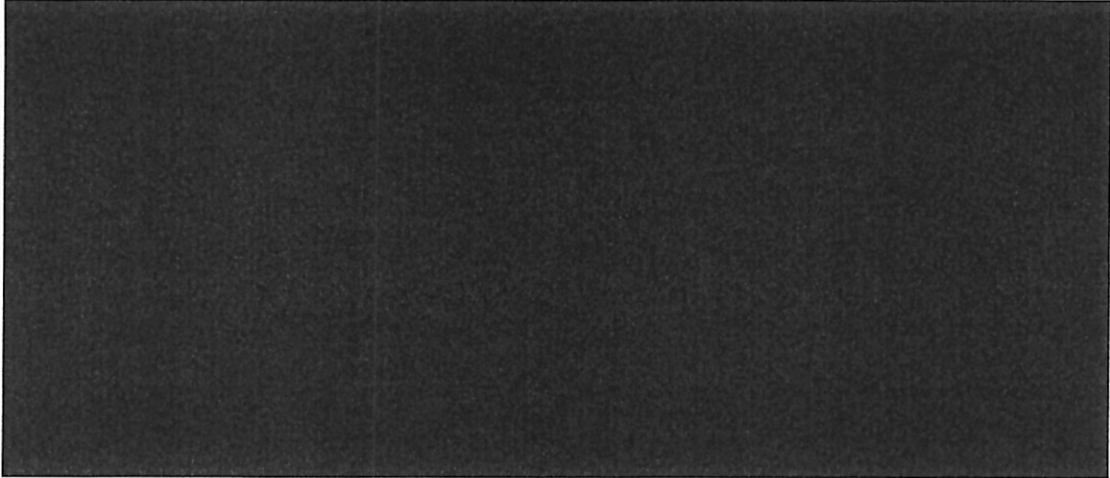


イ 起案事項





ウ 講評

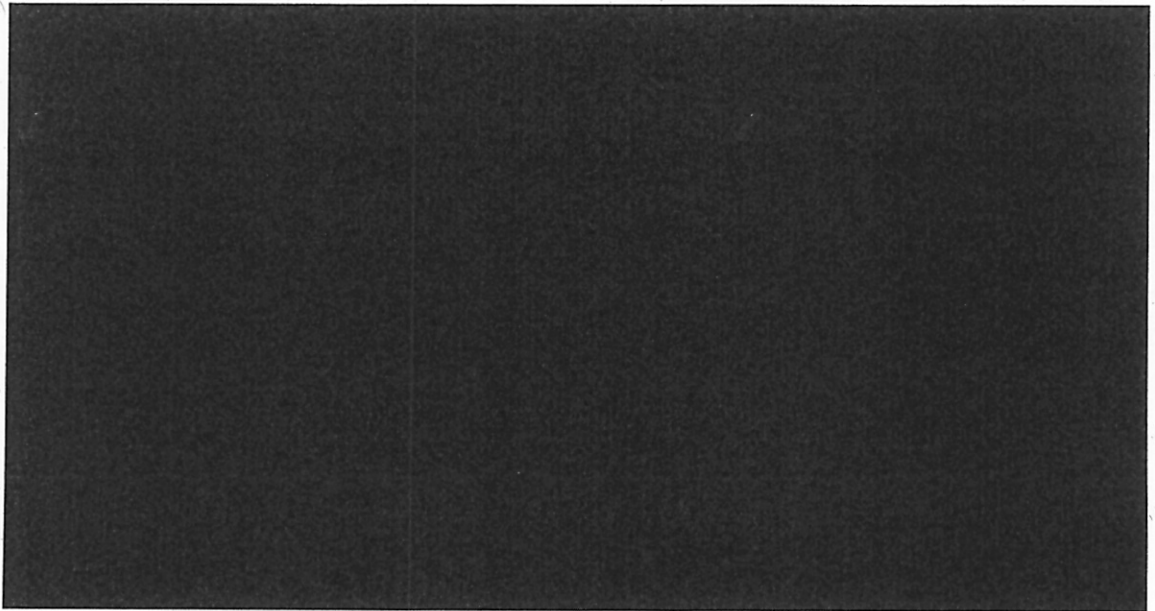


2 問題研究（取調べ対応，想定弁論）

(1) 指導目標



(2) 実施内容



#### IV 刑事共通

##### 1 刑事共通演習

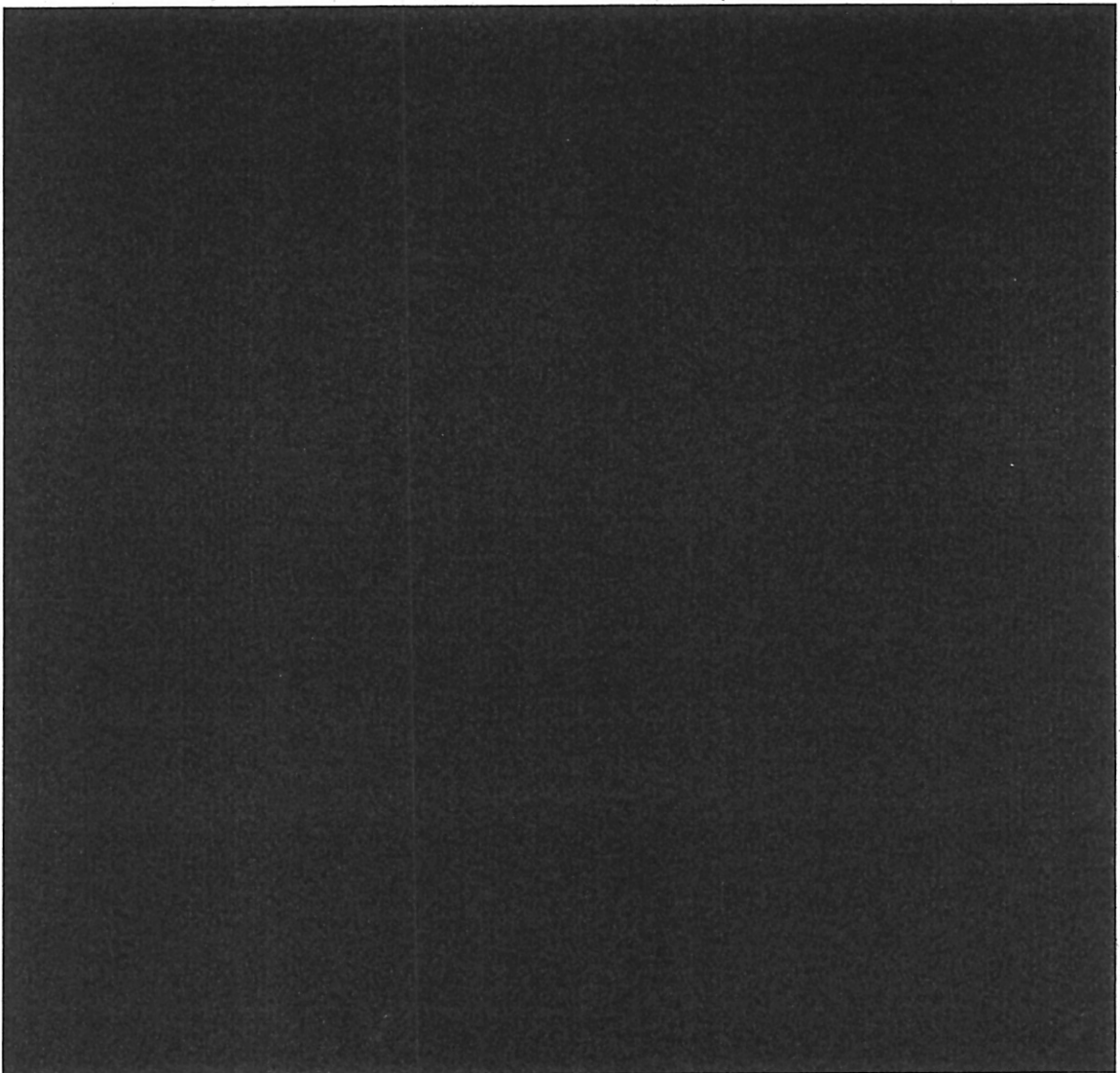
###### (1) 指導目標



これらの演習を通じ、的確な争点整理を行う上での必要な視点を提供し、これにより、法曹としての活動に共通して必要とされる汎用性のある基礎的な能力を修得させるよう努めた。

###### (2) 実施内容





2 刑事共通問題研究

(1) 指導目標



(2) 実施内容



### 第3 その他の共通科目等

#### I 全科目共通

特別講義「国際人権法の形成と実施」

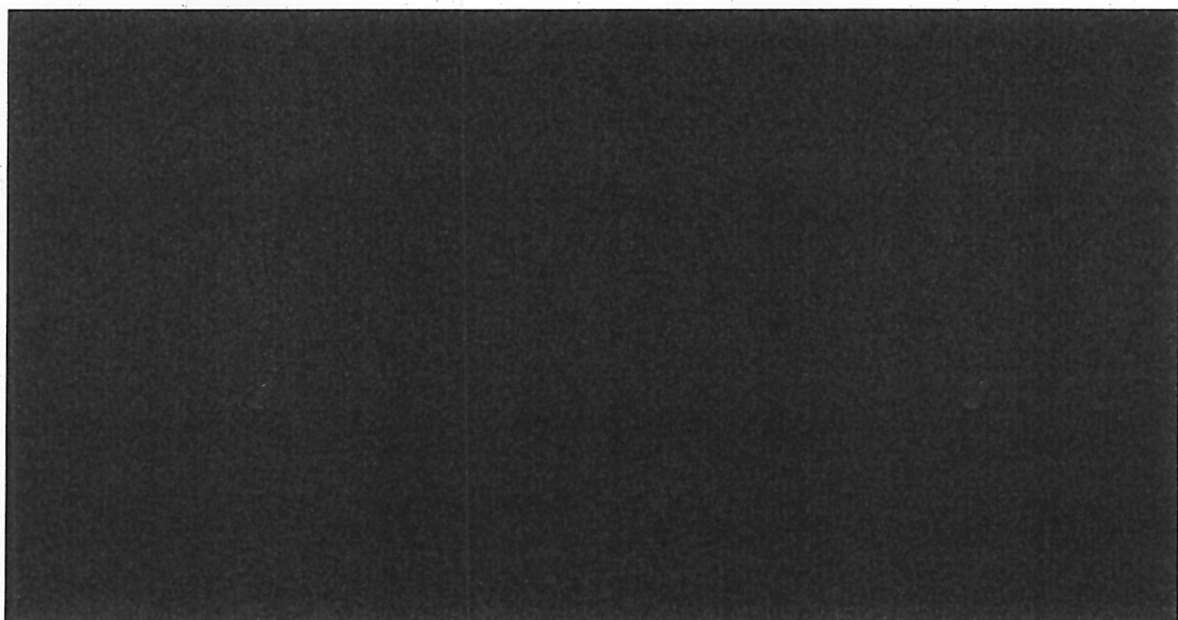
講師 弁護士（第一東京弁護士会） 上 柳 敏 郎 氏

国際人権については、その重要性に鑑み、各期において全科目共通特別講義という形式で国際人権全般にわたって講演を行ってきた。

第73期においても、同様の趣旨に基づき、講師が、国際人権の重要性や、国際人権法の国内的・国際的实施、国際NGOの活動等について、講演を行った。

#### II 弁護共通

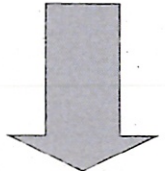
演習「弁護士倫理」



令和元年度（第73期）司法修習生

# A班 集合修習日程予定表

(注) 本表は予定であって、確定日程ではない。  
確定日程は、毎週最終登庁日に配布する。

月/日	曜	1限目 (9:50~11:40)	2限目 (12:40~14:30)	3限目 (14:45~16:35)	月/日	曜	1限目 (9:50~11:40)	2限目 (12:40~14:30)	3限目 (14:45~16:35)					
31	月	刑共演習(争点整理等)			28	月	刑共問題研究 (情状・量刑)	刑裁起案2講評						
9/1	火	刑共演習(尋問)			29	火	民共演習(3b)	民弁起案2講評						
2	水	民裁起案1講評			 <p>選択型実務修習</p> 									
3	木	刑裁問題研究	民共演習(2b, 2c)											
4	金	民裁起案2(即日)												
7	月	弁共演習(弁護士倫理)	刑弁起案1講評											
8	火	検察起案1講評		刑裁起案1講評										
9	水	刑裁起案1講評	民弁起案1講評											
10	木	検察起案2(即日)												
11	金	刑弁起案2(即日)												
14	月	刑裁起案2(即日)								11/19	木	考試		
18	火	民弁問題研究1	民弁問題研究2							15	火	民弁起案2(即日)		
19	水	民裁起案1(即日)			16	水	民共演習(2d)	民裁演習(争点整理)						
20	木	刑弁起案1(即日)			17	木	民裁演習(争点整理)		民共演習(2e)					
21	金	民弁講義(契約)	民共演習(1a, 1b)		18	金	民裁起案2講評							
24	月	民弁演習(法律相談)		民弁問題研究3	21	月	敬老の日							
25	火	検察起案1(即日)			22	火	秋分の日							
26	水	刑裁起案1(即日)			23	水	民共演習(2f, 3a)							
27	木	民弁起案1(即日)			24	木	全共特別講義	検察起案2講評						
28	金	民共演習(1c, 2a)		刑共演習(証拠開示等)	25	金	検察問題研究 (被害者保護)	刑弁起案2講評						

凡例	
民裁・・・民事裁判	民共・・・民事共通
刑裁・・・刑事裁判	刑共・・・刑事共通
民弁・・・民事弁護	全共・・・全科共通
刑弁・・・刑事弁護	弁共・・・弁護共通
	(即日)・・・即日起案

(令和3・1・15)

## 第73期集合修習B班カリキュラムの概要

司法研修所

## は し が き

令和元年度（第73期）司法修習生のうち、B班（実務修習地が東京、立川、横浜、さいたま、千葉、大阪、京都、神戸、奈良、大津及び和歌山以外である者）を対象とする集合修習のカリキュラムは、11クラス編成で令和2年10月6日に開始され、同年11月13日に終了した。

第73期B班の集合修習のカリキュラムの概要は、この資料及び別添「令和元年度（第73期）司法修習生B班集合修習日程予定表」のとおりである。

集合修習のカリキュラム策定に当たっては、法科大学院において修得した学識及び実務の基礎的素養等並びに分野別実務修習の成果を踏まえて「幅広い法曹の活動に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的かつ汎用的な技法と思考方法」（司法修習生指導要綱（甲）第1章第1）を修得させる観点から、実務修習を補完し、司法修習生全員に、実務の標準的な知識、技法の教育を受ける機会を与えるとともに、体系的で汎用性のある実務知識や技法を修得させることを旨としている（要綱（甲）第3章第1）。

このような趣旨を踏まえ、第73期B班においても、修習記録を用いて司法修習生に文書を起案させ、討論、講評を行うことを指導の中心としつつ（同第4の1）、従来の司法修習で要求していたような法律書面の全体を形式面も含めて起案させることにはこだわらず、より実質的に、書面の内容の根底をなす思考過程を明らかにさせることを重視する方法で出題がされているほか、ロール・プレイングも含めた民事・刑事の様々な講義、演習、問題研究や法曹倫理、国際人権等に関する演習、講演なども実施された。

司法修習生指導担当者各位におかれては、本資料を今後の実務修習における指導の参考としていただきたい。

## 第1 民事関係科目

### I 民事裁判

#### 1 講義

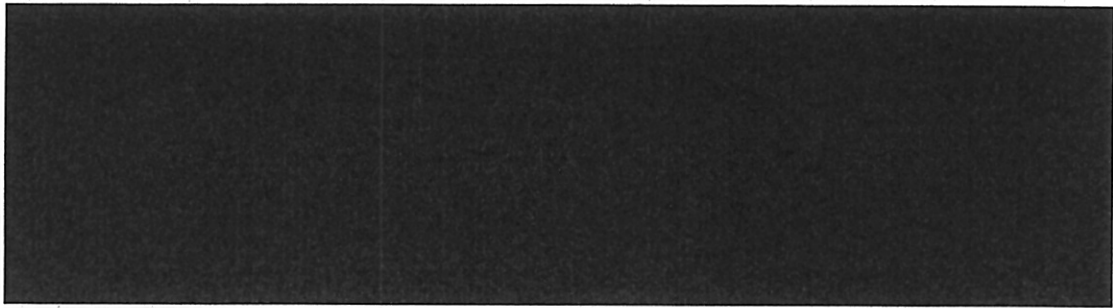
集合修習の冒頭に、集合修習に向けてのガイダンスをし、集合修習における民事裁判科目及び民事共通科目の修習内容を説明してその意義を理解させ、今後の学修方法に関する指導を行うことで集合修習への動機付けを行った。

#### 2 起案

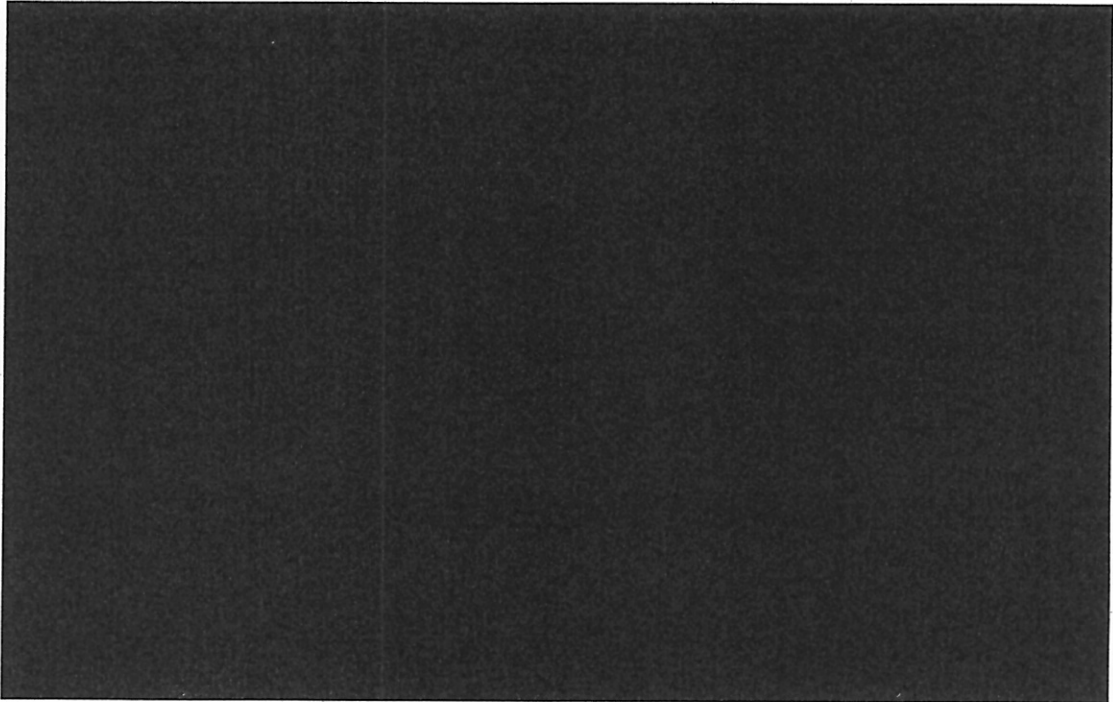
##### (1) 総説

##### (2) 起案1

###### ア 事案の概要

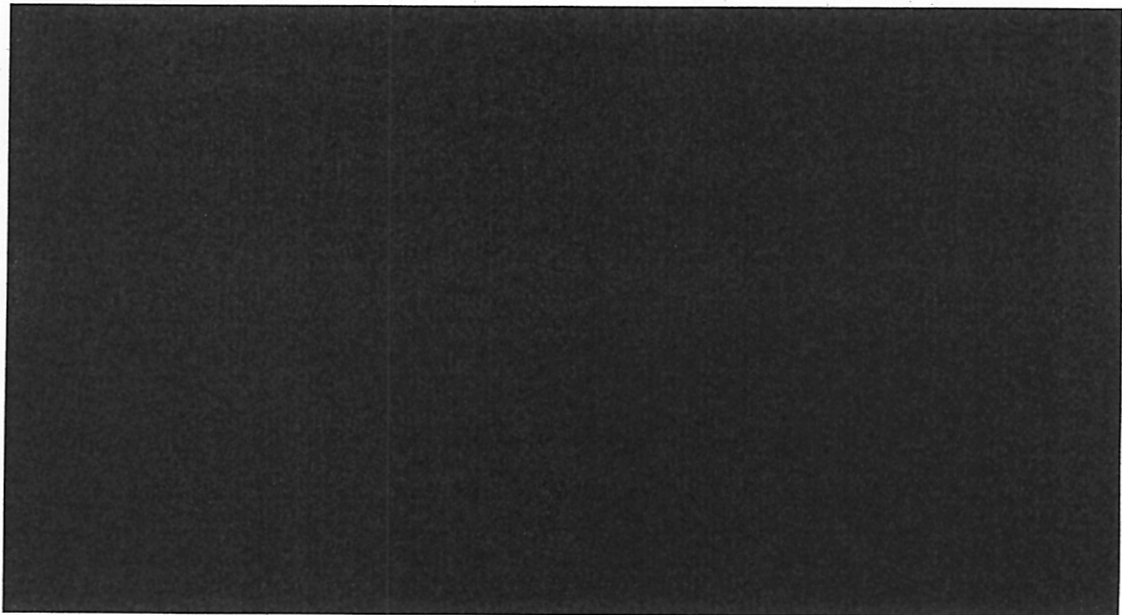


イ 起案事項等



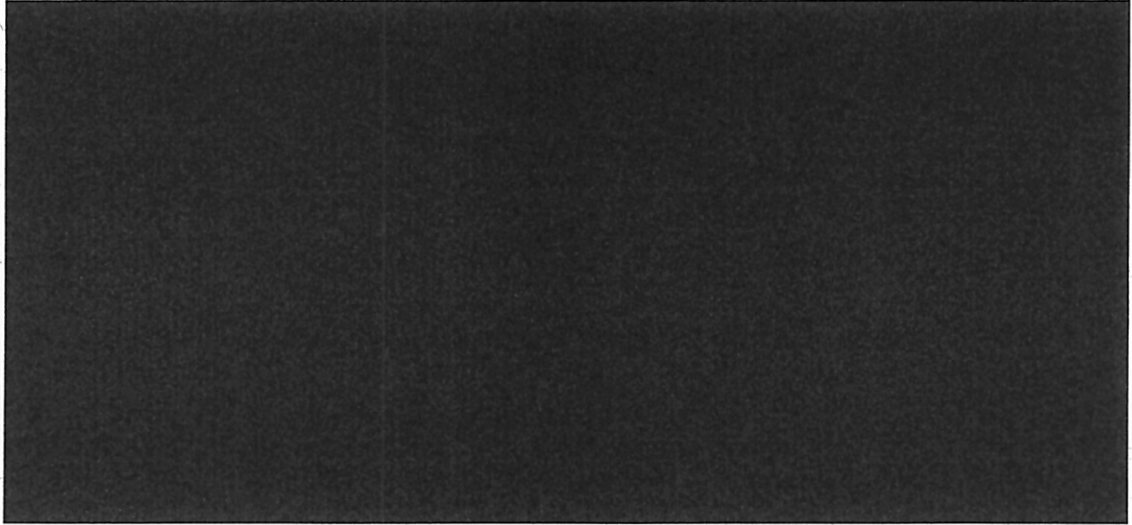
(3) 起案 2

ア 事案の概要



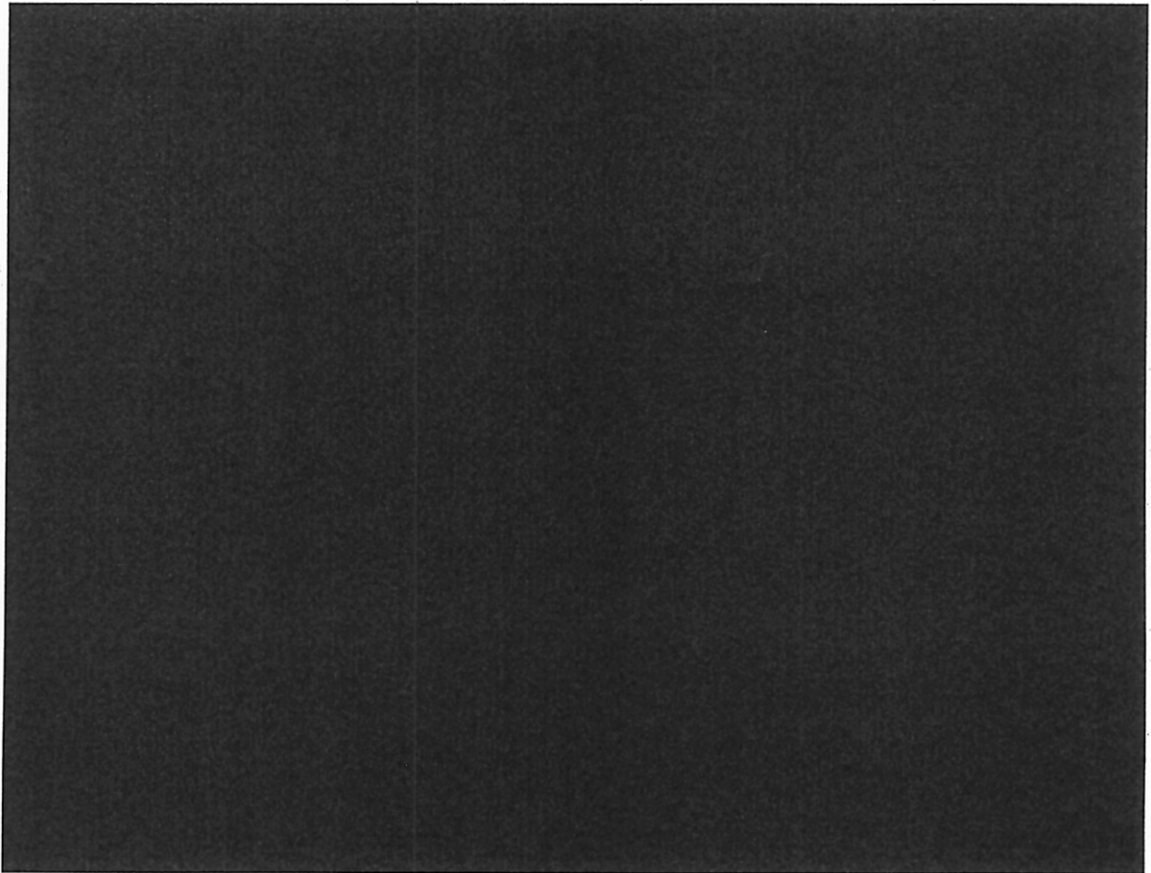


イ 起案事項等



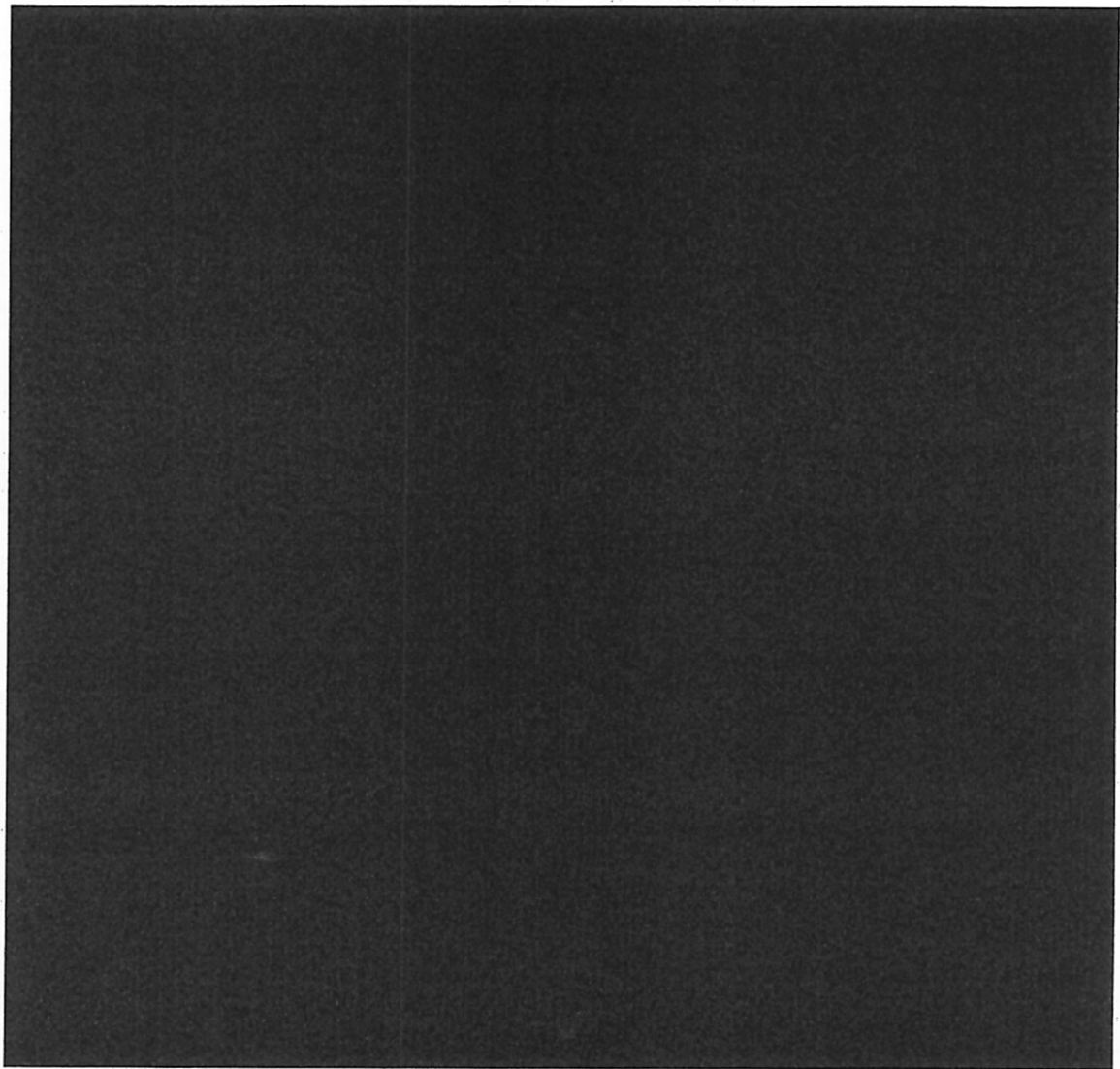
3 演習（争点整理）

(1) 総説

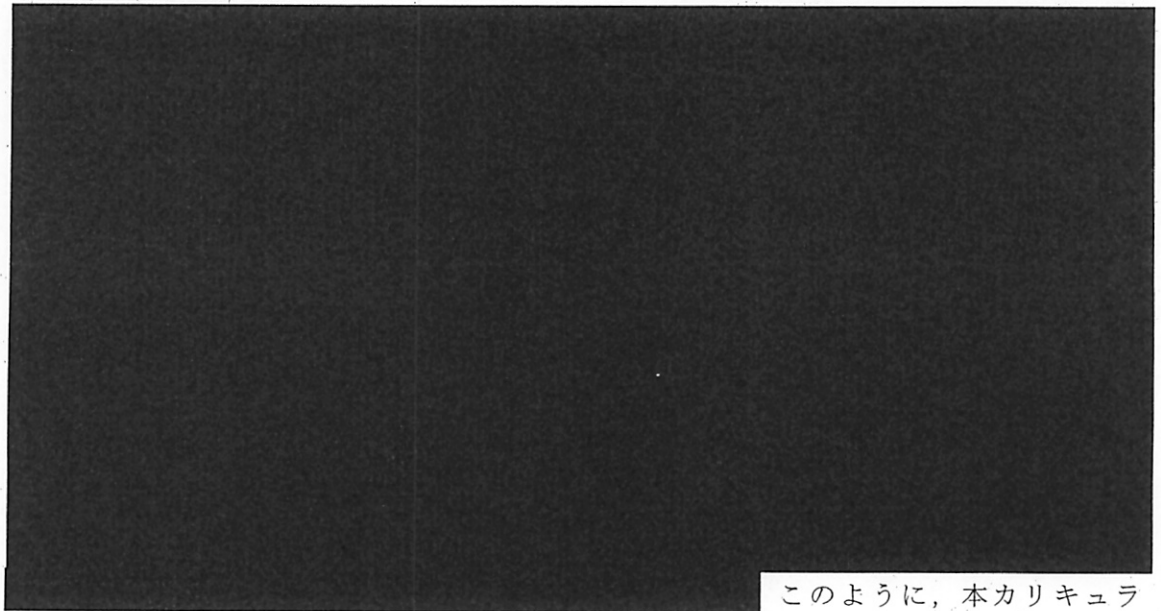


(2) 事案の概要





(3) 演習内容等



このように、本カリキュラ

ムは、実務家としての基礎的かつ実践的な思考力、状況に応じた紛争解決能力の  
かん養を目的とするものであり、法曹としての実際の活動との架橋を意識したもので  
ある。

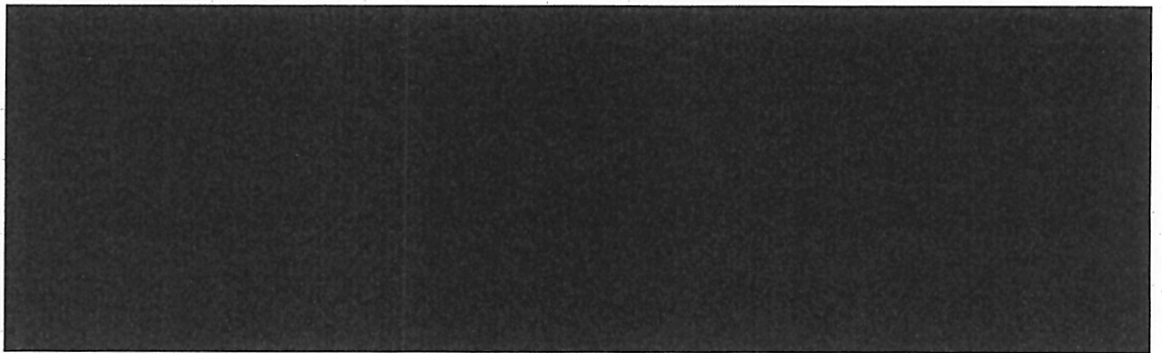
## Ⅱ 民事弁護

### 1 問題研究 1～3

#### (1) 実施の概要



#### (2) 事案の概要

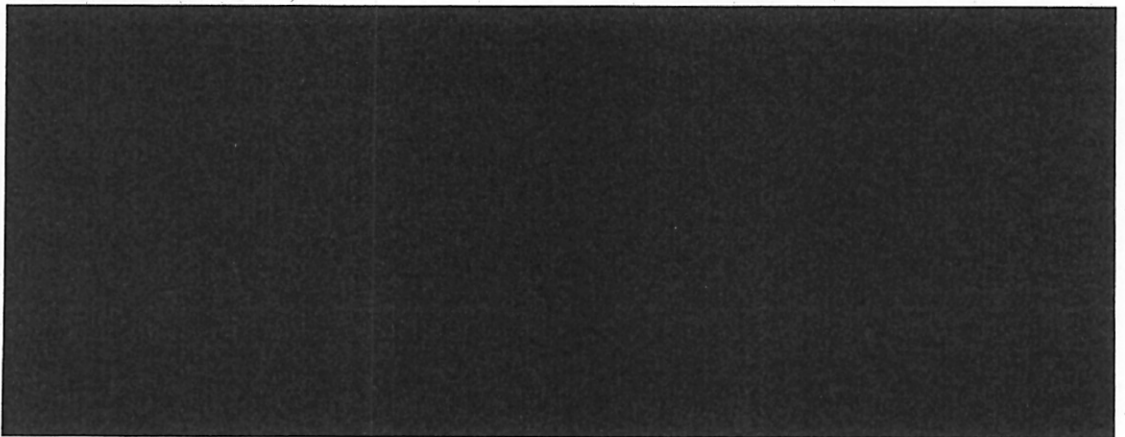


#### (3) 実施内容

##### ア 問題研究 1



##### イ 問題研究 2 (即日起案)



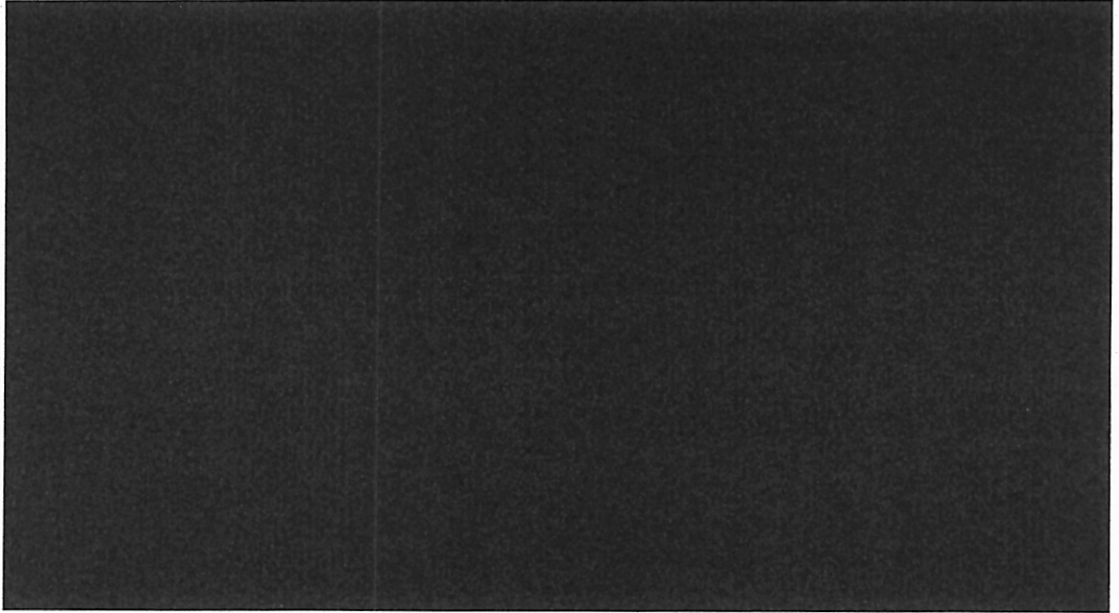
##### ウ 問題研究 3



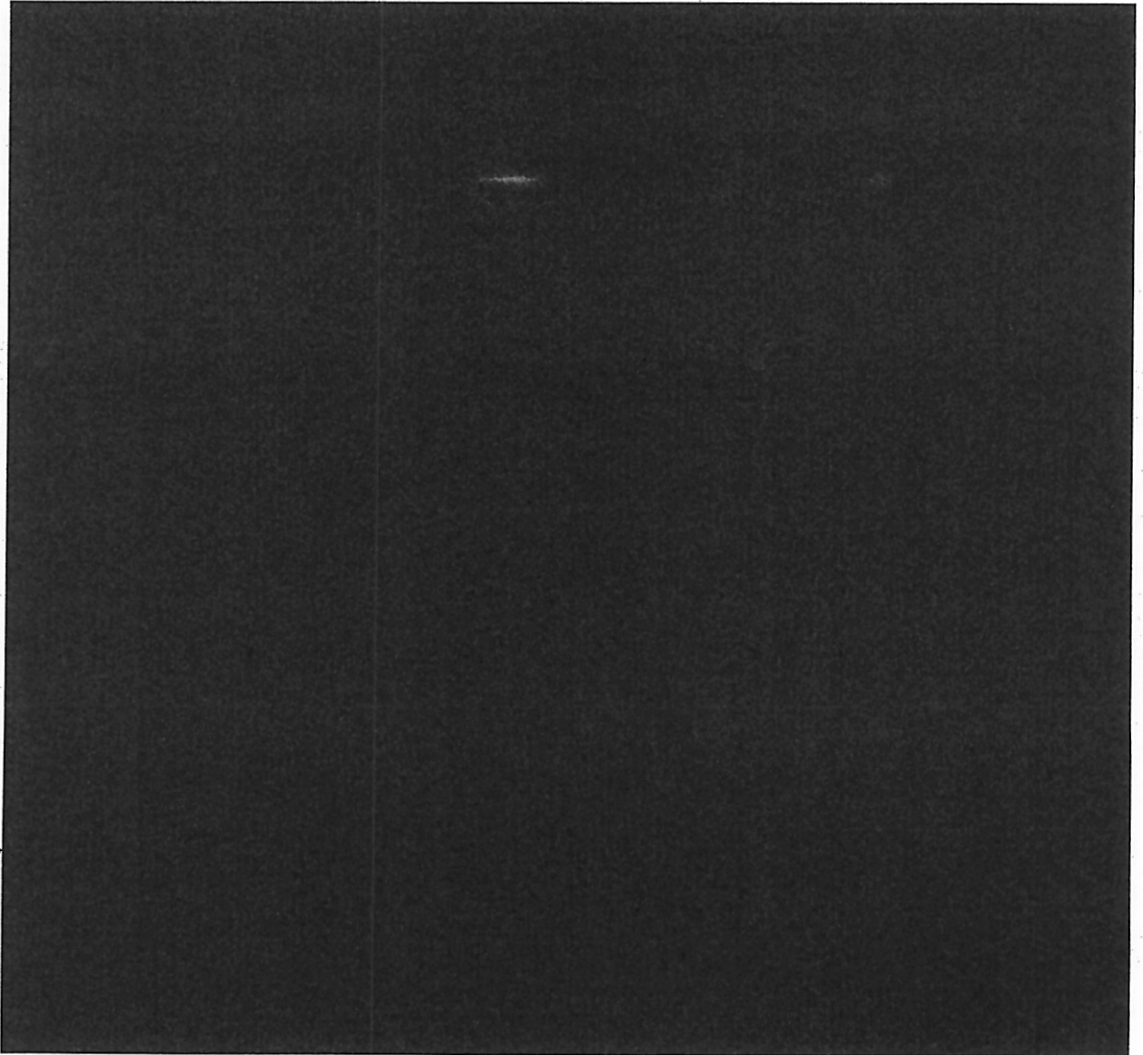
### 2 起案

#### (1) 起案 1

ア 事案の概要



イ 起案事項等



ウ

[Redacted]

(2) 起案 2

ア 事案の概要

[Redacted]

イ 起案事項等

[Redacted]

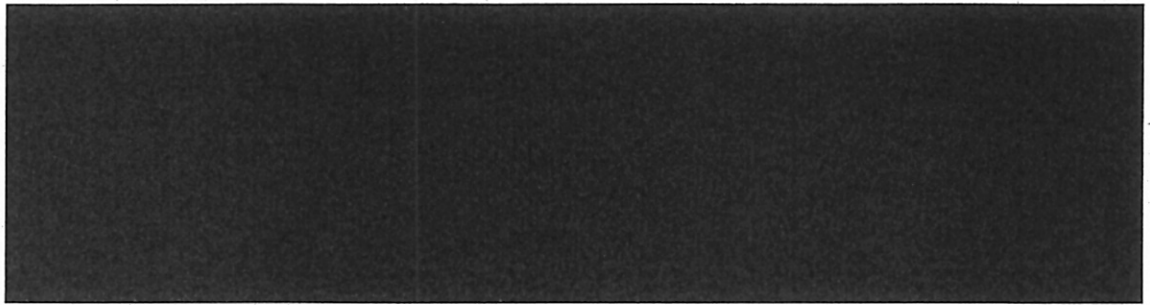
3 講義（契約）

(1) 実施の概要

[Redacted]

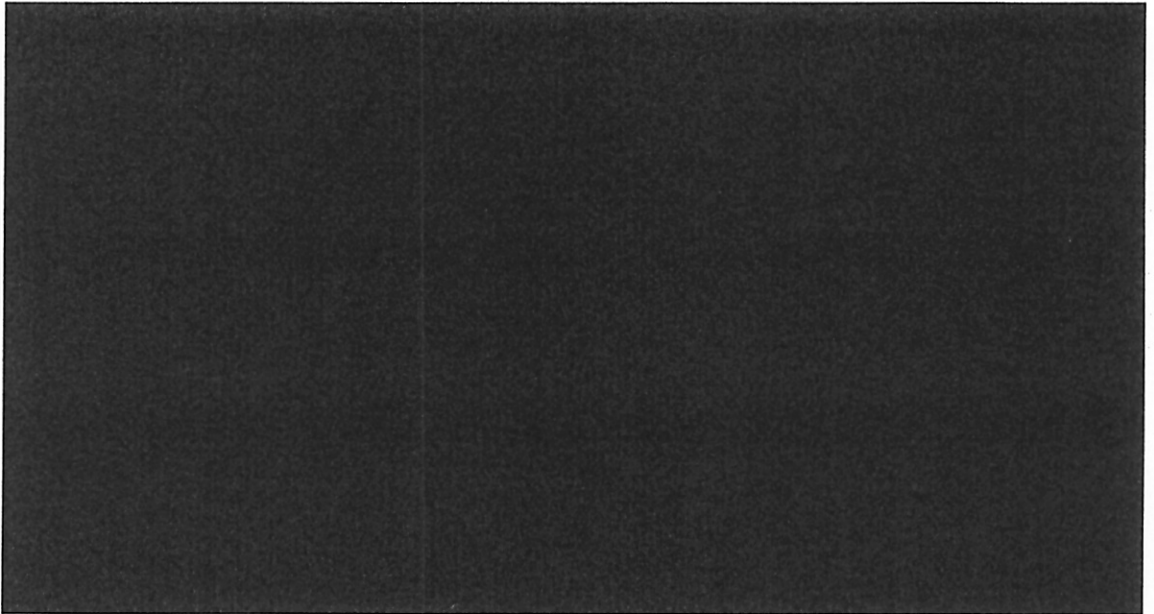
(2) 設問内容

[Redacted]



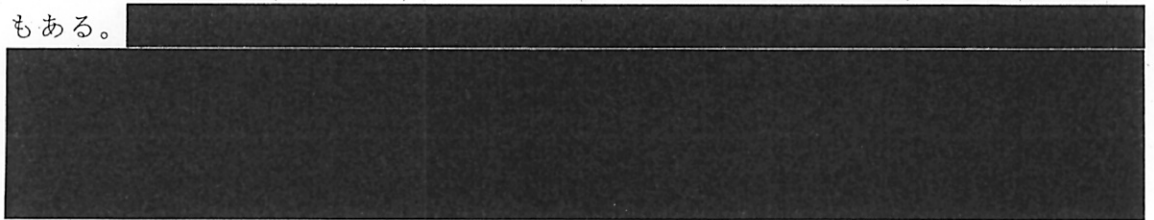
#### 4 演習（法律相談）

##### (1) 実施の概要



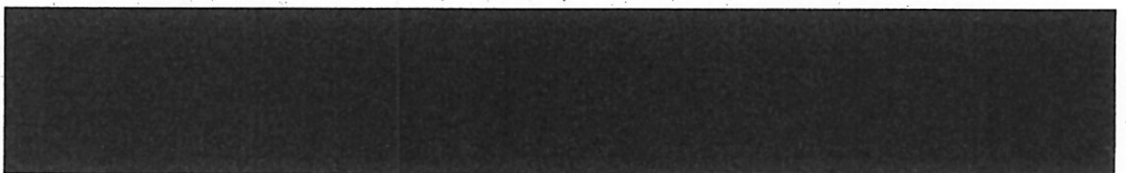
##### (2) 演習の目的

法律相談は、受任に先立つ行為として、受任の可否、事案解決の見込み、処理方針などを判断し、かつ、依頼者に対して、事案処理方針の説明、報酬等の説明をした上で、弁護士委任契約の締結などを行う重要なステージである。また、依頼者から適切に事案の本質を聴き出し、かつ、依頼者との信頼関係を醸成する重要な場でもある。



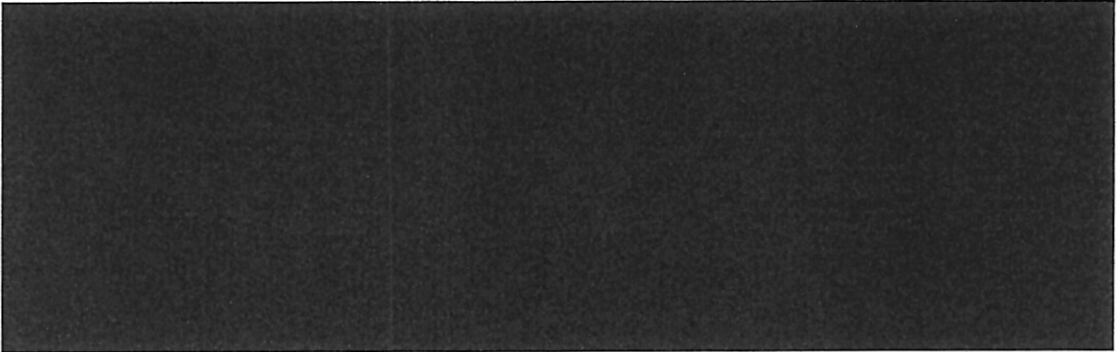
##### (3) 事案の概要

###### ア ケース1





イ ケース 2

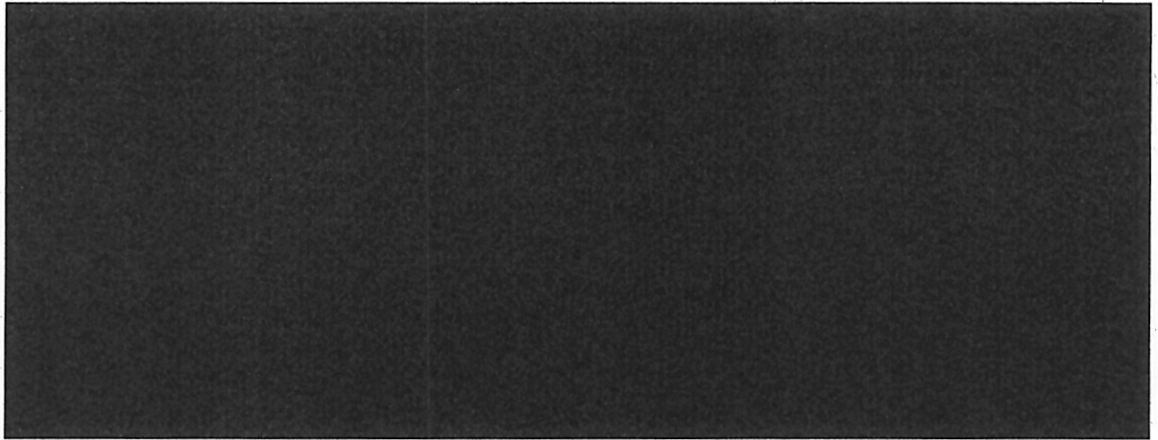


### Ⅲ 民事共通

民事共通演習 1 から 3 まで

#### 1 総説

##### (1) 趣旨及び全体像



##### (2) 事案の概要



#### 2 民事共通演習 1

##### (1) 課題等



##### (2) 講評



#### 3 民事共通演習 2

##### (1) 課題等

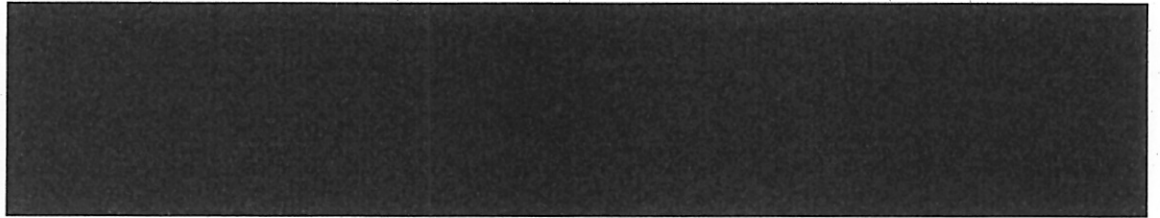


(2) 講評等



4 民事共通演習 3

(1) 課題等



(2) 講評等

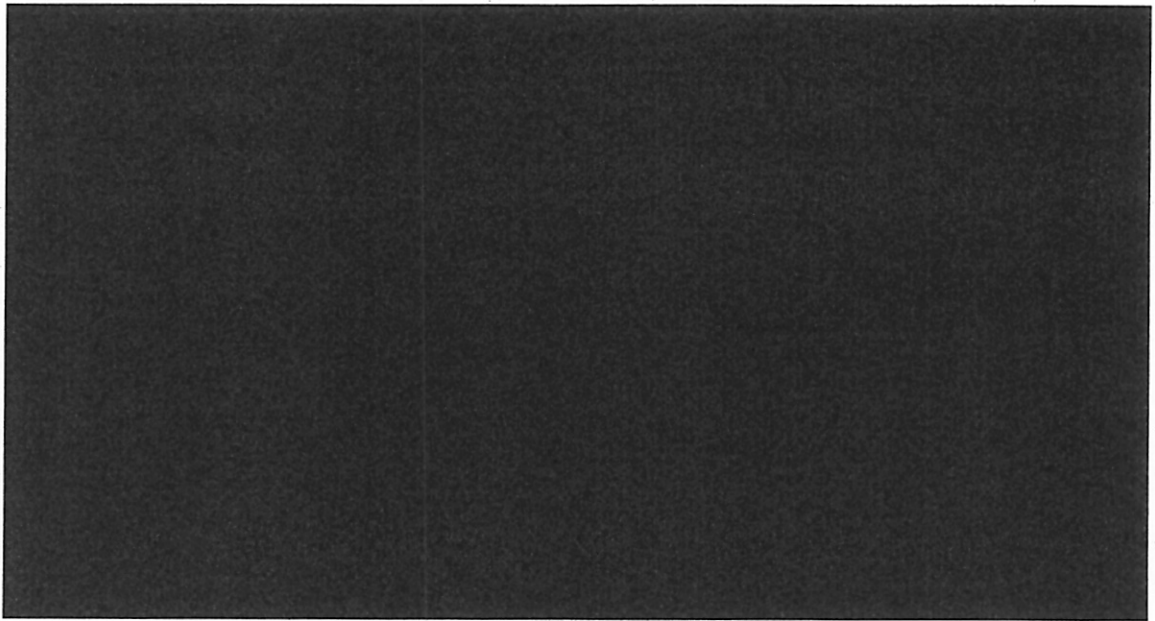


## 第2 刑事関係科目

### I 刑事裁判

#### 1 起案

##### (1) 総説



なお、いずれの設問についても、書式、形式等を要求するものではないし、単なる知識を問うものでもなく、新司法修習における指導理念に対応した、法曹としての活動に共通して必要となる汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いて出題している。

##### (2) 起案1

###### ア 事案の概要



###### イ 起案事項



[Redacted]

ウ 講評

[Redacted]

(3) 起案 2

ア 事案の概要

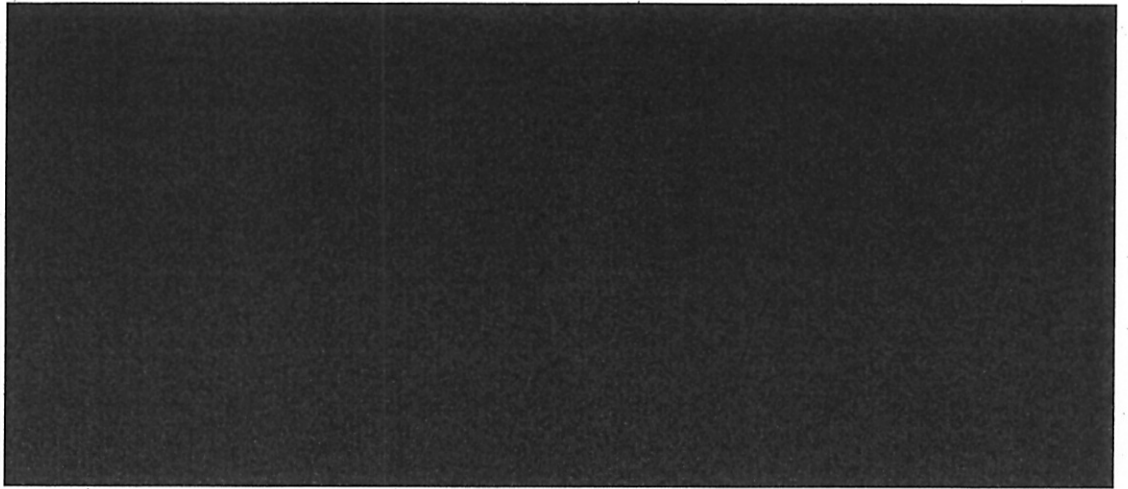
[Redacted]

イ 起案事項

[Redacted]

ウ 講評

[Redacted]

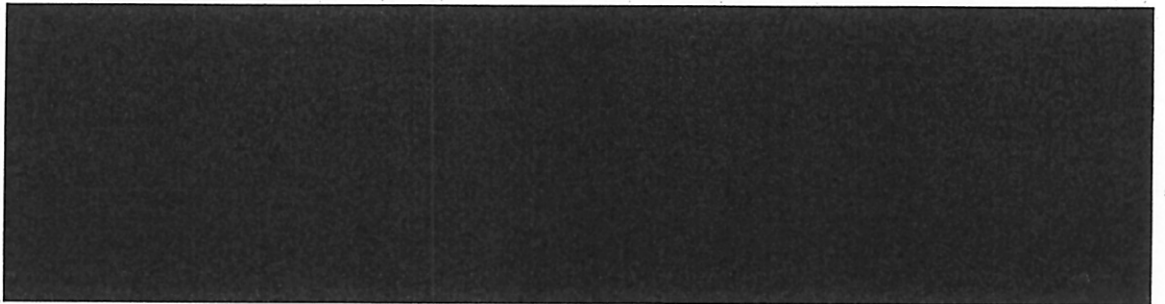


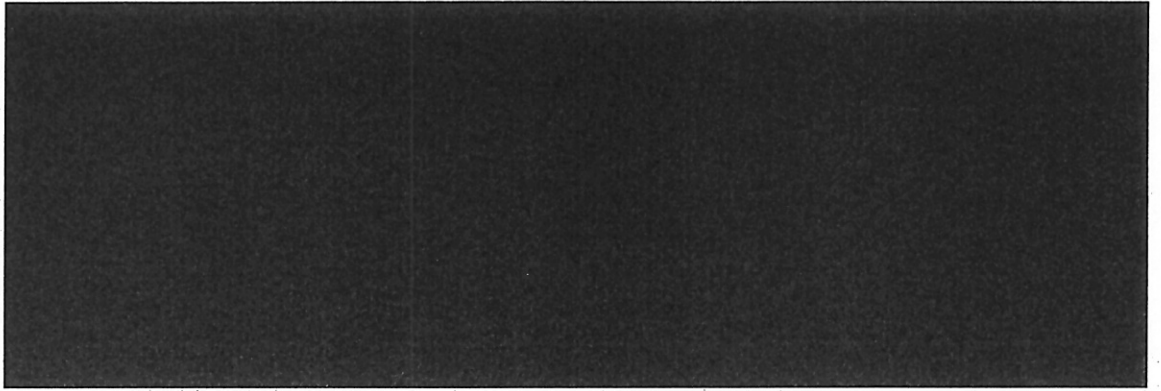
2 問題研究

(1) 指導目標



(2) 実施内容





## Ⅱ 検 察

### 1 起案

#### (1) 検察起案の概要

[Redacted]

司法修習における指導理念に対応し、法曹としての汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いた出題である。

[Redacted]

#### (2) 起案 1

##### ア 事案の概要

[Redacted]

##### イ 起案事項等

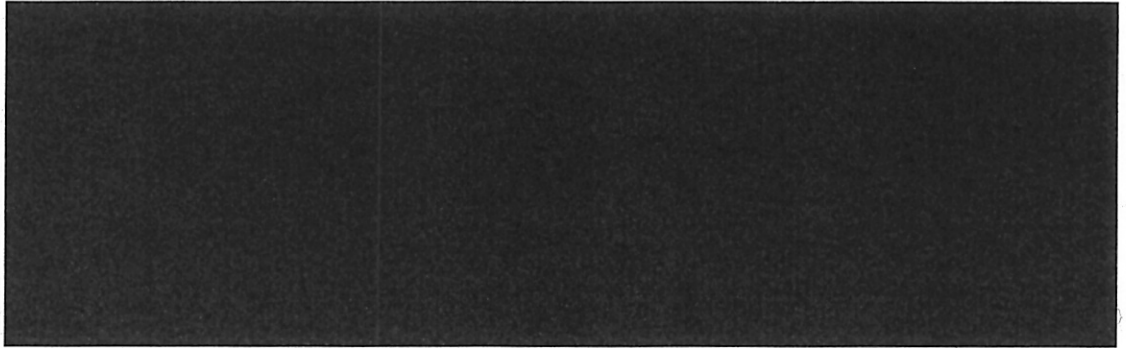
[Redacted]

##### ウ 講評

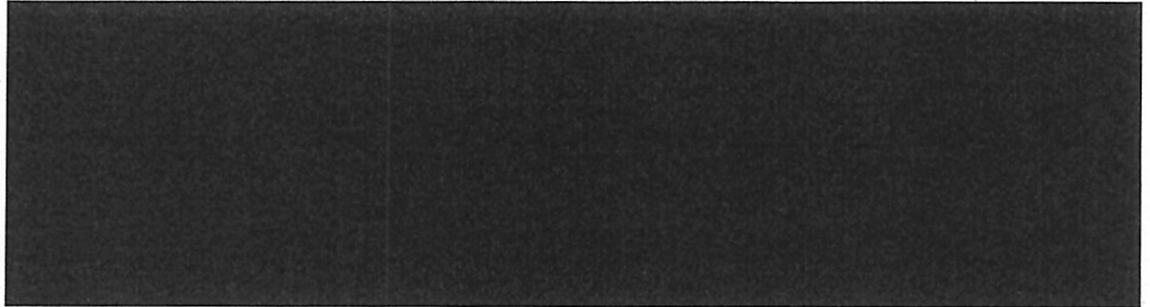
[Redacted]

#### (3) 起案 2

ア 事案の概要



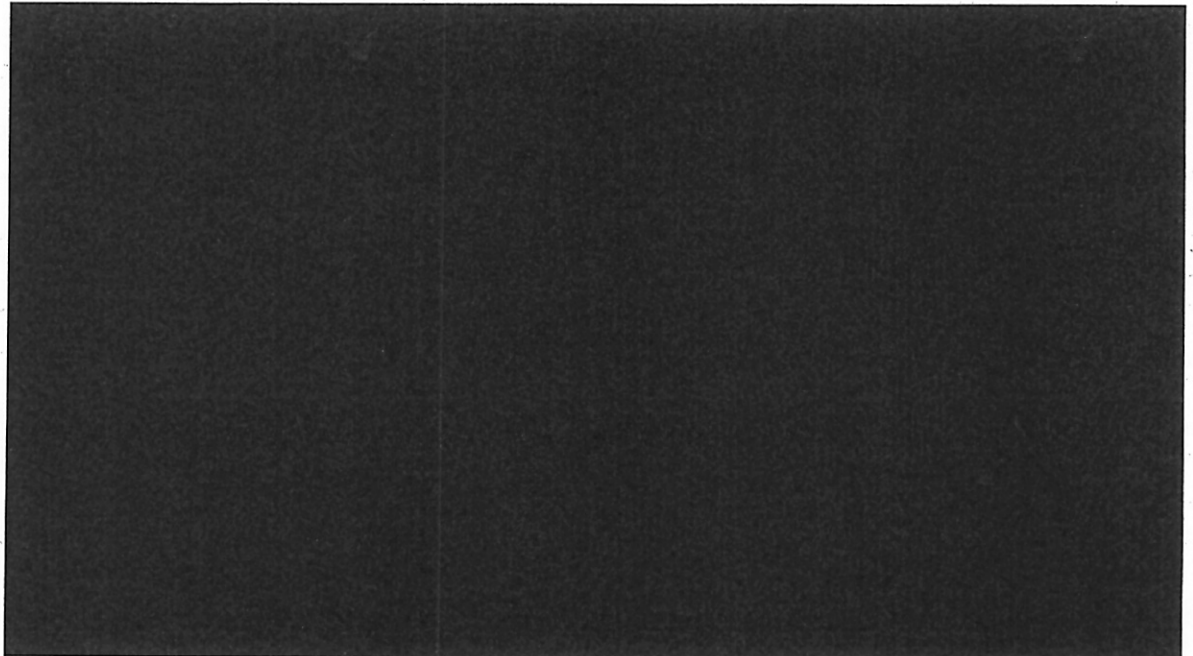
イ 起案事項等



ウ 講評



2 問題研究（被害者保護）

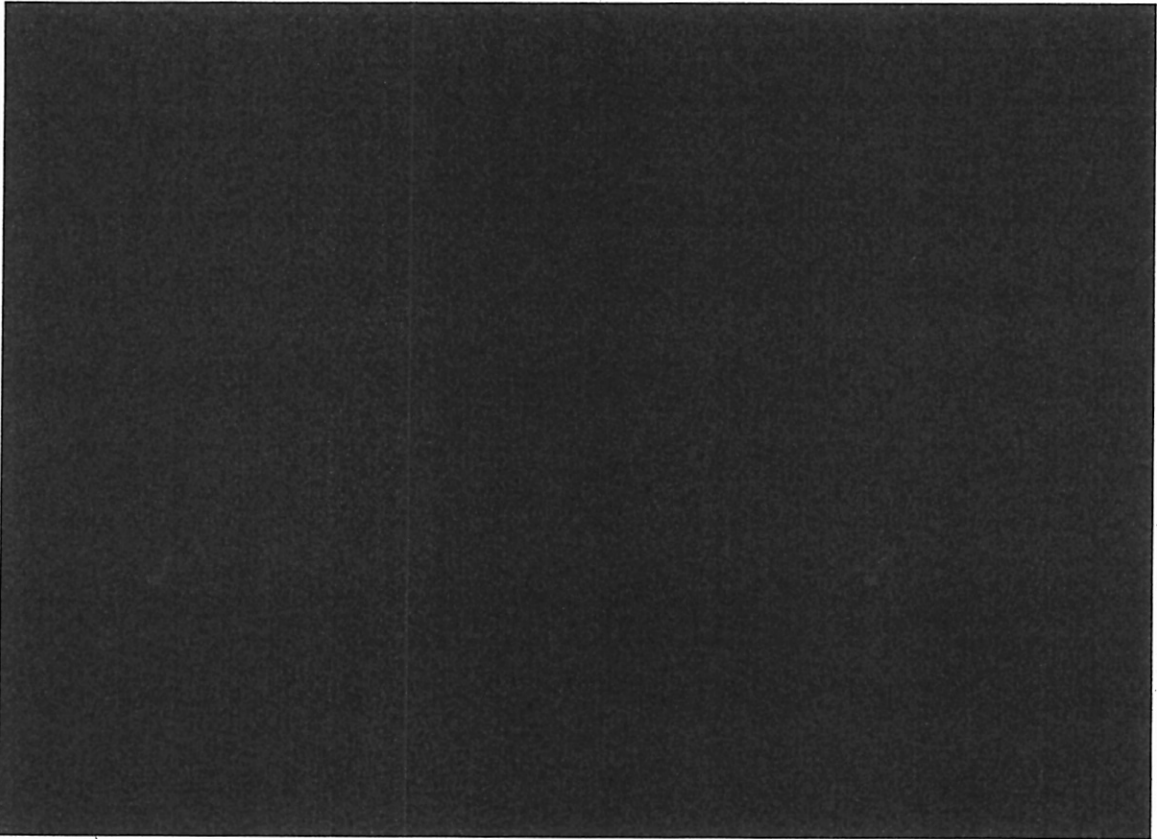


### Ⅲ 刑事弁護

#### 1 起案

##### (1) 総説

刑事弁護教官室は、修習生に対して、具体的な刑事事件に基づきケース・セオリー（弁護人の求める結論が正しいことを導く論拠）を確立する弁護活動の基本を指導し、弁護人が行うべき最善の努力を尽くした活動とは何かを考えさせることにより、弁護人としての基本的な能力・技術、さらには、法曹の活動に共通して必要とされる基本的かつ汎用的な能力を修得させるとともに、法曹資格取得後の自己研鑽への意識付けをさせることを指導方針としている。



##### (2) 起案 1

###### ア 事案の概要

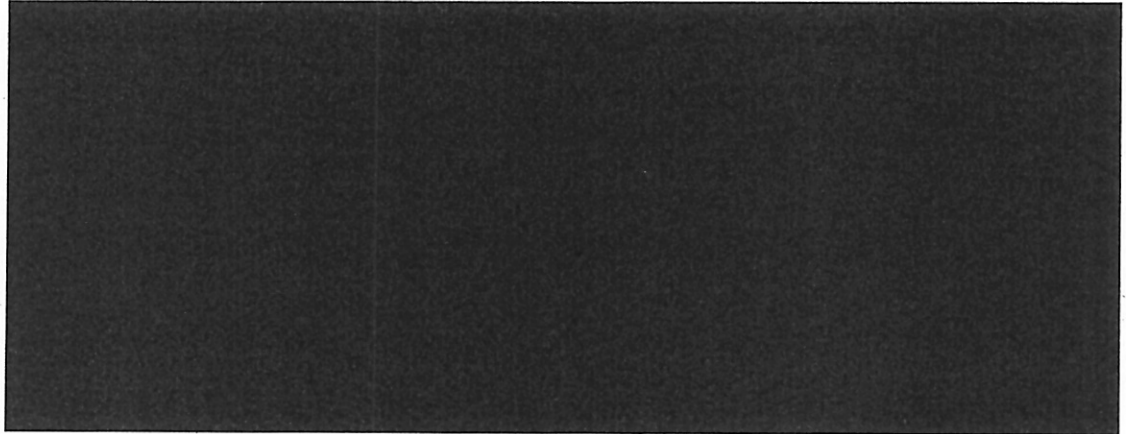


###### イ 起案事項





ウ 講評

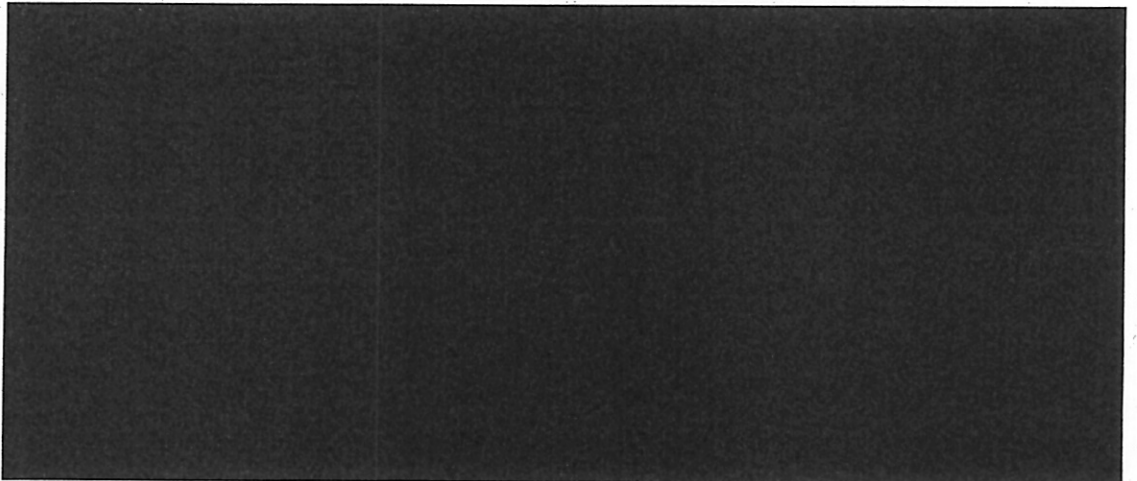


(3) 起案 2

ア 事案の概要

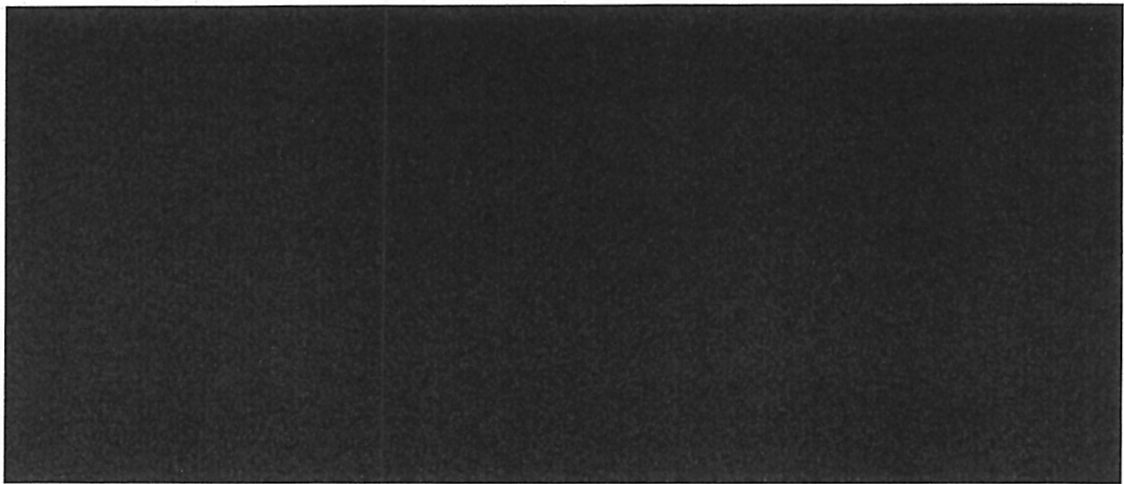


イ 起案事項



ウ 講評



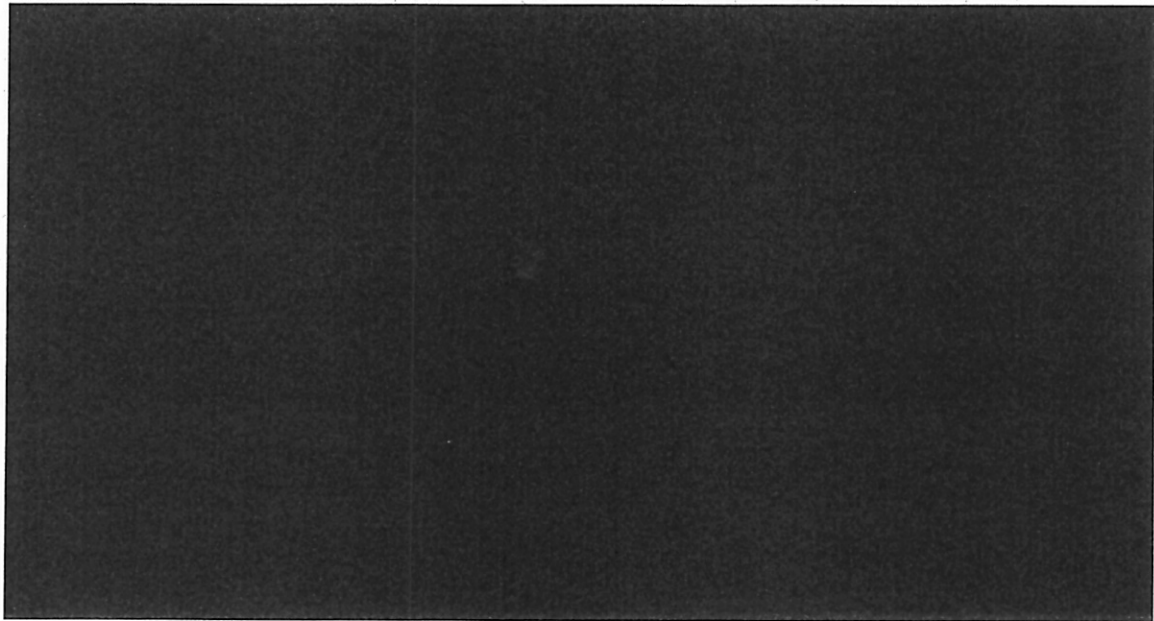


2 問題研究（取調べ対応，想定弁論）

(1) 指導目標



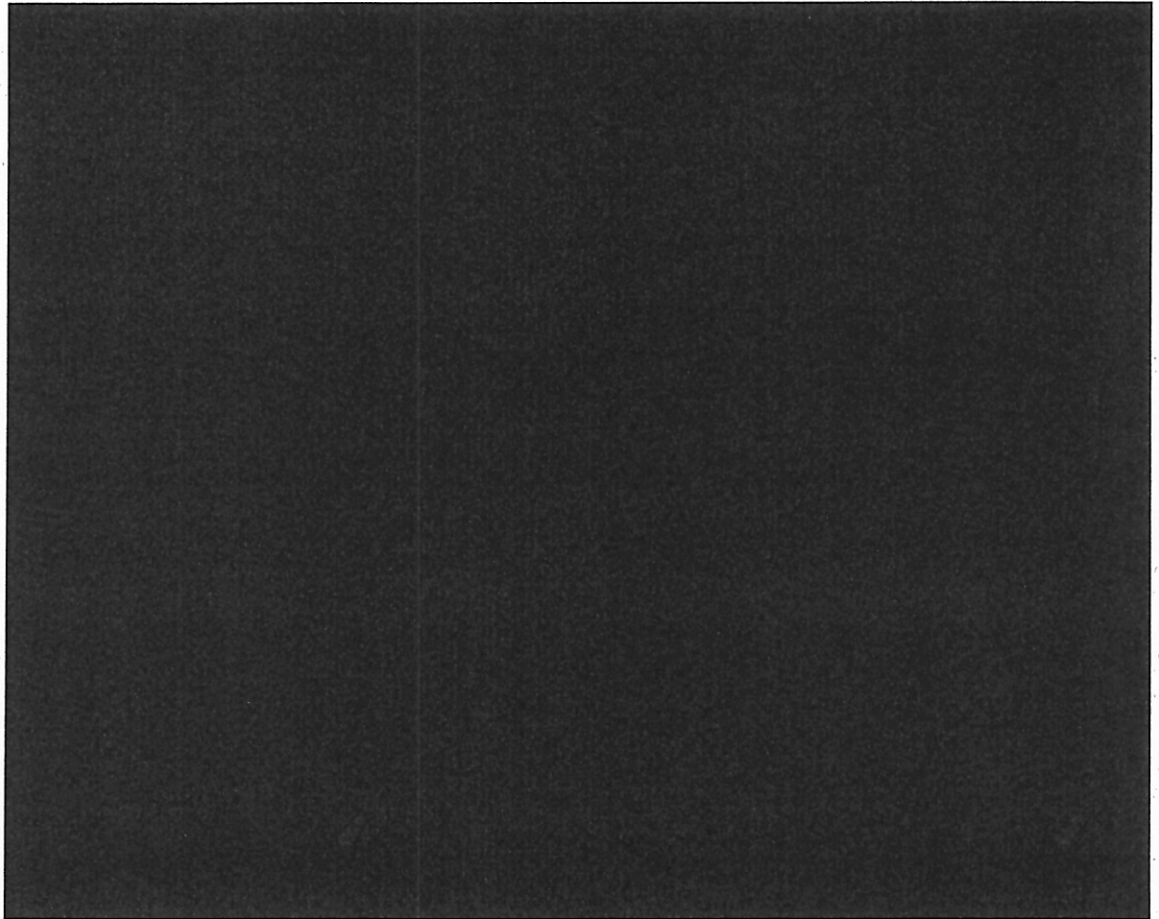
(2) 実施内容



#### IV 刑事共通

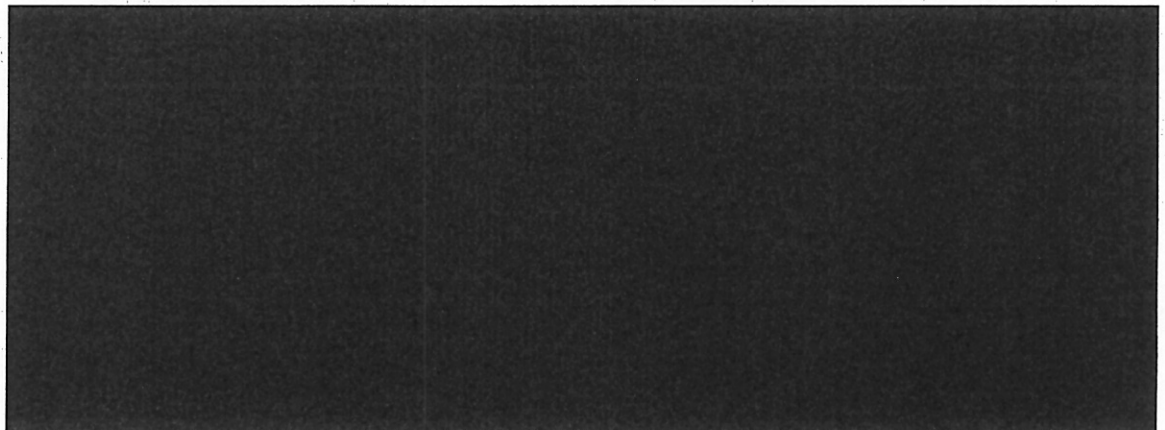
##### 1 刑事共通演習

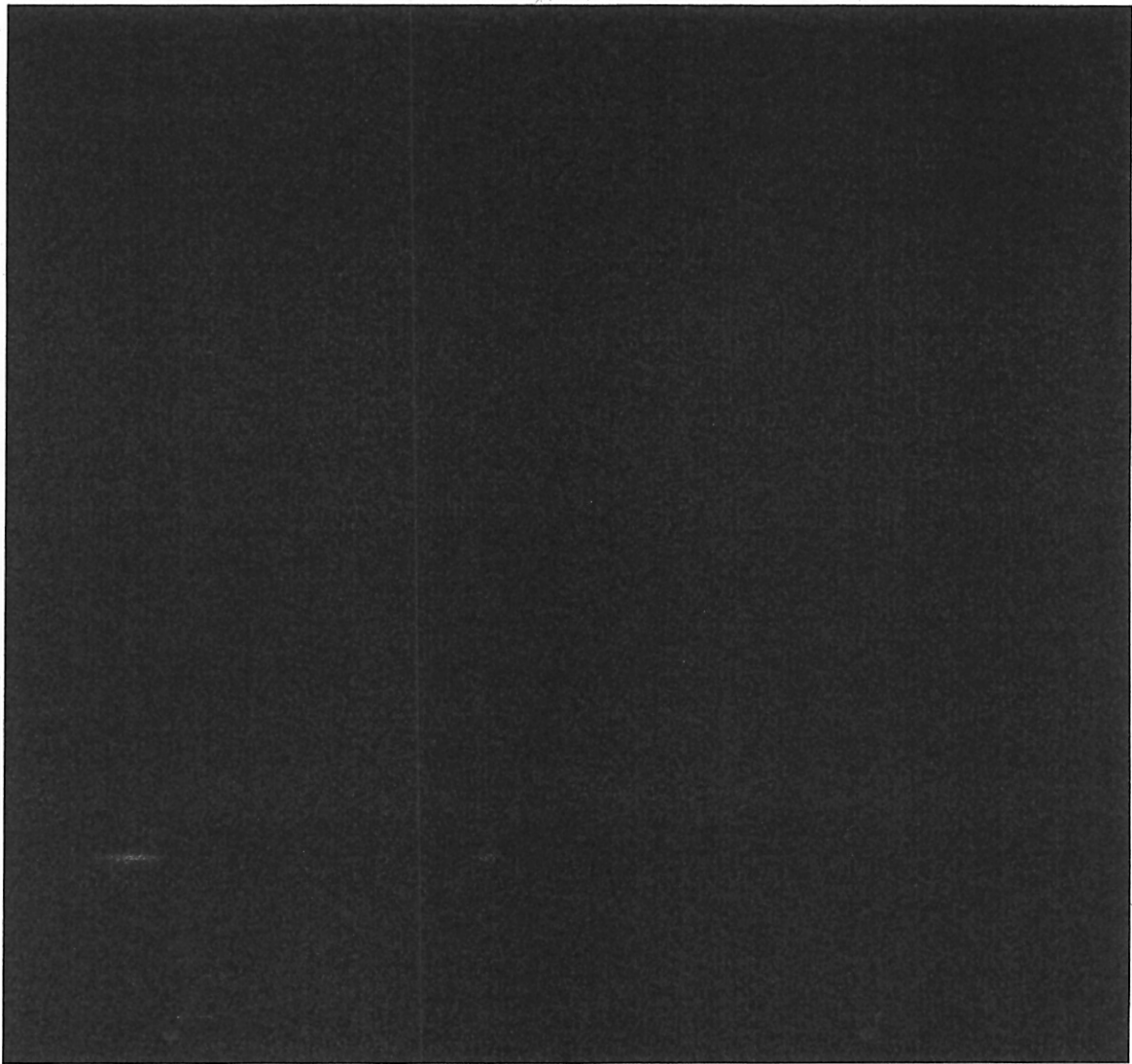
###### (1) 指導目標



これらの演習を通じ、的確な争点整理を行う上での必要な視点を提供し、これにより、法曹としての活動に共通して必要とされる汎用性のある基礎的な能力を修得させるよう努めた。

###### (2) 実施内容





2 刑事共通問題研究

(1) 指導目標



(2) 実施内容



### 第3 その他の共通科目等

#### I 全科目共通

特別講義「国際人権法の形成と実施」

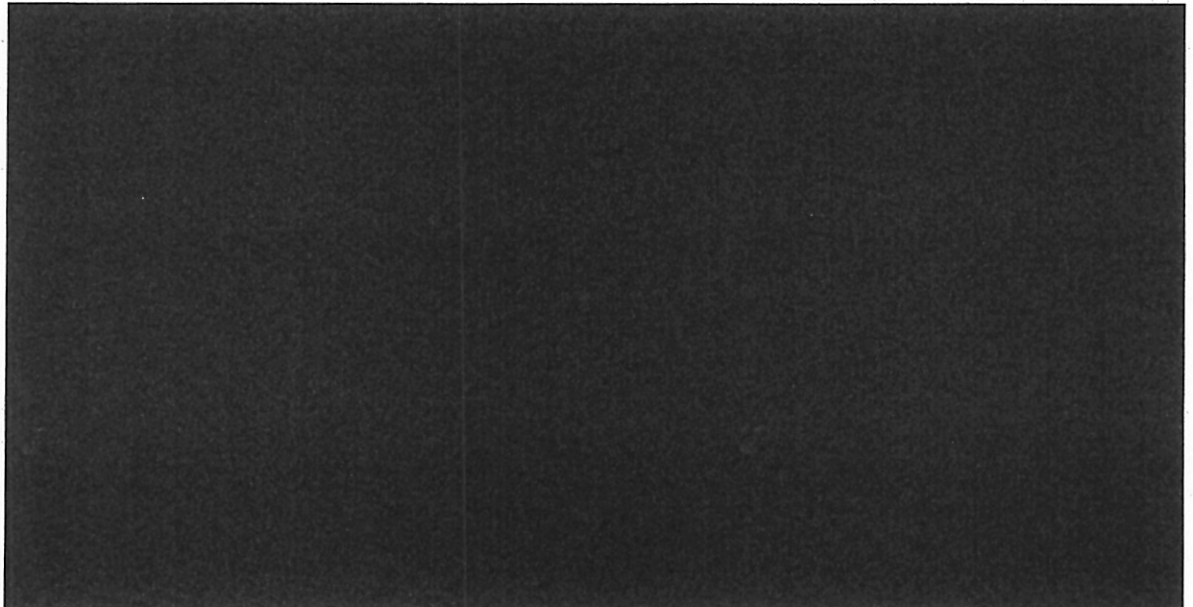
講師 弁護士（第一東京弁護士会） 上柳敏郎氏

国際人権については、その重要性に鑑み、各期において全科目共通特別講義という形式で国際人権全般にわたって講演を行ってきた。

第73期においても、同様の趣旨に基づき、講師が、国際人権の重要性や、国際人権法の国内的・国際的实施、国際NGOの活動等について、講演を行った。

#### II 弁護共通

演習「弁護士倫理」



令和元年度（第73期）司法修習生

## B班 集合修習日程予定表

(注) 本表は予定であって、確定日程ではない。

月/日	曜	1限目 (9:50~11:40)	2限目 (12:40~14:30)	3限目 (14:45~16:35)	4限目 (3.5コマの日あり)	16	月	自由研究日
	19 月	民弁演習(法律相談)		刑共演習(証拠開示等)		17	火	自由研究日
	20 火	刑共演習(争点整理等)				18	水	自由研究日
	21 水	刑共演習(尋問)				19	木	考試
	22 木	民裁起案1講評				20	金	考試
※	23 金	9:00~10:50 民弁講義(契約)	11:00~17:50 民共演習(2b, 2c, 2d)			23	月	勤労感謝の日
※	26 月	9:00~10:50 刑裁問題研究	11:00~15:50 刑弁起案1講評	16:00~17:50 刑共問題研究 (情状・量刑)		24	火	考試
	27 火	民裁起案2(即日)				25	水	考試
	28 水	検察起案1講評		刑裁起案1講評		26	木	考試
※	29 木	9:00~10:50 刑裁起案1講評	11:00~15:50 民弁起案1講評	16:00~17:50 検察問題研究 (被害者保護)				
	30 金	刑弁起案2(即日)						
月/日	曜	1限目 (9:50~11:40)	2限目 (12:40~14:30)	3限目 (14:45~16:35)		11/2	月	検察起案2(即日)
10/6	火	民弁講義		刑弁問題研究		3	火	文化の日
7	水	民弁問題研究1	民弁問題研究2			4	水	民弁起案2(即日)
8	木	民裁起案1(即日)				5	木	刑裁起案2(即日)
9	金	民共演習(1a, 1b)		弁共演習(弁護士倫理)		6	金	民共演習(2e)
				民裁演習(争点整理)				
12	月	刑弁起案1(即日)			※	9	月	9:00~13:50 民裁演習(争点整理)
								14:00~16:50 民共演習(2f) 1.5コマ
13	火	検察起案1(即日)			※	10	火	9:00~14:50 民共演習(3a, 3b) 2.5コマ
								15:00~16:50 全共特別講義
14	水	刑裁起案1(即日)				11	水	民裁起案2講評
15	木	民共演習(1c, 2a)		民弁問題研究3	※	12	木	9:00~13:50 刑弁起案2講評
								14:00~17:50 民弁起案2講評
16	金	民弁起案1(即日)			※	13	金	9:00~13:50 検察起案2講評
								14:00~17:50 刑裁起案2講評



※1日4コマとなる日

1限: 9:00~10:50

2限: 11:00~11:50 13:00~13:50

3限: 14:00~16:50

4限: 16:00~17:50

3.5コマとなる日は~16:50

## 第74期 修習日程

修習区分	A班			B班			
	修習期間		移動日	修習期間		移動日	
導入修習	開始日	3. 3. 31(水)		開始日	3. 3. 31(水)		
	終了日	3. 4. 23(金)		終了日	3. 4. 23(金)		
	実日数	18		実日数	18		
			3. 4. 24(土)～ 3. 4. 29(木)※6日			3. 4. 24(土)～ 3. 4. 29(木)※6日	
分野別実務修習	第1クール	開始日	3. 4. 30(金)		開始日	3. 4. 30(金)	
		終了日	3. 6. 24(木)		終了日	3. 6. 24(木)	
		実日数	37		実日数	37	
	第2クール	開始日	3. 6. 25(金)		開始日	3. 6. 25(金)	
		終了日	3. 8. 18(水)		終了日	3. 8. 18(水)	
		実日数	36		実日数	36	
	第3クール	開始日	3. 8. 19(木)		開始日	3. 8. 19(木)	
		終了日	3. 10. 13(水)		終了日	3. 10. 13(水)	
		実日数	38		実日数	38	
	第4クール	開始日	3. 10. 14(木)		開始日	3. 10. 14(木)	
		終了日	3. 12. 7(火)		終了日	3. 12. 7(火)	
		実日数	37		実日数	37	
	選択型実務修習及び集合修習			3. 12. 8(水)～ 3. 12. 12(日)※5日			
		集合修習 開始日	3. 12. 13(月)		選択型修習 開始日	3. 12. 8(水)	
		終了日	4. 1. 28(金)		終了日	4. 1. 27(木)	
		実日数	30		実日数	32	
		4. 1. 29(土)～ 4. 2. 1(火)※4日			4. 1. 28(金)～ 4. 2. 2(水)※6日		
選択型修習 開始日		4. 2. 2(水)		集合修習 開始日	4. 2. 3(木)		
終了日		4. 3. 18(金)		終了日	4. 3. 18(金)		
実日数		31		実日数	30		
自由研究日		4. 3. 22(火)		自由研究日	4. 3. 22(火)		

※ なお、A班の選択型実務修習及びB班の集合修習のカリキュラム終了後、5科目の筆記試験が行われる予定である。